SH-01C

取扱説明書　’10.12

docomo PRIME series

ドコモ W-CDMA・GSM／GPRS・無線LAN方式

このたびは、「docomo PRIME series SH-01C」をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。SH-01Cをご利用の前に、本書をご覧になり、正しくお取り扱いください。

SH-01Cの操作説明について

SH-01Cの操作は、本書のほかに、「使いかたガイド」（本FOMA端末に搭載）や「取扱説明書（詳細版）」（PDFファイル）で説明しています。

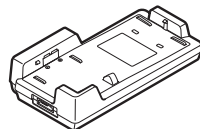
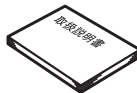
■「取扱説明書」（本書）
画面の表示内容や基本的な機能の操作について説明

■「使いかたガイド」（本FOMA端末に搭載）
よく使われる機能の概要や操作について説明
SH-01Cから　ノーマルメニューで［便利ツール］▶［使いかたガイド］▶項目を選ぶ

■「取扱説明書（詳細版）」（PDFファイル）
すべての機能の詳しい案内や操作について説明
パソコンから　ドコモのホームページでダウンロード
http://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html
※ 本書の最新情報もダウンロードできます。なお、URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

本体付属品

SH-01C本体
（保証書・リアカバー SH44含む）

電池パック
SH23

卓上ホルダ SH34

取扱説明書
（本書）

SH-01C用
CD-ROM

- 本FOMA端末に対応したオプション品については☞P.88

- 本書では、主にきせかえツールの設定が本体色「Black」の場合で説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。
- この『SH-01C取扱説明書』の本文中においては、「SH-01C」を「FOMA端末」と表記させていただいております。あらかじめご了承ください。
- FOMAカード（緑色・白色）をご利用のお客様は、本書内に記載している「ドコモUIMカード」は「FOMAカード」と読み替えてください。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関して、将来予告なしに変更することがあります。

目次

FOMA端末について

- FOMA端末は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かないところ、屋外でも電波の弱いところおよびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい場所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが3本表示されている状態で、移動せずに使用している場合でも通話が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- 公共の場所、人の多い場所や静かな場所などでは、まわりの方のご迷惑にならないようご使用ください。
- FOMA端末は電波を利用している関係上、第三者により通話を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、W-CDMA・GSM／GPRS方式では秘話機能をすべての通話について自動的にサポートしますので、第三者が受信機で傍受したとしても、ただの雑音としか聞きとれません。
- FOMA端末は音声をデジタル信号に変換して無線による通信を行っていることから、電波状態の悪いところへ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元できない場合には、実際の音声と異なって聞こえる場合があります。
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容(電話帳、スケジュール、メモ、伝言メモ、音声メモなど)は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。FOMA端末の故障や修理、機種変更やその他の取り扱いなどによって、万が一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 大切なデータはmicroSDカードに保存することをおすすめします。また、パソコンをお持ちの場合は、ドコモケータイdatalinkを利用して電話帳やメール、スケジュールなどの情報をパソコンに転送・保管できます。
- お客様はSSL／TLSをご自身の判断と責任においてご利用することを承諾するものとします。お客様によるSSL／TLSのご利用にあたり、ドコモおよび別掲の認証会社はお客様に対しSSL／TLSの安全性などに関し何ら保証を行うものではなく、万が一何らかの損害が発生したとしても一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

  認証会社：日本ベリサイン株式会社、
  サイバートラスト株式会社、
  GMOグローバルサイン株式会社、
  RSAセキュリティ株式会社、
  セコムトラストシステムズ株式会社、
  株式会社コモドジャパン、Entrust, Inc.、Go Daddy, Inc.
- このFOMA端末は、FOMAプラスエリアおよびFOMAハイスピードエリアに対応しております。
- このFOMA端末は、ドコモの提供するFOMAネットワークおよびドコモのローミングサービスエリア以外ではご使用になれません。
  The FOMA terminal can be used only via the FOMA network provided by DOCOMO and DOCOMO's roaming area.

SH-01Cでできること

ｉコンシェル☞P.75

執事やコンシェルジュのように、お客様の生活をサポートするサービスです。お客様のさまざまなデータ（お住まいのエリア情報、メモ、スケジュール、トルカ、電話帳など）をお預かりし、メモやスケジュールの内容、生活エリアやお客様の居場所、趣味嗜好にあわせた情報を適切なタイミングでお届けします。

使いかたガイド☞P.34

使いたい機能の操作方法をFOMA端末で確認できる便利な機能です。手元に取扱説明書がなくても、すぐに調べられます。

オートGPS☞P.62

オートGPS機能により、お客様の居場所付近の天気情報やお店などの周辺情報、観光情報などをお知らせする便利なサービスをご利用いただけます。

音声クイック起動☞P.34

利用したい機能のキーワードを話しかけるだけで、機能を起動させることができます。使いたい機能がメニューのどこにあるのかわからないときや、すぐに起動させたいときに便利です。

Wi-Fi☞P.77

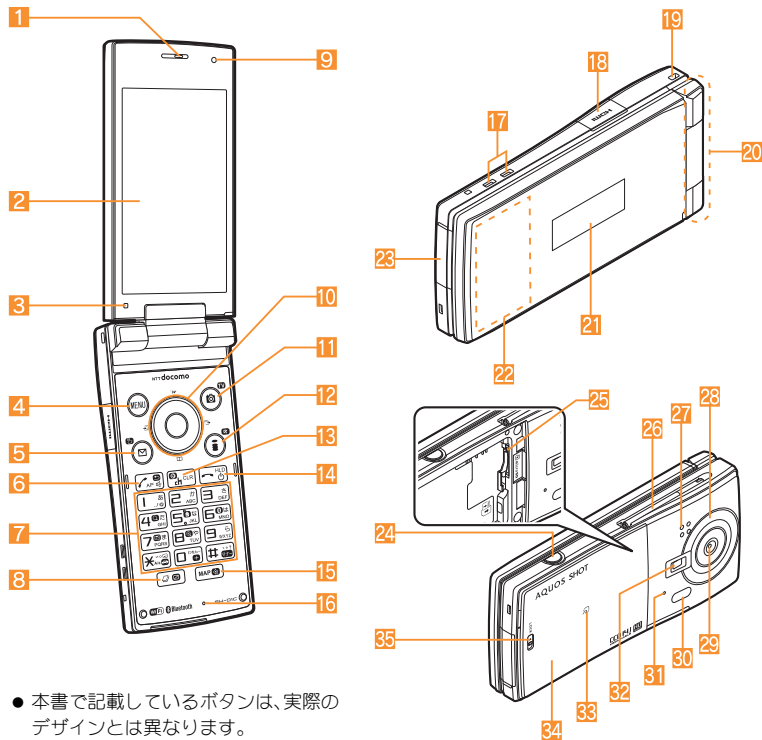
ご家庭のアクセスポイントや公衆無線LANサービスなどに接続したり、FOMA端末をアクセスポイント（親機）にしてWi-Fi対応機器を接続したりできます。

防水／防塵性能☞P.18

防水性能および防塵性能を有しています。
雨の中や風呂場、プールサイドなどで通話やワンセグ視聴ができます。また、FOMA端末に付着した汚れを、水道水で洗い流すことができます。

高機能カメラ☞P.63

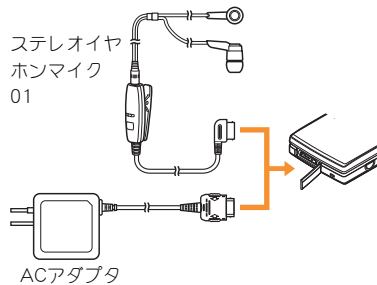
有効画素数約1410万画素（記録画素数：約1400万画素）の高機能カメラを搭載しています。

各部の名称と機能

● 本書で記載しているボタンは、実際のデザインとは異なります。

イヤホンのご利用について

別売りの外部接続端子対応のイヤホンを接続してください。
なお、外部接続端子に非対応のイヤホンをご利用になる場合には、別売りの変換アダプタを接続してご利用ください。

外部接続端子用ステレオイヤホンマイク 01(別売)接続例

ACアダプタ(充電)およびステレオイヤホンマイク 01(イヤホンマイク端子)の差込口が共通になっております。

1 受話口
2 メインディスプレイ/タッチパネル(☞P.28、P.33)
3 明るさセンサー
- 周りの明るさを検知します。
- センサー部分を手で覆ったり、シールなどを貼らないでください。

4 MENU:MENU/操作ガイダンス用ボタン(☞P.32、P.39)
5 ✉:メール/操作ガイダンス用ボタン(☞P.32、P.52)
6 ☎:開始/ハンズフリーボタン(☞P.46)
7 1~9、*、0、#:ダイヤル/文字入力ボタン
8 MULTI:MULTI/ベールビューボタン(☞P.39)
9 サブカメラ
- 自分を撮影するときに使用します。

10 ◎◉:マルチガイドボタン(☞P.32)
11 📷:カメラ/TV/操作ガイダンス用ボタン(☞P.32、P.63、P.67)
12 i(iα):iモード/操作ガイダンス用ボタン(☞P.32、P.57)
13 CLR(ch):iチャネル/クリアボタン(☞P.60)
- チャネル一覧を表示します。
- 1つ前の画面に戻します。

14 ⏻:電源/終了ボタン(☞P.27)
- 電源を入れる/切るときに2秒以上押します。
- 起動中の機能を終了して待受画面に戻します。

15 MAP:MAP/GPSボタン
- GPS対応iアプリを起動します。
- 自分の現在地を確認できます。

16 送話口/マイク
17 充電端子(☞P.25)
- 付属の卓上ホルダで充電するための端子です。

18 HDMI端子(type D)
- 市販のHDMIケーブル接続時に使用する端子です。

19 ストラップ取り付け口
20 FOMAアンテナ
- FOMAアンテナが内蔵されています。

21 サブディスプレイ(☞P.31)
22 着信/充電ランプ
- 着信時などに点滅します。
- 充電中に点灯します。

23 外部接続端子
- 充電時およびイヤホンマイク接続時などに使用する統合端子です。

24 D:サイドボタン
- 静止画や動画を撮影するときに使用します。

25 microSDカードスロット(☞P.80)
26 ワンセグアンテナ
- ワンセグを受信するときに使用します。

27 スピーカ
28 撮影ランプ
- カメラ起動中に点灯します。

29 メインカメラ
- 静止画や動画を撮影するときに使用します。

30 赤外線ポート(☞P.81)
31 撮影用アウトマイク
32 ピクチャーライト
- カメラ起動中/撮影中に点灯します。

33 ⓕマーク(☞P.74、P.81)
34 リアカバー(☞P.19)
- リアカバーの裏側に、無線対策のためのシールが貼られています。このシールをはがさないでください。

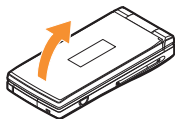
35 リアカバーのレバー(☞P.19)

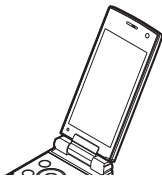
ビューアポジションについて

FOMA端末を利用するときは、FOMA端末を開くか（通常ポジション）、ビューアポジションにします。

- 通常ポジションで機能を利用中にビューアポジションにした場合、引き続きタッチパネルで操作を継続できます。

ビューアポジション

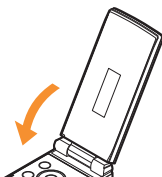
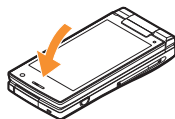
1

両手で持って軽く開く。

2

3

ディスプレイを右回りに180度回転させる。

4

ディスプレイを手前に倒す。

5

- FOMA端末のディスプレイを回転させるときは、次の点にご注意ください。
  - ■ ディスプレイ側をボタン面などに当てないようにしてください。ボタン面を傷つけたり破損する場合があります（図「ディスプレイ回転時のご注意」）。
  - ■ 左回りに回転させたり180度以上回転させないでください。

ビューアポジションにしたときの動作を設定する

待受画面表示中にビューアポジションにしたときの動作を設定できます。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[待受画面設定]▶[待受時回転連動設定]

2 設定を選ぶ

安全上のご注意（必ずお守りください）

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
  また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

表示	内容
⚠ 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合、および、物的損害の発生が想定される」内容です。

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

絵表示	内容
禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。

絵表示	内容
指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

「安全上のご注意」は、下記の 6 項目に分けて説明しています。

FOMA端末・電池パック・アダプタ・卓上ホルダ・ドコモUIMカードの取り扱いについて(共通)

危険

禁止

高温になる場所(火のそば、暖房器具のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、放置しないでください。

火災、やけど、けがの原因となります。

禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に入れないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

分解禁止

分解、改造をしないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

水濡れ禁止

水や飲料水、ペットの尿などで濡らさないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。
防水性能については下記をご参照ください。
☞P.18「防水/防塵性能」

指示

FOMA端末に使用する電池パックおよびアダプタは、NTTドコモが指定したものを使用してください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

警告

禁止

強い力や衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

充電端子や外部接続端子に導電性異物(金属片、鉛筆の芯など)を接触させないでください。また、内部に入れないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。

火災、やけどの原因となります。

指示

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する場所に立ち入る場合は必ず事前にFOMA端末の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。

ガスに引火する恐れがあります。
ガソリンスタンド構内などでおサイフケータイをご使用になる際は必ず事前に電源を切った状態で使用してください(ICカードロックを設定されている場合にはロックを解除した上で電源をお切りください)。

指示

使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、直ちに次の作業を行ってください。

- 電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜く。
- FOMA端末の電源を切る。
- 電池パックをFOMA端末から取り外す。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

注意

禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。

落下して、けがの原因となります。

禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。

けがなどの原因となります。

指示

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となったりします。

FOMA端末をアダプタに接続した状態で長時間連続使用される場合には特にご注意ください。

充電しながらｉアプリやテレビ電話、ワンセグ視聴などを長時間行うとFOMA端末や電池パック・アダプタの温度が高くなることがあります。
温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどの原因となる恐れがあります。

FOMA端末の取り扱いについて

⚠警告

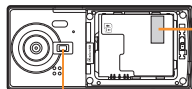
赤外線ポートを目に向けて送信しないでください。

目に悪影響を及ぼす原因となります。

赤外線通信使用時に、赤外線ポートを赤外線装置のついた家電製品などに向けて操作しないでください。

赤外線装置の誤動作により、事故の原因となります。

ピクチャーライトの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。

視力障害の原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。
注意事項：
当製品に使用されているピクチャーライト光源LEDは、指定されていない調整などの操作を意図的に行った場合、眼の安全性を超える光量を放出する可能性がありますので分解しないでください。

ピクチャーライト

FOMA端末内のドコモUIMカードやmicroSDカード挿入口に水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

自動車などの運転者に向けてライトを点灯しないでください。

運転の妨げとなり、事故の原因となります。

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、FOMA端末の電源を切ってください。

電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。また、自動的に電源が入る機能を設定している場合は、設定を解除してから電源を切ってください。
医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。
また、航空機内での使用などの禁止行為をした場合、法令により罰せられます。

ハンズフリーに設定して通話する際や、着信音が鳴っているときなどは、必ずFOMA端末を耳から離してください。
また、イヤホンマイクなどをFOMA端末に装着し、ゲームや音楽再生などをする場合は、適度なボリュームに調節してください。

音量が大きすぎると難聴の原因となります。
また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。

Earphone Signal Level
The maximum output voltage for the music player function, measured in accordance with EN 50332-2, is 28.0 mV.

心臓の弱い方は、着信バイブレータ（振動）や着信音量の設定に注意してください。

心臓に悪影響を及ぼす原因となります。

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。

医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、FOMA端末の電源を切ってください。

電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。

ご注意いただきたい電子機器の例

補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出したFOMA端末の内部にご注意ください。

ディスプレイ部やカメラのレンズの表面には、プラスチックパネルを使用しガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となります。

⚠注意

アンテナ、ストラップなどを持ってFOMA端末を振り回さないでください。

本人や他の人に当たり、けがなどの事故の原因となります。

FOMA端末が破損したまま使用しないでください。

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

モーショントラッキングやモーションセンサーのご使用にあたっては、必ず周囲の安全を確認し、FOMA端末をしっかりと握り、必要以上に振り回さないでください。

けがなどの事故の原因となります。

誤ってディスプレイを破損し、液晶など内部の物質が漏れた場合には、顔や手などの皮膚につけないでください。

失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。

液晶など内部の物質が目や口に入った場合には、すぐにきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。

また、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにアルコールなどで拭き取り、石鹸で水洗いしてください。

自動車内で使用する場合、自動車メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。

車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

各箇所の材質について☞P.13「材質一覧」

FOMA端末を開閉する際は、指やストラップなどを挟まないようご注意ください。

けがなどの事故の原因となります。

ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、画面からある程度の距離をとってご使用ください。

視力低下の原因となります。

電池パックの取り扱いについて

電池パックのラベルに記載されている表示により、電池の種類をご確認ください。

表　示	電池の種類
Li-ion00	リチウムイオン電池

⚠危険

端子に針金などの金属類を接触させないでください。また、金属製ネックレスなどと一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

電池パックをFOMA端末に取り付けるときは、電池パックの向きを確かめ、うまく取り付けできない場合は、無理に取り付けないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

禁止

火の中に投下しないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

禁止

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

指示

電池パック内部の液体などが目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

失明の原因となります。

⚠警告

禁止

落下による変形や傷などの異常が見られた場合は、絶対に使用しないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

指示

電池パックが漏液したり、異臭がするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。

漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

指示

ペットが電池パックに噛みつかないようご注意ください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

⚠注意

禁止

一般のゴミと一緒に捨てないでください。

発火、環境破壊の原因となります。不要となった電池パックは、端子にテープなどを貼り、絶縁してからドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

禁止

濡れた電池パックを使用したり充電したりしないでください。

電池パックの発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

指示

電池パック内部の液体などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚につけないでください。

失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。

液体などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。

また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診断を受けてください。

アダプタ・卓上ホルダの取り扱いについて

⚠警告

禁止

アダプタのコードが傷んだら使用しないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

ACアダプタや卓上ホルダは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

DCアダプタはマイナスアース車専用です。プラスアース車には使用しないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

雷が鳴り出したら、アダプタには触れないでください。

感電の原因となります。

禁止

コンセントやシガーライターソケットにつながれた状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

アダプタのコードの上に重いものをのせないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

禁止

コンセントにACアダプタを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

濡れ手禁止

濡れた手でアダプタのコード、卓上ホルダ、コンセントに触れないでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

指示

指定の電源、電圧で使用してください。
また、海外で充電する場合は、海外で使用可能なACアダプタで充電してください。

誤った電圧で使用すると火災、やけど、感電の原因となります。
ACアダプタ：AC100V
DCアダプタ：DC12V・24V（マイナスアース車専用）
海外で使用可能なACアダプタ：AC100V～240V（家庭用交流コンセントのみに接続すること）

指示

DCアダプタのヒューズが万が一切れた場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。

火災、やけど、感電の原因となります。指定ヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。

指示

電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。

火災、やけど、感電の原因となります。

指示

ACアダプタをコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。

火災、やけど、感電の原因となります。

指示

アダプタをコンセントやシガーライターソケットから抜く場合は、アダプタのコードを無理に引っ張らず、電源プラグを持って抜いてください。

火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く

長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いてください。

火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く

万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントやシガーライターソケットから電源プラグを抜いてください。

火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く

お手入れの際は、電源プラグをコンセントやシガーライターソケットから抜いて行ってください。

火災、やけど、感電の原因となります。

ドコモUIMカードの取り扱いについて

⚠注意

指示

ドコモUIMカードを取り外す際は切断面にご注意ください。

けがの原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

本記載の内容は「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会）に準ずる。

⚠警告

指示

医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。

- 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）にはFOMA端末を持ち込まないでください。
- 病棟内では、FOMA端末の電源を切ってください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、FOMA端末の電源を切ってください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
- 自動的に電源が入る機能が設定されている場合は、設定を解除してから、電源を切ってください。

指示

満員電車の中など混雑した場所では、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、FOMA端末の電源を切ってください。

電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

指示

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部からFOMA端末は22cm以上離して携行および使用してください。

電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

指示

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。

電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

材質一覧

使用箇所		材質／表面処理
FOMA端末の表面	ディスプレイ面の側面、左側、右側、ボタン面の周囲、ヒンジ部表側	ガラス入りポリアミド樹脂／UV塗装
	ディスプレイ面、ディスプレイ面の裏側	アクリル樹脂／ハードコート
	ボタン面	UV硬化樹脂
	ヒンジ部、ヒンジ部裏側	ABS樹脂／UV塗装
	ヒンジ部ネジ	SWCH／ニッケルメッキ
カメラパネル(飾りを含む)		アクリル樹脂／ハードコート
カメラ窓		アクリル樹脂／ハードコート
リアカバー	リアカバー	ガラス入りポリアミド樹脂／UV塗装
	レバー	POM樹脂
	パッキン	EPDM／シリコン皮膜処理
	無線対策シール	IFL12(磁性粉＋ウレタン樹脂)／PET
ピクチャーライト		PC樹脂
当たりカバー	ディスプレイ面、ボタン面	ポリウレタン
操作ボタン(飾りを含む)		UV硬化樹脂
操作ボタンベースシート		UV硬化樹脂
サイドボタン		アルミニウム／アルマイト
ワンセグアンテナ	ワンセグアンテナ	SUS／焼付け塗装
	金属部分	SUS／ニッケルメッキ、3価クロムメッキ
外部接続端子	外部接続端子	SUS／ニッケルメッキ
	カバー	PC樹脂／UV塗装
	パッキン	EPDM／シリコン皮膜処理
HDMI端子	HDMI端子	SUS／ニッケルメッキ
	カバー	PC樹脂／UV塗装
	パッキン	EPDM／シリコン皮膜処理
赤外線ポート		ABS樹脂
充電端子		SUS／金メッキ
microSDカードスロット内部		SUS／ニッケルメッキ
ドコモUIMカードトレイ		POM樹脂
電池収納面		PET ガラスエポキシ基板
電池収納部	電池収納部周囲	ガラス入りポリアミド樹脂
	ネジ	SUS／パシペート処理
電池端子	電池端子コネクタ本体	LCP
	電池端子	銅合金／金メッキ
電池パック	電池パック本体	PC樹脂／放電加工
	端子部	銅合金／全面ニッケル下地メッキ、金メッキ

取り扱い上のご注意

共通のお願い

- **SH-01Cは防水／防塵性能を有しておりますが、FOMA端末内部に水や粉塵を侵入させたり、付属品、オプション品に水や粉塵を付着させたりしないでください。**
  電池パック、アダプタ、ドコモUIMカードは防水／防塵性能を有しておりません。風呂場など、湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承願います。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。
- **お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
  - 乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。
  - ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。
  - アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。
- **端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。**
  端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。
  また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。
- **エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。**
  急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。
- **FOMA端末や電池パックなどに無理な力がかからないように使用してください。**
  多くのものが詰まった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ったりするとディスプレイ、内部基板、電池パックなどの破損、故障の原因となります。
  また、外部接続機器を外部接続端子（イヤホンマイク端子）に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。
- **ディスプレイは金属などで擦ったり引っかいたりしないでください。**
  傷つくことがあり故障、破損の原因となります。
- **電池パック、アダプタに添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。**

FOMA端末についてのお願い

- **タッチパネルの表面を強く押したり、爪やボールペン、ピンなど先の尖ったもので操作したりしないでください。**
  タッチパネルが破損する原因となります。
- **極端な高温、低温は避けてください。**
  温度は５℃～40℃（ただし、36℃以上は風呂場などでの一時的な使用に限る）、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。
- **一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、悪影響を及ぼす原因となりますので、なるべく離れた場所でご使用ください。**
- **お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。**
  万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- **FOMA端末を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。**
  故障、破損の原因となります。
- **外部接続端子（イヤホンマイク端子）に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。**
  故障、破損の原因となります。
- **ストラップなどを挟んだまま、FOMA端末を閉じないでください。**
  故障、破損の原因となります。
- **使用中、充電中、FOMA端末は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。**

- **カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
  素子の退色・焼付きを起こす場合があります。
- **通常は外部接続端子カバー、HDMI端子カバーをはめた状態でご使用ください。**
  ほこり、水などが入り故障の原因となります。
- **リアカバーを外したまま使用しないでください。**
  電池パックが外れたり、故障、破損の原因となったりします。
- **ディスプレイやボタンのある面に、極端に厚みのあるシールなどを貼らないでください。**
  故障、破損、誤動作の原因となります。
- **microSDカードの使用中は、microSDカードを取り外したり、FOMA端末の電源を切ったりしないでください。**
  データの消失、故障の原因となります。
- **磁気カードなどをFOMA端末に近づけたり、挟んだりしないでください。**
  キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。
- **FOMA端末に磁気を帯びたものを近づけないでください。**
  強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。

電池パックについてのお願い

- **電池パックは消耗品です。**
  使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは電池パックの交換時期です。指定の新しい電池パックをお買い求めください。
- **充電は、適正な周囲温度（５℃～35℃）の場所で行ってください。**
- **電池パックの使用時間は、使用環境や電池パックの劣化度により異なります。**
- **電池パックの使用条件により、寿命が近づくにつれて電池パックが膨れる場合がありますが問題ありません。**
- **電池パックを保管される場合は、次の点にご注意ください。**
  - ■ 満充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管
  - ■ 電池残量なしの状態（本体の電源が入らない程消費している状態）での保管

  電池パックの性能や寿命を低下させる原因となります。
  保管に適した電池残量は、目安として電池アイコン表示が２本、または残量が40パーセント程度の状態をお勧めします。

アダプタについてのお願い

- **充電は、適正な周囲温度（５℃～35℃）の場所で行ってください。**
- **次のような場所では、充電しないでください。**
  - ■ 湿気、ほこり、振動の多い場所
  - ■ 一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く
- **充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。**
- **DCアダプタを使用して充電する場合は、自動車のエンジンを切ったまま使用しないでください。**
  自動車のバッテリーを消耗させる原因となります。
- **抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。**
- **強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。**
  故障の原因となります。

ドコモUIMカードについてのお願い

- **ドコモUIMカードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないでください。**
- **他のＩＣカードリーダー／ライターなどにドコモUIMカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。**
- **ＩＣ部分はいつもきれいな状態でご使用ください。**
- **お手入れは、乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。**
- **お客様ご自身で、ドコモUIMカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。**
  万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- **環境保全のため、不要になったドコモUIMカードはドコモショップなど窓口にお持ちください。**

- ＩＣを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。
  データの消失、故障の原因となります。
- ドコモUIMカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
  故障の原因となります。
- ドコモUIMカードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
  故障の原因となります。
- ドコモUIMカードにラベルやシールなどを貼った状態で、FOMA端末に取り付けないでください。
  故障の原因となります。

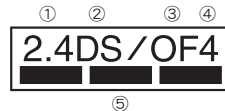
Bluetooth®機能を使用する場合のお願い

- FOMA端末は、Bluetooth機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を使用した通信を行う際にはご注意ください。
- Bluetooth機能を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 周波数帯について
  FOMA端末のBluetooth機能が使用する周波数帯は次のとおりです。

① 2.4：2.4GHz帯を使用する無線設備を表します。
② FH：変調方式がFH-SS方式であることを示します。
③ 1：想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。
④ ■■■■：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味します。

- Bluetooth機器使用上の注意事項
  本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。
  1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
  2. 万が一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
  3. その他、ご不明な点につきましては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

無線LAN（WLAN）についてのお願い

- 無線LANについて
  電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 周波数帯について
  WLAN搭載機器が使用する周波数帯は、端末本体の電池パック挿入部に記載されています。ラベルの見かたは次のとおりです。

① 2.4：2400MHz帯を使用する無線設備を表します。
② DS：変調方式がDS-SS方式であることを示します。
③ OF：変調方式がOFDM方式であることを示します。
④ 4：想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。

⑤ ■■■ ■■■ ■■■:2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

利用可能なチャンネルは国により異なります。

航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

フランスなど、一部の国／地域では、Wi-Fiの使用が制限されます。海外で利用するときは、その国／地域の法規制など条件をご確認ください。

- **2.4GHz機器使用上の注意事項**
  WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
  1. **この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。**
  2. **万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいた上で、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせいただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。**
  3. **そのほか、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。**

FeliCaリーダー／ライターについて

- **FOMA端末のFeliCa リーダー／ライター機能は、無線局の免許を要しない微弱電波を使用しています。**
- **使用周波数は13.56MHz帯です。周囲に他のリーダー／ライターをご使用の場合、十分に離してお使いください。また、他の同一周波数帯を使用の無線局が近くにないことを確認してお使いください。**

注意

- **改造されたFOMA端末は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法に抵触します。**
  FOMA端末は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けており、その証として「技適マーク 〒」がFOMA端末の銘版シールに表示されております。
  FOMA端末のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。
  技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。
- **自動車などを運転中の使用にはご注意ください。**
  運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。
  ただし、傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合は対象外となります。
- **Bluetooth機能は日本国内で使用してください。**
  FOMA端末のBluetooth機能は日本国内での無線規格に準拠し認定を取得しています。
  海外でご使用になると罰せられることがあります。
- **FeliCa リーダー／ライター機能は日本国内で使用してください。**
  FOMA端末のFeliCa リーダー／ライター機能は日本国内での無線規格に準拠しています。
  海外でご使用になると罰せられることがあります。

防水／防塵性能

SH-01Cは、外部接続端子カバー、HDMI端子カバーをしっかりと閉じ、リアカバーを取り付けてロックした状態でIPX5（旧JIS保護等級5）※1、IPX7（旧JIS保護等級7）※2の防水性能、IP5X（JIS保護等級5）※3の防塵性能を有しています。

※1 IPX5とは、内径6.3mmの注水ノズルを使用し、約3mの距離から12.5リットル/分の水を最低3分間注水する条件であらゆる方向から噴流を当てても、電話機としての機能を有することを意味します。

※2 IPX7とは、常温で水道水、かつ静水の水深1mのところにSH-01Cを静かに沈め、約30分間放置後に取り出したときに電話機としての機能を有することを意味します。

※3 IP5Xとは、保護度合いを指し、直径75μm以下の塵埃（じんあい）が入った装置に電話機を8時間入れてかくはんさせ、取り出したときに電話機の機能を有し、かつ安全を維持することを意味します。

SH-01Cが有する防水／防塵性能でできること

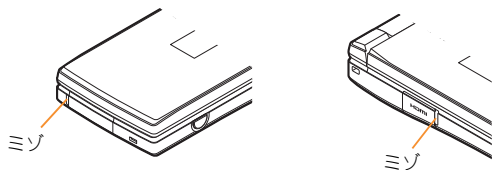
- 雨の中で傘をささずに通話、ワンセグ視聴ができます（1時間の雨量が20mm程度）。
- 汚れを洗い流すことができます。洗うときは、やや弱めの水流（6リットル/分以下、常温（5℃～35℃）の水道水）で蛇口やシャワーから約10cm離して洗います。リアカバーを取り付けてロックした状態で、外部接続端子カバー、HDMI端子カバーが開かないように押さえたまま、ブラシやスポンジなどは使用せず手で洗ってください。洗ったあとは、水抜きをしてから使用してください（☞P.22）。
- プールサイドで使用できます。ただし、プールの水をかけたり、プールの水に浸けないでください。
- 風呂場で使用できます。ただし、湯船には浸けないでください。

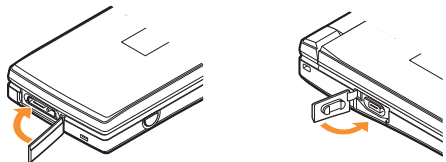
ご利用にあたって

防水／防塵性能を維持するために、必ず次の点を確認してください。

- 外部接続端子カバー、HDMI端子カバー、リアカバーをしっかりと閉じてください。開閉するときは、ゴムパッキンに無理な力を加えないように注意してください。
- 外部接続端子カバーやHDMI端子カバー、リアカバーが浮いていないように完全に閉じたことを確認してください。
- リアカバーのレバーがLOCK位置にあることを確認してから使用してください。
- 防水／防塵性能を維持するため、外部接続端子カバー、HDMI端子カバー、リアカバーはしっかり閉じる構造となっております。無理に開けようとすると爪や指などを傷つける可能性がありますので、ご注意ください。

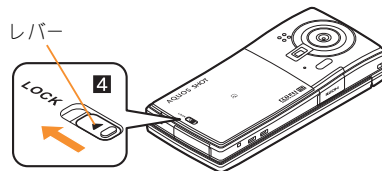
外部接続端子カバー、HDMI端子カバーの開きかた

ミゾに指をかけて、開けてください。

外部接続端子カバー、HDMI端子カバーの閉じかた

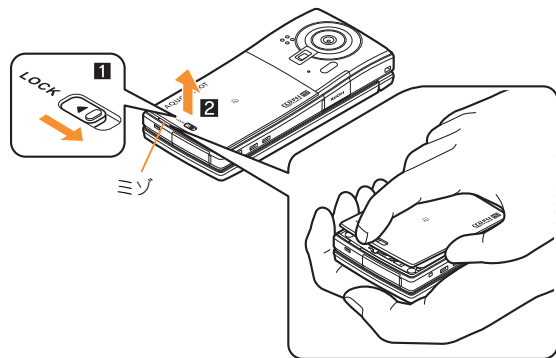
FOMA端末と外部接続端子カバー、HDMI端子カバーにすき間が生じないように、矢印の方向にしっかりと押して閉じてください。

リアカバーの取り付けかた

1 リアカバーの先のツメをFOMA端末のミゾに差し込み(1)、矢印の方向(2)に取り付け、両手でしっかりと押す(3)

- リアカバーの裏側にも、6箇所に取り付け用のツメが付いています。FOMA端末とリアカバーにすき間が生じないように、ツメの位置を上から両手でしっかりと押して取り付けてください。

2 リアカバーのレバーを矢印の方向(4)にスライドさせてロックする

リアカバーの取り外しかた

1 リアカバーのレバーを矢印の方向(1)にスライドさせてロックを外し、リアカバーを取り外す(2)

- FOMA端末には、リアカバー取り外し用のミゾが付いています。リアカバーに無理な力を加えないよう、図のようにFOMA端末をしっかりと持ち、ミゾに爪などをかけて上方向に取り外してください。

- 防水／防塵性能を維持するため、異常の有無にかかわらず必ず2年に1回、部品の交換が必要となります。部品の交換はFOMA端末をお預かりして有料にて承ります。ドコモ指定の故障取扱窓口にお持ちください。

注意事項

- 手が濡れているときやFOMA端末に水滴がついているときには、リアカバーの取り付け／取り外し、外部接続端子カバー、HDMI端子カバーの開閉はしないでください。
- リアカバーは確実にロックし、外部接続端子カバー、HDMI端子カバーはしっかりと閉じてください。接触面に微細なゴミ(髪の毛1本、砂粒1つ、微細な繊維など)が挟まると、水や粉塵が浸入する原因となります。
- 外部接続端子カバーまたはHDMI端子カバー、リアカバーが開いている状態で水などの液体がかかった場合、内部に液体が入り、感電や故障の原因となります。そのまま使用せずに電源を切り、電池パックを外した状態でドコモ指定の故障取扱窓口へご連絡ください。
- 外部接続端子カバー、HDMI端子カバー、リアカバーのゴムパッキンは防水／防塵性能を維持する上で重要な役割を担っています。はがしたり傷つけたりしないでください。また、ゴミが付着しないようにしてください。
  外部接続端子カバー、HDMI端子カバー、リアカバーのゴムパッキンが傷ついたり、変形したりした場合は、ドコモ指定の故障取扱窓口にてお取り替えください。
- 外部接続端子カバーやHDMI端子カバー、リアカバーのすき間に、先の尖ったものを差し込まないでください。ゴムパッキンが傷つき、水や粉塵が浸入する原因となります。
- リアカバーが破損した場合は、リアカバーを交換してください。破損箇所から内部に水が入り、感電や電池の腐食などの故障の原因となります。
- 水中でFOMA端末を使用(開閉、ボタン操作を含む)しないでください。故障の原因となります。

- 規定（☞P.18）以上の強い水流（6リットル/分を超える）を直接当てないでください。SH-01CはIPX5の防水性能を有しておりますが、故障の原因となります。
- 常温（5℃～35℃）の水以外の液体をかけたり、浸けたりしないでください。
- 洗濯機などで洗わないでください。
- 結露防止のため、寒い場所から風呂場などへはFOMA端末が常温になってから持ち込んでください。
- 風呂場など湿気の多い場所には、長時間放置しないでください。また、風呂場で長時間使用しないでください。
- 温泉やせっけん、洗剤、入浴剤の入った水には絶対に浸けないでください。
- 熱湯に浸けたり、サウナで使用したり、温風（ドライヤーなど）を当てたりしないでください。
- 海水には浸けないでください。
- 砂／泥の上に直接置かないでください。
- 濡れたまま放置しないでください。寒冷地で凍結するなど、故障の原因となります。
- FOMA端末は水に浮きません。
- 落下させないでください。傷の発生などにより防水／防塵性能の劣化を招くことがあります。
- 送話口、受話口、スピーカに水滴を残さないでください。通話不良となるおそれがあります。
- 付属品、オプション品は防水／防塵性能を有しておりません。付属の卓上ホルダにFOMA端末を差し込んだ状態の場合、ACアダプタを接続していない状態でも、風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りでは使用しないでください。

せっけん／洗剤／入浴剤

海水

プール

温泉

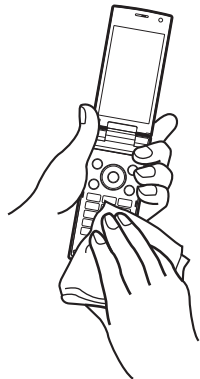
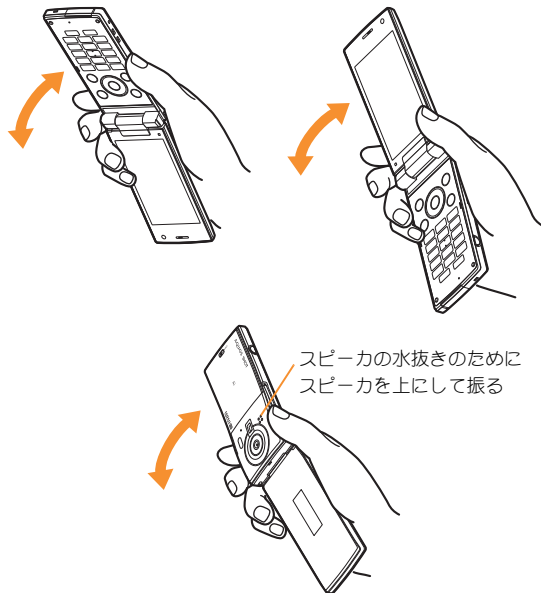
砂／泥

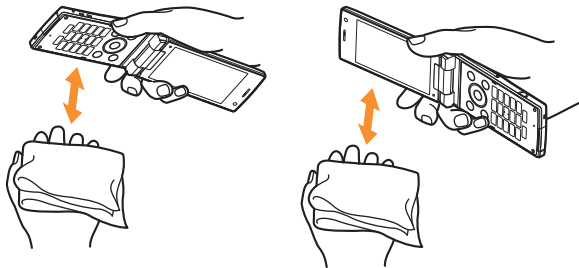
- 実際の使用にあたって、すべての状況での動作を保証するものではありません。また、調査の結果、お客様の取り扱いの不備による故障と判明した場合、保証の対象外となります。

水に濡れたときの水抜きについて

FOMA端末を水に濡らした場合、拭き取れなかった水があとから漏れてくる場合がありますので、下記の手順で水抜きを行ってください。

1 FOMA端末表面の水分を乾いた清潔な布などでよく拭き取る

- ストラップを付けている場合は、ストラップも十分乾かしてください。

2 FOMA端末のヒンジ部をしっかりと持ち、20回程度水滴が飛ばなくなるまで振る

3 送話口、受話口、スピーカ、ボタン、ヒンジ部などのすき間に溜まった水は、乾いた清潔な布などにFOMA端末を軽く押し当てて拭き取る

- 各部の穴に水が溜まっていることがありますので、開口部に布を当て、軽くたたいて水を出してください。

4 FOMA端末から出てきた水分を乾いた清潔な布などで十分に拭き取る

- 水を拭き取ったあとに本体内部に水滴が残っている場合は、水が染み出ることがあります。

充電のときには

付属品、オプション品は防水／防塵性能を有していません。充電時、および充電後には、必ず次の点を確認してください。

- FOMA端末が濡れていないか確認してください。濡れている場合や水に濡れたあとは、よく水抜きをして乾いた清潔な布などで拭き取ってから、卓上ホルダに差し込んだり、外部接続端子カバーを開いたりしてください。
- 外部接続端子カバーを開いて充電した場合には、充電後はしっかりとカバーを閉じてください。外部接続端子からの水や粉塵の浸入を防ぐため、卓上ホルダを使用して充電することをおすすめします。

- FOMA端末が濡れている状態では絶対に充電しないでください。
- 濡れた手でACアダプタ、卓上ホルダに触れないでください。感電の原因となります。
- ACアダプタ、卓上ホルダは、水のかからない状態で使用してください。風呂場、シャワー室、台所、洗面所などの水周りで使用しないでください。火災や感電の原因となります。

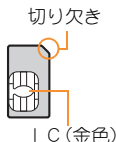
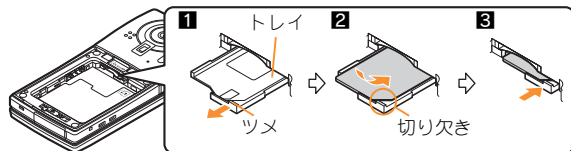
事前の準備

ドコモUIMカードの取り付けかた

ドコモUIMカードは、お客様の電話番号などの情報が記憶されているＩＣカードです。

- 本FOMA端末ではFOMAカード（青色）はご使用になれません。FOMAカード（青色）をお持ちの場合には、ドコモショップ窓口にてお取替えください。

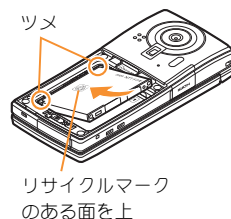
1 ツメに指などをかけて、トレイを引き出す（❶）
- トレイが止まるところまで、まっすぐ引き出します。

2 ドコモUIMカードのＩＣ（金色）面を下に向けて、トレイにセットする（❷）

3 トレイを奥まで差し込む（❸）

- 無理に取り付けようとしたり、取り外そうとするとドコモUIMカードが破損したり、トレイが変形したりするおそれがありますので、ご注意ください。

電池パックの取り付けかた

- FOMA端末の電源を切り、閉じた状態で、両手で持って行ってください。
- 電池パックは防水／防塵性能を有しておりません。

1 リアカバーを取り外す（☞P.20）

2 電池パックを取り付ける
- 電池パックのリサイクルマークのある面を上に向けて、FOMA端末と電池パックのツメを合わせて取り付けてください。

3 リアカバーを取り付ける（☞P.19）

- 無理に取り付けたり、取り外したりすると、FOMA端末の電池パックとの接続端子（充電端子）が破損することがあります。
- リアカバーはしっかりと閉めてください。不十分だとリアカバーが外れ、振動で電池パックが外に飛び出すおそれがあります。また、防水／防塵性能が損なわれ、水や粉塵が浸入する原因となります。

充電のしかた

- 外部接続端子カバーの閉め忘れによる水や粉塵の浸入を防ぐため、付属の卓上ホルダを使用して充電することをおすすめします。
- ACアダプタ、卓上ホルダは防水／防塵性能を有しておりません。FOMA端末が濡れている状態では絶対に充電しないでください。充電時の、防水／防塵性能に関する注意事項については☞P.23

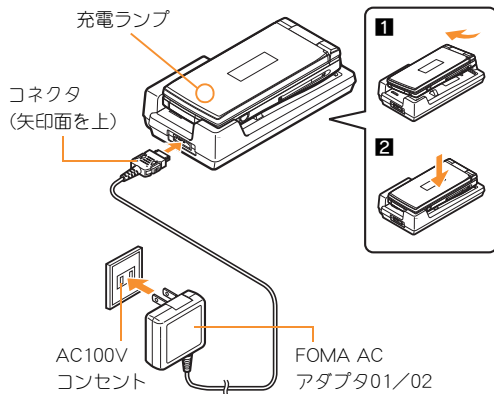
卓上ホルダを使って充電する

1 ACアダプタのコネクタの矢印面を上に向けて、卓上ホルダの接続端子に差し込む

- コネクタが卓上ホルダに水平になるようにして、「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込んでください。

2 ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込む

3 FOMA端末を卓上ホルダに置くと、充電確認音が鳴り、充電ランプが点灯して、充電が開始する

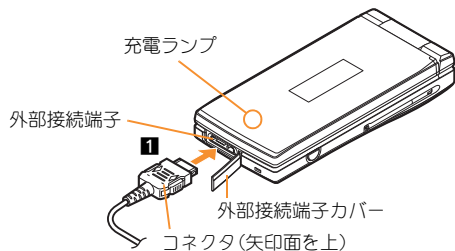
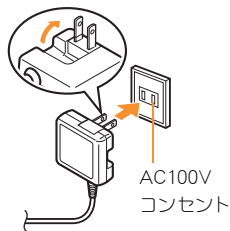
- 卓上ホルダにFOMA端末の左側面部を当て（❶）、下方向（❷）に「カチッ」と音がするまで押し込んでください。

4 充電確認音が鳴り、充電ランプが消灯すると、充電が完了する

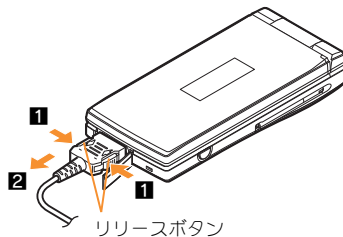
- 卓上ホルダを押さえながら、FOMA端末を持ち上げます。

- 長時間使用しないときは、ACアダプタをコンセントから抜いてください。
- 充電確認音が鳴らないときや充電ランプが点灯しないときは、FOMA端末が卓上ホルダに正しく置かれていないことがあります。正しく置きなおしてください（電源を切っているときやマナーモード中、充電確認音が［OFF］の場合は除く）。
- FOMA端末を卓上ホルダに置くときは、ストラップなどを挟まないようにご注意ください。
- FOMA端末を卓上ホルダに装着した状態でビューアポジションにするときは、卓上ホルダから外れないようにFOMA端末を押さえながら操作してください。

ACアダプタを使って充電する

- 必ずFOMA ACアダプタ01／02(別売)の取扱説明書を参照してください。

1 外部接続端子カバーを開き、ACアダプタを外部接続端子に水平に差し込む(❶)

2 ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込むと、充電確認音が鳴り、充電ランプが点灯して、充電が開始する

3 充電確認音が鳴り、充電ランプが消灯すると、充電が完了する

- コネクタを取り外すときは、コネクタの両側にあるリリースボタンを押したまま(❶)、コネクタを水平に抜いてください(❷)。

- 無理に差し込んだり抜いたりすると、外部接続端子やコネクタが破損や故障する場合がありますので、ご注意ください。

電源を入れる

1 (2秒以上)

- 初期設定が完了しているときは、待受画面が表示されます。
- 電源を切るときも、を2秒以上押します。

初期設定を行う

- 端末暗証番号または位置提供可否が設定されていないときは、FOMA端末の電源を入れるたびに、設定画面が表示されます。
- ノーマルメニューで[本体設定]▶[その他設定]▶[初期設定]でも設定画面を表示できます。

1 [日付時刻設定]▶日付・時刻を設定

2 [端末暗証番号設定]▶端末暗証番号を登録

3 [キー確認音設定]▶キー確認音を設定

4 [文字サイズ設定]▶文字サイズを一括設定

5 [位置提供可否設定]▶GPS位置提供可否を設定

6

自分の電話番号を確認する

1 ノーマルメニューで[プロフィール]

自分の名前や画像を登録する

1 ノーマルメニューで[プロフィール]

2 ▶端末暗証番号を入力

3 各項目を設定▶

メールアドレス変更や迷惑メール対策の設定などを行う

メールアドレスの変更や迷惑メール対策などを行うｉモードサイトに接続します。詳しい設定方法については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

1 待受画面で▶[メール設定]▶[アドレス・迷惑メール設定]

2 [はい]

画面の説明

ディスプレイの見かた

アイコン表示領域

主なアイコン

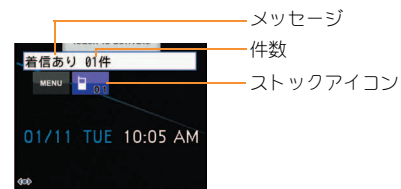
	電池残量表示 →→→→（多→少）
	電波状態表示 →→→（強→弱） ● ［圏外］が表示されているときは、サービスエリア外、または電波の届かない場所にいます。
	Wi-Fi表示
	ハンズフリー表示
	GPS表示
	ｉモードメール／SMS／エリアメール／インフォメーション受信表示
	ｉアプリ表示
	アラーム／スケジュール表示
	Bluetooth表示

	赤外線通信表示
	ｉモード表示
	ドコモUIMカードエラー表示
	セルフモード表示
	Music&Videoチャネル番組予約表示
	3G／GSM表示
	ベールビュー表示
	USB接続中表示
	伝言メモ表示
	ダイヤル発信制限表示
	マナーモード表示
	サイレント／バイブレータ表示
	公共モード（ドライブモード）表示
	microSDカード表示
	ソフトウェア更新表示
	ＩＣカードロック表示
	Music&Videoチャネル表示
	パーソナルデータロック表示
	ワンセグ録画表示

基本の操作

ストックアイコンからお知らせ内容を確認する

かかってきた電話に出られなかったときや新着メールがあるときなどに、待受画面にストックアイコンを表示してお知らせします。

主なストックアイコンの種類

(着信アイコン)	着信あり　○件
(伝言メモアイコン)	伝言メモ　○件
(留守録音アイコン)	留守録音あり　○件
(メールアイコン)	新着メールあり　○件
MENU	ノーマルメニュー／ベーシックメニュー／セレクトメニュー※

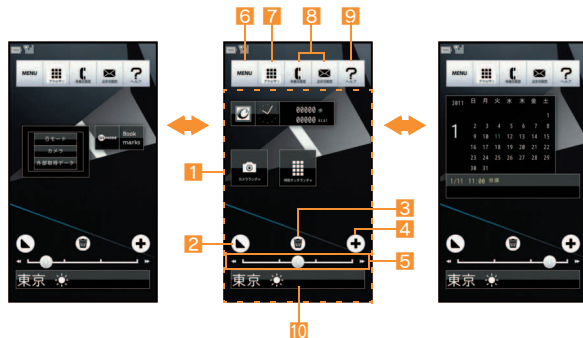
※ メニュー画面やポジションによって、表示されるメッセージが異なります。

1 待受画面にストックアイコン表示 ▶ ◎

2 ストックアイコンを選ぶ

- 内容を確認するとストックアイコンとメッセージは消えます。

待受アクセサリの表示と操作

待受アクセサリは、電卓や時計、スライドショーなどのコンテンツ(アクセサリアイコン)を待受画面に表示し、さまざまな機能を実行することができます。

1 アクセサリアイコン貼り付けエリア
2 待受アクセサリの表示／非表示切替
3 ごみ箱
4 アクセサリアイコン表示設定
5 表示領域ガイド
- ライン上の[◎]は現在の表示領域を示します。アクセサリアイコン貼り付けエリアで左右にスライドして、表示領域を切り替えることができます。

6 MENUボタン
7 アクセサリアイコン表示ボタン
8 発着信履歴／メール送受信履歴ボタン
9 ヘルプ
10 ｉチャネルテロップ

● 用意されているアクセサリアイコンは次のとおりです。

項　目	機　能
デジタル時計	デジタル時計と日付、曜日を表示します。
アナログ時計	アナログ時計を表示します。
カレンダー	簡易カレンダーを表示します。
スケジュール	当日のスケジュールを表示します。当日のスケジュール登録後、待受アクセサリを表示したときに表示内容を更新します。
歩数計	歩数計を表示する機能の簡易版です。ウェルネスの歩数計設定を[ON]にしているときに表示を更新します。
テキストメモ表示	メモを表示する機能の簡易版です。待受メモにメモを登録している場合に、内容を表示します。
手書きメモ表示	待受メモ（手書きメモ）を表示する機能の簡易版です。待受メモ（手書きメモ）を保存している場合に、内容を表示します。
タッチランチャ	待受タッチランチャを表示する機能の簡易版です。アイコンの登録、移動、削除などの操作は、待受タッチランチャのサブメニューから行います。
電卓	電卓を起動します。
SH-Mode	ｉMenu内のサイト［SH-MODE］に接続します。
ブックマーク一覧	Bookmark一覧機能の簡易版です。
フォトフレーム	データBOXのマイピクチャの[カメラ]フォルダ、[ｉモード]フォルダ、[外部取得データ]フォルダのうち、選択したフォルダ内の画像をスライドショーで表示します。
動画撮影機能	動画撮影を起動します。
マナーモード	マナーモードを設定／解除します。前回設定したマナーモードが設定されます。
セルフモード	セルフモードを設定／解除します。
公共モード（ドライブモード）	公共モード（ドライブモード）を設定／解除します。
ピクチャーライト	ピクチャーライトをワンタッチで点灯／消灯します。点灯時間は約30秒です。
おみくじ	おみくじを表示します。
サイコロ	サイコロを表示します。
カメラランチャ	静止画撮影、動画撮影、プリティアレンジカメラ、エフェクトカメラ、オススメフォト、ショットメモ、ラクラク瞬漢／瞬英ルーペ、ゴルフスイングビデオカメラ、ショットデコを起動できます。
ｉコンシェル	ｉコンシェル画面を表示します。

待受アクセサリを設定する

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[待受画面設定]▶[待受アクセサリ設定]

2 設定を選ぶ

サブディスプレイの見かた

画面は、サブディスプレイ設定の待受表示設定（☞P.39）で時計表示を［待受時計（小）］に、小時計機能表示を［歩数・距離］に設定した場合です。

- 小時計機能表示を利用する場合は、あらかじめウェルネス表示設定を［ON］に設定してください。また、歩数計を利用する場合は、あらかじめ歩数計設定を［ON］に設定してください。

アイコン表示領域
時計表示
機能表示

- サブディスプレイ設定の待受表示設定で、小時計機能表示に設定した機能が表示されます。

メニューの設定と選択

機能の設定、変更、登録は、メニュー画面から行うことができます。

本書では、ノーマルメニューから機能を呼び出す方法を基準に説明しています。

各メニューを表示する

待受画面でMENUを押すと、ノーマルメニュー、ベーシックメニュー、セレクトメニューを表示できます。

待受画面

MENU

- MENUを押したときに表示されるメニューは変更することができます（☞P.39）。

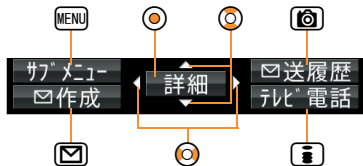
ノーマルメニュー

セレクトメニュー

ベーシックメニュー

操作ガイダンス用ボタンについて

操作ガイダンスに表示されているメニューの選択／実行などに使用します。操作ガイダンスに表示されているメニューを選択／実行するために割り当てられたボタンは次のとおりです。

操作ガイダンスメニューについて

操作ガイダンスには、利用している機能や状況に応じてメニューが表示されます。
主に表示される操作ガイダンスメニュー例を記載します。

決定	選択した項目を決定
サブメニュー	サブメニューを表示
確認	選択した画像や音楽などを確認
戻る	１つ前の画面に戻る
全表示	フォルダ分けしたファイルなどを一覧で表示
中止	メール受信などの動作を中止
全選択／全解除	選択できる項目のすべてを選択／解除
閉じる	サブメニューなどを閉じる

メニュー操作

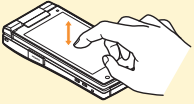
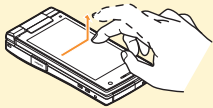
- 選択できる機能については☞P.89
- ノーマルメニューに設定したきせかえツールによっては、機能の選択方法が異なる場合があります。

ここでは、マルチガイドボタンを使ってアラームを起動する方法を例に説明します。

ノーマルメニュー　［便利ツール］を表示　アラームを起動

サブメニューから機能を選択する

操作ガイダンスに［サブメニュー］が表示されているときにMENUを押すと、その画面で使用できる機能（サブメニュー）が表示されます。◎を使って、表示されたサブメニューを選択してください。
サブメニューに複数のページがある場合は、◎を使ってページを切り替えます。

タッチパネルの使いかた

タッチパネル（ディスプレイ）を直接指で触り、操作を行うことができます。

- ディスプレイの表示が消えているときは、いずれかのボタンを押すと画面が表示され、タッチ操作を行うことができます。

タッチパネル利用時のご注意

- タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先が尖ったもの（爪／ボールペン／ピンなど）を押し付けないでください。
- 次の場合はタッチパネルに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
  - ■ 手袋をしたままでの操作
  - ■ 爪の先での操作
  - ■ 異物を操作面に乗せたままでの操作
  - ■ 保護シートやシールなどを貼っての操作
  - ■ タッチパネルが濡れたままでの操作
  - ■ 指が汗や水などで濡れた状態での操作
  - ■ 水中での操作

タッチパネルの基本操作

操作のしかた	主な操作の目的
タッチ ● タッチパネルに触れて、指を離します。	**選択・決定** ● 画面に表示されるボタンをタッチします。
ロングタッチ ● タッチパネルに触れたままにします。	**連続操作** ● 音量調節や早戻し／早送りなど、画面に表示されるボタンをロングタッチすると連続した操作に変わります。 **項目の選択** ● 画面に表示される項目をロングタッチします。
スライド ● タッチパネルに触れたまま、指を動かします。	**画面のスクロール** ● サイト表示中など、上下左右にスライドします。 **選択の中止** ● メニューや項目に間違って触れたときは、メニューや項目から離れるようにスライドします。

操作のしかた	主な操作の目的
すばやくスライド ● すばやくスライドし、指を離します。	ページ切替 ● メニュー画面などで左右にすばやくスライドします。 前／次のデータを表示 ● 画像やメールなどを表示中に左右にすばやくスライドします。
2本の指の間隔を広げる／狭める ● 2本の指でタッチパネルに触れ、2本の指の間を広げるようにスライド、または狭めるようにスライドします。	拡大／縮小 ● 画像表示中に2本の指の間隔を広げる／狭めます。
「CLR」をタッチ	中止／終了 ● 「CLR」をタッチします（表示されている場合）。

音声クイック起動を利用する

待受画面から音声で機能を呼び出して実行することができます。利用したい機能がメニューのどこにあるのかわからないときや、利用したい機能をすばやく起動させることができます。

1 待受画面で[✓]（1秒以上）

2 [それではどうぞ　★★音声受付中★★]と表示されたら、送話口に向かって起動したい機能を話す

- 約10秒以内で話してください。話し終わるか、約10秒経過する、または◉を押すと音声入力が終了し、該当する機能を起動します。
- 起動する機能を特定できないときは、使いかたガイドを起動します。

- 次の場合は正しく認識できないことがあります。
  - ■ 声が大きすぎたり、小さすぎる場合
  - ■ 周囲の雑音が大きい場合
  - ■ 発声が明瞭でない場合
  - ■ 発声が不自然だったり、速度が速すぎる場合

使いかたガイドを利用する

FOMA端末の操作方法がわからないときに利用してください。使いかたガイドが表示され、それぞれの機能の説明や操作方法などを確認することができます。また、使いかたガイドから機能を直接起動することもできます。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[使いかたガイド]

2 項目を選ぶ

文字入力

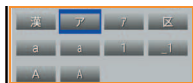
文字入力のしかた

FOMA端末には、電話帳やメールなど文字を入力して活用する機能があります。

- 本書では、かな入力で文字を入力する方法を基準に説明しています。

入力モードの種類と切り替え

入力する文字の種類に合わせて、入力モードを切り替えます。

1 文字入力画面で✉

切り替え項目

2 入力モードを選ぶ

漢	漢字・ひらがな
ア	全角カタカナ
ｱ	半角カタカナ
区	区点コード
a	全角英字(小文字→大文字)
a	半角英字(小文字→大文字)
1	全角数字
_1	半角数字
A	全角英字(大文字→小文字)
A	半角英字(大文字→小文字)

文字を入力する

例:「電話」と入力するとき

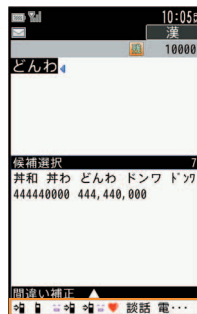
1 文字入力画面で「でんわ」と入力

- でんわ:4(4回)▶*(1回)▶0(3回)▶◎▶0(1回)
- 同じボタンに割り当てられた文字を連続して入力:文字を入力▶◎▶文字を入力

2 📷

3 ◎

間違い補正変換を利用する

同じボタンに割り当てられた文字の入力を間違えたときは、変換候補欄の下に間違い補正変換候補欄が表示されることがあります。◎を押すと補正された変換候補が変換候補欄に表示されます。

間違い補正変換候補欄

絵文字／記号を入力する

1 文字入力画面で[カメラ]

- 絵文字とデコメ絵文字®の切替：[カメラ]
- 全角記号と半角記号の切替：[MENU]

2 絵文字／記号を選ぶ

定型文を利用する

1 文字入力画面で[MENU]▶［定型文・データ引用］▶［定型文］

2 定型文を選ぶ

顔文字を入力する

1 文字入力画面で[MENU]▶［絵文字・記号・顔文字］▶［顔文字］

- メール本文のとき：文字入力画面で[MENU]▶［定型文・データ引用］▶［絵文字・記号・顔文字］▶［顔文字］

2 カテゴリを選ぶ▶顔文字を選ぶ

文字をコピーする／切り取る

1 文字入力画面で[MENU]▶［コピー］／［切り取り］

- メール本文のとき：文字入力画面で[MENU]▶［コピー・切取り・その他］▶［コピー］／［切り取り］

2 始点を選ぶ

3 終点を選ぶ

- 反転表示されている文字列が対象になります。

文字を貼り付ける

1 文字入力画面で貼り付ける位置にカーソルを合わせる▶[MENU]▶［貼り付け］

- メール本文のとき：文字入力画面で貼り付ける位置にカーソルを合わせる▶[MENU]▶［コピー・切取り・その他］▶［貼り付け］

音／画面設定

着信音を変える

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[音／バイブ／マナー]▶[着信音設定]

2 項目を選ぶ

- ◆[音声電話]▶項目を選ぶ
- ◆[テレビ電話]
- ◆[メール]▶項目を選ぶ

3 各項目を設定▶📷

着信音の音量を変える

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[音／バイブ／マナー]▶[音量設定]

2 項目を選ぶ

- ◆[着信音量]▶項目を選ぶ▶◎
- ◆[メール・メッセージ着信音量]▶◎

ボタンを押したときの音量を変える

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[音／バイブ／マナー]▶[音量設定]

2 [操作確認音量]▶◎

バイブレータを設定する

着信時、GPS測位時、アラーム鳴動時、iアプリ利用時、タッチ操作時の振動を設定できます。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[音／バイブ／マナー]▶[バイブレータ設定]

2 項目を選ぶ

3 バイブレータを選ぶ

● バイブレータを設定したとき、机の上などにFOMA端末を置いておくと、振動によって落下するおそれがありますので、ご注意ください。

マナーモードを利用する

FOMA端末から音を出さないように、切り替えることができます。

- マナーモード設定中も、次の音は鳴ります。
  - ■ カメラのシャッター音
  - ■ カメラの撮影開始音／停止音
  - ■ ボイスレコーダーの開始音／停止音
- マナーモード設定中に緊急地震速報を受信すると、マナーモードの設定にかかわらずバイブレータは動作します。また、オリジナルマナーモードで、次のいずれかの音を鳴らす設定になっているときは専用警報音（ブザー音）も鳴ります。
  - ■ キー確認音　■ 電話着信音量　■ メール着信音量
  - ■ アラーム音　■ 電池アラーム音

1 ノーマルメニューで［本体設定］▶［音／バイブ／マナー］▶［マナーモード選択］

2 種類を選ぶ

◆［通常マナーモード］

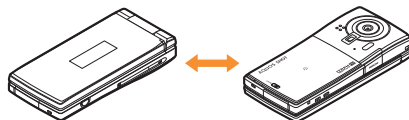
◆［オリジナルマナーモード］▶各項目を設定▶📷

◆［サイレントマナーモード］

- マナーモードを設定すると、［］が表示されます。

モーションサイレントで着信音やアラーム音を止める

マナーモードを設定していないときでも、FOMA端末を裏返して一時的に着信音やアラーム音、タイマー音などを止めることができます。

1 着信中やアラーム鳴動中などにFOMA端末を裏返す

モーションサイレントを利用する

1 ノーマルメニューで［本体設定］▶［音／バイブ／マナー］▶［モーションサイレント］

2 設定を選ぶ

画面の設定を変える

メインディスプレイの表示を変える

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[待受画面設定]▶[待受画面選択]

2 項目を選ぶ
- ◆[縦画面設定]▶項目を選ぶ
- ◆[横画面設定]▶項目を選ぶ

サブディスプレイの表示を変える

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[サブディスプレイ設定]

2 [待受表示設定]▶各項目を設定▶📷

周りの人からディスプレイを見えにくくする

ディスプレイにパターン(図柄やアニメーション)を表示させて、周りの人から見えにくくします。

1 ▱(1秒以上)
- ● ベールビューを設定すると、[▱]が表示されます。

ベールビューを解除する
- ● ▱(1秒以上)

メニューの表示を変える

待受画面表示中にMENUを押したとき表示されるメニューを設定できます。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[メニュー設定]

2 [表示メニュー設定]▶メニューを選ぶ

文字のサイズを変える

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[文字表示／入力]▶[文字サイズ設定]

2 項目を選ぶ▶文字サイズを選ぶ

マチキャラの設定を変える

マチキャラを設定すると待受画面にキャラクタが表示されます。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[マチキャラ設定]

2 [表示設定]▶各項目を設定▶📷

マチキャラと会話できるように設定する

音声クイック起動を利用するときにマチキャラの音声を出力するかどうかを設定できます。

- お買い上げ時にプリインストールされている[メイちゃん]、[セイリアン]はマチキャラおしゃべり設定に対応しています。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[音／バイブ／マナー]▶[マチキャラおしゃべり設定]

2 設定を選ぶ

きせかえツールを設定する

ノーマルメニュー画面や待受画面、メニューアイコン、着信音などをまとめて変更できます。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[きせかえツール設定]

2 きせかえツールにカーソルを合わせる▶[カメラ]▶[はい]

- データの確認:きせかえツールを選ぶ(きせかえツール内データ一覧画面を表示)▶データを選ぶ
  - 音声電話着信ランプ、テレビ電話着信ランプ、メール受信ランプ、開閉連動ランプの場合は、データを選ぶとランプの色と点滅パターンを確認できます。

イルミネーションを設定する

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[照明・イルミネーション]▶[イルミネーション設定]

2 項目を選ぶ

3 各項目を設定▶[カメラ]

イルミネーションパターン、イルミネーションカラーを選択するときに、パターン、色にカーソルを合わせると、イルミネーションの点滅パターンや色を確認できます。

基本の操作

不在着信や新着メールを確認する

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[画面・ディスプレイ]▶[各種画面設定]

2 [着信表示設定]▶項目を選ぶ

● 設定できる項目は次のとおりです。

■ 電話／メール着信時設定：電話やメールの着信時に、電話番号や電話帳に登録している名前などをディスプレイに表示するかどうかを設定できます。

■ 不在着信お知らせ：不在着信や新着メールがあったときにランプを約4秒間隔で点滅してお知らせします。

ecoモードを設定する

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[電池]▶[ecoモード]

● ecoモードに設定すると、[ ]が表示されます。

待受画面で5(1秒以上)でも設定できます。

ディスプレイとボタンの照明を設定する

ディスプレイとボタンの照明を設定します。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[照明・イルミネーション]▶[照明設定]

2 項目を選ぶ

◆[照明点灯時間設定]▶項目を選ぶ▶設定を選ぶ

・一定時間FOMA端末を使用しなかったときに、照明が点灯している時間を各機能ごとに設定できます。

◆[画面オフ時間設定]▶時間を選ぶ

・一定時間FOMA端末を使用しなかったときに、ディスプレイの表示を消します。

◆[明るさ調整]▶

・5段階で調整できます。調整しながら明るさを確認できます。

・明るさセンサーのON／OFF：MENU

・明るさセンサーを使用すると、周囲の明るさによって自動的にディスプレイの明るさを調整します。

◆[キーバックライト設定]▶各項目を設定▶

ロック／セキュリティ

各種暗証番号について

FOMA端末には、便利にお使いいただくための各種機能に、暗証番号の必要なものがあります。

各種暗証番号に関するご注意

- 設定する暗証番号は「生年月日」、「電話番号の一部」、「所在地番号や部屋番号」、「1111」、「1234」などの他人にわかりやすい番号はお避けください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。万が一、暗証番号が他人に知られ悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 各種暗証番号を忘れてしまった場合は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）やFOMA端末、ドコモUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただく必要があります。
  詳しくは取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。
- PINロック解除コードは、ドコモショップでご契約時にお渡しする契約申込書（お客様控え）に記載されています。ドコモショップ以外でご契約されたお客様は、契約者ご本人であることが確認できる書類（運転免許証など）とドコモUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただくか、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。

端末暗証番号　（お買い上げ時：0000）

- 端末暗証番号の入力を、5 回連続して間違えると電源が切れます。

端末暗証番号を変える

1. ノーマルメニューで［本体設定］▶［ロック・セキュリティ］▶［端末暗証番号設定］▶現在の端末暗証番号を入力
2. 新しい端末暗証番号を入力
3. もう一度、新しい暗証番号を入力
4. [カメラボタン]

ネットワーク暗証番号（ご契約時：任意の番号を設定）

ドコモショップまたはドコモ インフォメーションセンターや「お客様サポート」でのご注文受付時に契約者ご本人を確認させていただく際や各種ネットワークサービスご利用時などに必要な数字 4 桁の番号です。

ネットワーク暗証番号を変える

1. 待受画面で[iボタン]▶［お客様サポート］▶［各種設定（確認・変更・利用）］▶［ネットワーク暗証番号変更］

ｉモードパスワード　（ご契約時：0000）

マイメニューの登録・削除、メッセージサービス、ｉモードの有料サービスのお申し込み・解約などを行う際には４桁の「ｉモードパスワード」が必要になります（その他にも各情報サービス提供者が独自にパスワードを設定していることがあります）。

ｉモードパスワードを変える

1 待受画面で[i]▶[お客様サポート]▶[各種設定（確認・変更・利用）]▶[ｉモードパスワード変更]

PIN1コード・PIN2コード　（ご契約時：0000）

ドコモUIMカードには、PIN1コード、PIN2コードという２つの暗証番号を設定できます。

PIN1コードは、第三者による無断使用を防ぐため、ドコモUIMカードをFOMA端末に差し込むたびに、またはFOMA端末の電源を入れるたびに使用者を確認するために入力する４～８桁の暗証番号（コード）です。PIN1コードを入力することにより、発着信および端末操作が可能となります。PIN2コードは、積算通話料金リセット、ユーザ証明書利用時や発行申請を行うときなどに使用する４～８桁の暗証番号（コード）です。

● PIN1コード、PIN2コードの入力を３回連続して間違えると、PIN1コード、PIN2コードがロックされます。

PINコードを設定する

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック・セキュリティ]▶[UIMカード（FOMAカード）設定]

2 項目を選ぶ

◆[PIN1コード変更]▶端末暗証番号を入力▶現在のPIN1コードを入力▶新しいPIN1コードを入力▶もう一度、新しいPIN1コードを入力▶[カメラ]

・PIN1入力ON／OFF切替が[OFF]に設定されているとき、PIN1コードは変更できません。

◆[PIN2コード変更]▶端末暗証番号を入力▶現在のPIN2コードを入力▶新しいPIN2コードを入力▶もう一度、新しいPIN2コードを入力▶[カメラ]

◆[PIN1入力ON／OFF切替]▶[ON]▶PIN1コードを入力

・電源を入れたときにPIN1コードを入力するように設定できます。

PINロック解除コード

お客様ご自身では変更できません。

PINロック解除コードは、PIN1コード、PIN2コードがロックされた状態を解除するための８桁の番号です。

● PINロック解除コードの入力を、10回連続して間違えるとドコモUIMカードが完全にロックされます。その場合は、ドコモショップ窓口にお問い合わせください。

各種ロック機能

ロック機能	動作・制限内容
オールロック	電源ON／OFFと音声電話／テレビ電話に応答する以外の操作ができないようにします。 ● 設定：ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック・セキュリティ]▶[ロック設定]▶[オールロック]▶端末暗証番号を入力 ● 解除：待受画面で端末暗証番号を入力
おまかせロック	FOMA端末を紛失した際などに、ドコモにお電話でご連絡いただくだけで、個人データやＩＣカード機能にロックをかけることができます。 おまかせロックの設定／解除 0120-524-360　受付時間　24時間（年中無休） ※一部のIP電話からは接続できない場合があります。 ● パソコンなどでMy docomoのサイトからも設定／解除ができます。 ● おまかせロックの詳細については、『ご利用ガイドブック（基本編）』をご覧ください。
セルフモード	電話やｉモードメール、ｉモード、ｉＣ通信、赤外線通信などで、通信ができないように設定します。 ● 設定／解除：ノーマルメニューで[本体設定]▶[その他設定]▶[セルフモード]▶設定を選ぶ▶[はい]
パーソナルデータロック	メールや個人情報などを表示できないようにします。 ● 設定／解除：ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック・セキュリティ]▶[ロック設定]▶[パーソナルデータロック]▶端末暗証番号を入力▶設定を選ぶ
ダイヤル発信制限	電話帳に登録していない相手への電話発信、ｉモードメール／SMS送信ができないようにします。 ● 設定／解除：ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック・セキュリティ]▶[ダイヤル発信制限]▶端末暗証番号を入力▶設定を選ぶ
自動キーロック	FOMA端末を閉じたり、ディスプレイの表示が消えてから設定した時間が経過すると、自動的にタッチパネルやボタンを操作できないようにします。 ● 設定／解除：ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック・セキュリティ]▶[ロック設定]▶[自動キーロック]▶ロックの種類を選ぶ▶端末暗証番号を入力▶各項目を設定▶📷 ● クローズロックの一時解除：FOMA端末を開いて端末暗証番号を入力 ● 画面オフロックの一時解除：いずれかのボタンを押してディスプレイを表示▶MENU▶端末暗証番号を入力
ＩＣカードロック	ＩＣカード機能を利用できないようにロックします。 ● 設定：待受画面で◎（１秒以上）▶[はい] ● 解除：待受画面で◎（１秒以上）▶端末暗証番号を入力
サイドキーロック	FOMA端末を閉じているときに、サイドボタンを操作できないようにして、誤動作を防ぎます。 ● 設定／解除：待受画面で◎（１秒以上）▶[サイドキーロック]

電話の着信制限をする

発信者番号のわからない着信への対応を設定する

発信者番号が通知されない着信があったとき、非通知理由によって異なる着信動作を設定できます。

- 非通知理由には次の種類があります。
  - ■ 非通知設定 ■ 公衆電話 ■ 通知不可能

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック・セキュリティ]▶[着信拒否設定]▶端末暗証番号を入力

2 非通知理由の種類を選ぶ

3 各項目を設定▶📷

電話帳未登録の相手からの電話を受けない

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[発着信・通話設定]▶[メモリ着信拒否／許可]

2 [メモリ登録外着信拒否]▶端末暗証番号を入力▶設定を選ぶ

お買い上げ時の状態に戻す

各種機能の設定をリセットする

- 各種設定リセットでお買い上げ時の状態に戻る項目については☞P.89

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[その他設定]▶[各種設定リセット]

2 端末暗証番号を入力

3 項目を選ぶ▶📷▶[はい]

登録データを一括して削除する

お客様が登録されたデータを削除し、各種機能の設定内容をお買い上げ時の状態に戻します。

- FOMA端末の保護されているデータも削除されます。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[その他設定]▶[データ一括削除]

2 端末暗証番号を入力▶[はい]

電話

電話／テレビ電話をかける

- ドコモのテレビ電話は、「国際基準の3GPPで標準化された、3G-324M」に準拠しています。異なる方式を利用しているテレビ電話とは接続できません。

電話番号を入力して電話をかける

1 待受画面で電話番号を入力
- 市外局番から入力してください。

2 (音声電話)／(テレビ電話)

音声電話中のボタン操作
- トリプルくっきりトークの設定／解除：

3 通話が終わったら

電話帳から電話をかける

1 待受画面で

2 名前にカーソルを合わせる

3 (音声電話)／(テレビ電話)

リダイヤル／着信履歴を利用して電話をかける

1 待受画面で()(リダイヤル)／()(着信履歴)

2 電話番号にカーソルを合わせる

3 (音声電話)／(テレビ電話)

相手に自分の電話番号を通知する

音声電話やテレビ電話をかけるときに、相手の電話機(ディスプレイ)に自分の電話番号(発信者番号)を表示させることができます。

- 発信者番号通知をお願いする旨のガイダンスが聞こえた場合は、発信者番号を通知する設定にするか「186」を付けてからおかけ直しください。

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[発着信・通話設定]▶[発信者番号通知]

2 [設定]▶設定を選ぶ▶[OK]

つながる

国際電話をかける

WORLD CALLは、ドコモの携帯電話からご利用いただける国際電話サービスです。
FOMAサービスをご契約のお客様は、ご契約時にあわせてWORLD CALLもご契約いただいています（ただし、不要のお申し出をされた方を除きます）。

- WORLD CALLの料金は毎月の携帯電話の通話料金と合わせてご請求いたします。
- 申込手数料・月額使用料は無料です。
- WORLD CALLについては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。
- ドコモ以外の国際電話サービス会社をご利用になるときは、各国際電話サービス会社に直接、お問い合わせください。
- 一部ご利用できない料金プランがあります。

1 待受画面で「＋」（0を１秒以上）、国番号、地域番号（市外局番）、電話番号を入力

- 地域番号（市外局番）が「０」で始まる場合は、「０」を除いて入力してください（イタリアなど一部の国・地域では、「０」が必要な場合があります）。

2 (音声電話)／(テレビ電話)

3 [はい]

電話／テレビ電話を受ける

1 電話がかかってくると、着信音が鳴り、着信ランプが点滅する

- 発信者番号が通知されないときは、非通知理由が表示されます。
  - ・[非通知設定]：発信者の意思により発信者番号を通知しないで発信したとき
  - ・[公衆電話]：公衆電話などから発信したとき
  - ・[通知不可能]：海外からの着信や一般電話から各種転送サービスを経由しての着信など、発信者番号を通知できない相手から発信したとき

2

3 通話が終わったら

相手の声の大きさを変える

1 通話中に

つながる

電話に出られないときは

伝言メモ／テレビ電話伝言メモを設定する

伝言メモを設定しておくと、電話に出られないときにFOMA端末が応答して伝言を預かることができます。

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[伝言メモ／音声メモ]▶[伝言メモ設定]

2 [ON]

● FOMA端末の故障・修理やその他取り扱いによって録音／録画内容が消失するときがあります。当社としては、責任を負いかねますので、万が一に備え、音声電話伝言メモ、テレビ電話伝言メモの内容は、メモなどに控えをお取りくださるようお願いします。

伝言メモを再生する

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[伝言メモ／音声メモ]▶[伝言メモ一覧]

2 メモを選ぶ

3 [いいえ]

公共モード（ドライブモード）を設定する

公共モード（ドライブモード）を設定すると、電話をかけてきた相手に運転中もしくは通話を控える必要のあるような場所にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、通話を終了します。

● お客様のFOMA端末に音声電話やテレビ電話がかかってきても、着信音は鳴りません。ディスプレイにストックアイコン[▮]（着信あり）が表示され、着信履歴に記憶されます。

1 待受画面で[✱]（１秒以上）

公共モード（ドライブモード）を解除する

● 待受画面で[✱]（１秒以上）

公共モード（電源OFF）を設定する

公共モード（電源OFF）を設定すると、電源をOFFにしている場合の着信時に、電話をかけてきた相手に電源を切る必要がある場所にいるため、電話に出られない旨のガイダンスが流れ、通話を終了します。

1 待受画面で[✱][2][5][2][5][1]▶[発信]

公共モード（電源OFF）を解除する

● 待受画面で[✱][2][5][2][5][0]▶[発信]

各種ネットワークサービスを利用する

サービス名称	お申し込み	月額使用料
留守番電話サービス	要	有料
電源OFF・圏外時着信お知らせサービス	不要	無料
キャッチホン	要	有料
転送でんわサービス	要	無料
迷惑電話ストップサービス	不要	無料
発信者番号通知サービス	不要	無料
番号通知お願いサービス	不要	無料
2in1	要	有料
公共モード（ドライブモード）	不要	無料
公共モード（電源OFF）	不要	無料
デュアルネットワークサービス	要	有料
英語ガイダンス	不要	無料

サービス名称	お申し込み	月額使用料
マルチナンバー	要	有料
OFFICEED	要	有料
メロディコール	要	有料

- サービスエリア外や電波の届かない場所ではネットワークサービスはご利用できません。
- 「OFFICEED」は申し込みが必要なサービスです。ご不明な点はドコモの法人向けサイト（http://www.docomo.biz/html/service/officeed/）をご確認ください。
- 詳細は『ご利用ガイドブック（ネットワークサービス編）』をご覧ください。
- お申し込み、お問い合わせについては、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

留守番電話サービスを設定する

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[留守番電話サービス]

2 [開始]▶[はい]▶[はい]▶呼出秒数を入力▶[OK]

キャッチホンを設定する

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[その他ネットワークサービス]▶[キャッチホン]

2 [開始]▶[はい]▶[OK]

転送でんわサービスを設定する

1 ノーマルメニューで[電話機能]▶[その他ネットワークサービス]▶[転送でんわ]

2 [開始]▶[はい]▶[はい]▶電話番号を入力▶📷▶[はい]▶呼出秒数を入力▶[OK]

緊急通報

緊急通報	電話番号
警察への通報	110
消防・救急への通報	119
海上での通報	118

- 本FOMA端末は、「緊急通報位置通知」に対応しております。
  110番、119番、118番などの緊急通報をかけた場合、発信場所の情報（位置情報）が自動的に警察機関などの緊急通報受理機関に通知されます。お客様の発信場所や電波の受信状況により、緊急通報受理機関が正確な位置を確認できないことがあります。
  位置情報を通知した場合には、画面に通報した緊急通報受理機関の名称が表示されます。
  なお、「184」を付加してダイヤルするなど、通話ごとに非通知とした場合は、位置情報と電話番号は通知されませんが、緊急通報受理機関が人命の保護などの事由から、必要であると判断した場合は、お客様の設定によらず、機関側が位置情報と電話番号を取得することがあります。また、「緊急通報位置通知」の導入地域／導入時期については、各緊急通報受理機関の準備状況により異なります。

- FOMA端末から110番、119番、118番通報の際は、携帯電話からかけていることと、警察・消防機関側から確認などの電話をする場合があるため、電話番号を伝え、明確に現在地を伝えてください。
また、通報は途中で通話が切れないように移動せず通報し、通報後はすぐに電源を切らず、10分程度は着信のできる状態にしておいてください。
- かけた地域により、管轄の消防署・警察署に接続されない場合があります。
- FOMA端末から110番、119番、118番へテレビ電話発信した場合は切断されます。音声自動再発信を[ON]に設定している場合、自動的に音声電話に切り替えて再発信します。

海外で利用する

国際ローミング（WORLD WING）とは、日本国内で使用しているFOMA端末を電話番号やメールアドレスはそのままに、ドコモと提携している海外通信事業者のサービスエリアで利用いただけるサービスです。音声電話、SMS、ｉモードメールは設定の変更なくご利用になれます。

対応エリアについて

本FOMA端末は3GネットワークおよびGSM／GPRSネットワークのサービスエリアでご利用いただけます。また、3G850MHzに対応した国・地域でもご利用いただけます。ご利用可能エリアをご確認ください。

海外で本FOMA端末をご利用いただく前に、以下をあわせてご覧ください。

- データBOXの[マイドキュメント]にプリインストールされている「海外ご利用ガイド」
- 『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』
- ドコモの「国際サービスホームページ」

ご契約について

- WORLD WINGのお申し込み状況をご確認ください。詳細は取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

料金について

- 海外でのご利用料金（通話料、パケット通信料）は日本国内とは異なります。
- 国際ローミング中に電話がかかってきたときは、日本からの国際転送となります。発信者には日本までの通話料がかかり、着信側には着信料がかかります。

お問い合わせについて

- FOMA端末やドコモUIMカードを海外で紛失・盗難された場合は、現地からドコモへ速やかにご連絡いただき利用中断の手続きをお取りください。お問い合わせ先については、取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」をご覧ください。なお、紛失・盗難されたあとに発生した通話・通信料もお客様のご負担となりますのでご注意ください。

海外で利用できるサービス

通信サービス	3G	GSM	GPRS
音声電話※1	○	○	○
テレビ電話※1	○	×	×
SMS※2	○	○	○
ｉモード※3	○	×	○
ｉモードメール	○	×	○
ｉチャネル※3※4	○	×	○
ｉコンシェル※5	○	×	○
ｉウィジェット※6	○	×	○
パソコンと接続して行うパケット通信	○	×	○
GPSの現在地確認※7	○	×	○

※1 2in1利用時はBナンバーでの発信はできません。マルチナンバー利用時は付加番号での発信はできません。
※2 宛先がFOMA端末の場合は、日本国内と同様に相手の電話番号をそのまま入力します。
※3 ｉモード海外利用設定が必要となります。
※4 ｉチャネル海外利用設定が必要となります。ベーシックチャネルの情報の自動更新もパケット通信料がかかります（日本国内ではｉチャネル利用料に含まれます）。
※5 ｉコンシェルの海外利用設定が必要となります。インフォメーションの受信ごとにパケット通信料がかかります。
※6 ｉウィジェット海外利用設定が必要となります。ｉウィジェット画面を表示すると複数のウィジェットアプリが通信する場合があり、この場合１通信ごとにパケット通信料がかかります。
※7 GPS測位は無料です。ただし、位置情報から地図を表示した場合などはパケット通信料がかかります。

- 接続する海外通信事業者やネットワークにより利用できないサービスがあります。
  接続可能な国・地域および海外通信事業者については、『ご利用ガイドブック（国際サービス編）』またはドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

滞在国外（日本を含む）に電話をかける

滞在国から日本または他の国へ電話をかけます。

1 待受画面で「＋」（0を１秒以上）、国番号、地域番号（市外局番）、相手先電話番号を入力
- 地域番号（市外局番）が「０」で始まる場合は、「０」を除いて入力してください（イタリアなど一部の国・地域では、「０」が必要な場合があります）。

2 （音声電話）／（テレビ電話）

滞在国内に電話をかける

滞在国で国内電話をかけるときは、日本国内にいるときと同様の操作で電話をかけることができます。

1 待受画面で電話番号を入力

2 （音声電話）／（テレビ電話）

海外にいるWORLD WING利用者に電話をかける

海外でWORLD WING利用中の相手に電話をかけるときは、滞在国内外にかかわらず、日本への国際電話として電話をかけます。

1 待受画面で「＋」（0を１秒以上）、日本の国番号「81」、先頭の「０」を除いた相手先携帯電話番号を入力

2 （音声電話）／（テレビ電話）

メール

ｉモードを契約するだけで、ｉモード端末間はもちろん、インターネットを経由してe-mailのやりとりができます。
テキスト本文に加えて、合計２Mバイト以内のファイル（写真や動画ファイルなど）を10個まで添付することができます。
また、デコメール®にも対応しており、メール本文の文字の色・大きさや背景色を変えられるほか、デコメ絵文字®も使えて、簡単に表現力豊かなメールを送ることができます。
さらにメッセージや画像を挿入したFlash画像のデコメアニメ®にも対応しております。

- ｉモードメールの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

ｉモードメールを送信する

1 待受画面で✉ ▶［新規メール作成］

2 TO欄を選ぶ ▶ 項目を選ぶ

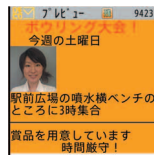
3 SUB欄を選ぶ ▶ 題名を入力

4 ［本文］▶ 本文を入力

5 📷

デコメール®／デコメアニメ®を作成する

デコメール®を作成する

ｉモードメール作成時、本文の色や文字サイズを変更したり、Flash画像などの画像を挿入する、背景に色を付けるなどの装飾を行うことができます。

1 本文入力画面でMENU ▶［デコレーション］

2 装飾する

- パレットやサブメニューから装飾方法を選び、装飾内容を設定して本文を入力します。

つながる

デコメアニメ®を作成する

デコメアニメ®とは、デコメアニメ®テンプレートを利用し、メッセージや画像を挿入したFlash画像を使った表現力豊かなメールサービスです。

1 待受画面で[メール] ▶ [新規デコメアニメ作成] ▶ [編集]

2 テンプレートにカーソルを合わせる ▶ [カメラ]

3 編集項目を選ぶ
- ◆ [ ] ▶ 項目を選ぶ ▶ 編集する
- ◆ [ ] ▶ 編集する
- ◆ [ ] ▶ [画像選択] ▶ 画像にカーソルを合わせる ▶ [カメラ]

4 [カメラ]

かんたんデコメを利用する

メール本文を入力して変換すると、文章から予測して自動的に絵文字やデコメ絵文字®が入力され、文字色、文字サイズ、背景色も変更されます。
また、変換パターンを変更することで、女性向けや男性向けなど、変換候補の表現を変更できます。

- ｉMenu内のサイト[SH-MODE]からダウンロードした変換パターンも利用できます。

1 本文入力後、メール作成画面で[かんたんデコメ]

2 候補を選ぶ
- 変換候補を一時的に保存：[メール]
- 保存していた変換候補に戻す：[ ]
- 変換パターンの変更：[MENU] ▶ [変換パターン] ▶ 変換パターンを選ぶ
- 絵文字の入力箇所を変える：[MENU] ▶ [絵文字挿入] ▶ 設定を選ぶ
- 自動的に文字色／文字サイズ／背景色を変える：[MENU] ▶ 変換項目を選ぶ ▶ 設定を選ぶ
- [カメラ]を押すたびに設定した変換項目に従って変更されます。

フォントチェンジを利用する

メール本文を入力して変換すると、フォントを変えることができます。

- ｉMenu内のサイト[SH-MODE]からダウンロードしたフォントも利用できます。

1 本文入力後、メール作成画面で[メールチェンジ] ▶ [フォントチェンジ]

2 [はい]

3 候補を選ぶ
- フォントの種類を選ぶ：[メール] ▶ フォントを選ぶ

受信したｉモードメールを見る

1 ｉモードメールを自動的に受信

2 受信終了後、受信完了画面が表示され、ｉモードメール着信音が鳴る

● 受信完了画面で、何も操作しないでそのままにしておくと、約15秒後、自動的に受信前の画面に戻ります。

3 [メール] ▶ メールを選ぶ

● 本文の文末には[- END -]が表示されます。受信可能文字数を超えたときは、[/]または[//]が表示され、超えた部分が自動的に削除されます。

受信／送信／未送信BOXのメールを見る

1 待受画面で✉

2 BOXを選ぶ

3 メールを選ぶ

ｉモードメールに返信する

1 受信メール詳細画面でMENU ▶ [返信／転送]

2 返信方法を選ぶ

3 メールを作成・送信

ｉモードメールが届いているか問い合わせる

圏外、セルフモード中、電源が入っていないときなどに送られてきたｉモードメールやメッセージR／Fはｉモードセンターに保管されています。ｉモードセンターに問い合わせて受信できます。

1 待受画面で✉ ▶ [メール／メッセージ問合せ]

ｉモードメールを振り分ける

ユーザフォルダに振分け条件を設定すると、条件に合ったｉモードメールやSMSを自動的に振り分けることができます。

1 フォルダにカーソルを合わせる ▶ MENU ▶ [振分け条件設定]

2 登録する番号を選ぶ

3 振分け条件を設定

4 複数の振分け条件を設定するときは、操作２～３を繰り返す

5 📷

メールにフラグを設定する

1 メールにカーソルを合わせる ▶ MENU ▶ [保護／フラグ] ▶ [フラグON]／[フラグOFF]

2 設定方法を選ぶ

緊急速報「エリアメール」

気象庁から配信される緊急地震速報などを受信することができるサービスです。

- ｉモードを契約しなくても、エリアメールの受信ができます。

エリアメールを受信する

1 エリアメールを自動的に受信

2 受信すると、専用警報音（ブザー音）またはエリアメール専用着信音が鳴り、着信ランプが点滅

- エリアメールには、受信完了後に本文が自動表示されるものと、[エリアメールを受信しました]と表示されるものがあります。
- [エリアメールを受信しました]と表示されたときは、約30秒経過すると自動的に受信前の画面に戻ります。

エリアメールの設定をする

1 待受画面で[メール] ▶ [メール設定] ▶ [緊急速報「エリアメール」設定]

2 [受信設定] ▶ 設定を選ぶ

SMSを利用する

携帯電話番号を宛先とするSMSを利用できます。

SMSを送信する

1 待受画面で[メール] ▶ [新規SMS作成]

2 TO欄を選ぶ ▶ 項目を選ぶ

3 [本文] ▶ 本文を入力

4 [カメラ]

受信したSMSを見る

1 SMSを自動的に受信

2 受信終了後、受信完了画面が表示され、SMS着信音が鳴る

3 [メール] ▶ SMSを選ぶ

電話帳

FOMA端末電話帳とドコモUIMカード電話帳の両方を使用できます。

電話帳に登録する

- 1件の電話帳に登録できる内容は次のとおりです。
  - ■ FOMA端末電話帳：メモリ番号、名前、フリガナ、画像・動画、グループ、電話番号、メールアドレス、誕生日、テキストメモ、郵便番号／住所、位置情報、会社名、所属、役職名、URL
  - ■ ドコモUIMカード電話帳：名前、フリガナ、グループ、電話番号、メールアドレス
- ・フリガナは名前を入力すると自動的に入力されます。

新しい電話番号／メールアドレスなどを登録する

1. ノーマルメニューで[電話機能]▶[電話帳]▶[電話帳登録]／[UIMカード(FOMAカード)操作]
2. 各項目を設定▶📷

リダイヤル／着信履歴から電話帳に登録する

1. 待受画面で◎(リダイヤル)／◎(着信履歴)
2. 電話番号にカーソルを合わせる▶MENU▶[登録]▶[電話帳新規登録]
3. 電話帳に登録

電話帳を修正する

1. 待受画面で◎▶名前にカーソルを合わせる▶MENU▶[編集／設定]▶[編集]
2. 電話帳を修正▶📷
3. 電話帳に登録
   - ◆[上書き登録]
   - ◆[新規登録]

電話帳を削除する

1. 待受画面で◎▶名前にカーソルを合わせる▶MENU▶[電話帳削除]
2. 削除方法を選ぶ

ｉモード／フルブラウザ

ｉモードサイトを表示する

ｉモードでは、ｉモード対応FOMA端末（以下ｉモード端末）のディスプレイを利用して、サイト接続、インターネット接続、ｉモードメールなどのオンラインサービスをご利用いただけます。

- ｉモードはお申し込みが必要な有料サービスです。
- ｉモードの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

ｉモードのご利用にあたって

- サイトやインターネット上のホームページの内容は、一般に著作権法で保護されています。これらサイトやインターネットホームページからｉモード端末に取り込んだ文章や画像などのデータを、個人として楽しむ以外に、著作権者の許可なく一部あるいは全部をそのまま、または改変して販売、再配布することはできません。
- 別のドコモUIMカードを差し替えたり、ドコモUIMカードを未挿入のまま電源ONにした場合、機種によってサイトから取り込んだ静止画・動画・メロディやメールで送受信した添付ファイル（静止画・動画・メロディなど）、「画面メモ」および「メッセージR／F」などを表示・再生できません。
- ドコモUIMカードにより表示・再生が制限されているファイルを待受画面・指定着信音などに設定している場合、別のドコモUIMカードを差し替えたり、ドコモUIMカードを未挿入のまま電源ONにすると、設定内容は初期状態にリセットされます。

1 待受画面で[i]

2 項目を選ぶ

パソコン向けのホームページを表示する

フルブラウザを利用すると、ｉモードに対応していないサイトをパソコンと同じようにFOMA端末で表示することができます。

- 画像を多く含むホームページの閲覧、データのダウンロードなど、データ量の多い通信を行うと通信料金が高額になりますのでご注意ください。
- Wi-Fiを使用してフルブラウザを利用することができます。Wi-FiからFOMAのネットワークに切り替えるとパケット通信料がかかります。また、FOMAのネットワークに切り替えた場合、自動的にWi-Fiには戻りませんのでご注意ください。

1 ノーマルメニューで［ｉモード／web］▶［フルブラウザホーム］

- 情報量の多いサイトは、正しく表示されない場合があります。

ブラウザを切り替える

iモードのとき

1 iモードでサイト表示中に[MENU]▶［フルブラウザ］▶［フルブラウザ切替］

フルブラウザのとき

1 フルブラウザでサイト表示中に[MENU]▶［iモードブラウザ］▶［iモードブラウザ切替］

● iモードとフルブラウザでは通信料金が異なりますので、切り替えるときはご注意ください。

サイトの見かたと操作

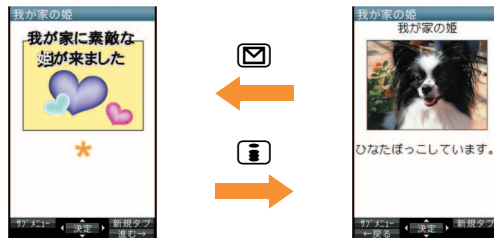
リンクを選んで画面を移動する

リンクが設定されている文字列は、通常、青色で表示されます。選択されているリンクは、反転表示されます。

● 画像にリンクが設定されていることもあります。選択すると画像が実線で囲まれます。

1 サイト表示中にリンクを選ぶ

前のページに戻る／次のページに進む

サイトなどを表示してきた経路を記憶しています。通信を行わず[✉]／[i]を押して表示することができます。これを「キャッシュ」といいます。

● キャッシュに記憶されたページを表示するときは、以前入力した文字や設定などの情報は表示されません。

● キャッシュの情報は、iモード／フルブラウザを終了するとリセットされます。

● iモードからフルブラウザに切り替えたときは、[✉]を押してiモードで表示していたページに戻ることができます。同様に、フルブラウザからiモードに切り替えたときでも、[✉]を押してフルブラウザで表示していたページに戻ることができます。

しらべる

よく見るサイトを登録する

よく見るサイトやインターネットホームページのURLをBookmarkに登録しておくと、すぐに見たいページを表示できます。

1 サイト表示中にMENU ▶ [Bookmark] ▶ [Bookmark登録]

2 [OK]

3 フォルダを選ぶ

Bookmarkからサイトを表示する

1 ノーマルメニューで[ｉモード／web] ▶ [Bookmark]

2 Bookmarkを選ぶ
- Bookmark一覧は利用した順に表示されます。
- ｉモードのBookmarkはｉモード接続し、フルブラウザのBookmarkはフルブラウザ接続します。

サイトの内容を保存する

お好きなサイトなどの画面を、FOMA端末やmicroSDカードに画面メモとして登録（保存）しておくことができます。

1 サイト表示中にMENU ▶ [画面メモ] ▶ [画面メモ保存]

2 保存先を選ぶ ▶ [はい]
- 画面メモが登録されます。
- スクリーンキャプチャのみ登録：保存先を選ぶ ▶ [表示のみ保存]

- ページサイズが０バイトのサイトや画面メモ保存不可の指定をしているサイトなど、サイトによっては画面メモに登録できない場合があります。

画面メモを表示する

1 ノーマルメニューで[ｉモード／web] ▶ [画面メモ]

2 画面メモを選ぶ
- 画面メモ内のリンクを選んだ場合、ｉモードの画面メモではｉモード接続し、フルブラウザの画面メモではフルブラウザ接続します。

ｉチャネル

ニュースや天気などの情報がｉチャネル対応端末に配信されるサービスです。自動的に受信した最新の情報が待受画面にテロップとして流れます。また、ｉチャネル対応ボタンを押すことで最新情報がチャネル一覧に表示されます。

ｉチャネルはお申し込みが必要な有料サービスです（お申し込みにはｉモード契約が必要です）。

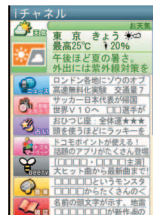
また、ｉチャネルにはドコモが提供する「ベーシックチャネル」とIP（情報サービス提供者）が提供する「おこのみチャネル」の２種類があります。「ベーシックチャネル」は、配信される情報の自動更新時にパケット通信料はかかりません。お好きなチャネルを登録し利用できる「おこのみチャネル」は、情報の自動更新時に別途パケット通信料がかかります。「ベーシックチャネル」、「おこのみチャネル」共に、詳細情報を閲覧する場合は別途パケット通信料がかかりますのでご注意ください。

国際ローミングサービスご利用の際は、自動更新・詳細情報の閲覧共にパケット通信料がかかります。

ｉチャネルの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード＜FOMA＞編）』をご覧ください。

ｉチャネルを表示する

1 待受画面でCLR（ch）

2 チャネルを選ぶ

ｉチャネルの表示について設定する

待受画面やサブディスプレイにｉチャネルテロップを表示するかどうかを設定します。

1 ノーマルメニューで［ｉモード／web］▶［ｉチャネル］▶［テロップ表示設定］

2 テロップの表示先を選ぶ▶各項目を設定▶📷

- ［メイン画面］を選択した場合は、画面下部にテロップの見本が表示されます。

しらべる

地図・GPS

- FOMA端末の故障、誤動作、あるいは停電などの外部要因（電池切れを含む）によって、測位（通信）結果の確認などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末は、航空機、車両、人などの航法装置として使用できません。そのため、位置情報を利用して航法を行うことによる損害が発生しても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 高精度の測量用GPSとしては使用できません。そのため、位置の誤差による損害が発生しても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- GPSは米国国防総省により運営されておりますので、米国の国防上の都合により、GPSの電波の状態がコントロール（精度の劣化、電波の停止など）されることがあります。
- 位置提供や現在地通知のご利用にあたっては、情報提供者やドコモのホームページなどのお知らせをご確認ください。また、これらの機能の利用は有料となる場合があります。
- FOMA端末が圏外のときは現在地確認を除き、GPS機能をご利用いただけません。

地図を利用する

GPS対応ｉアプリを起動して、現在地や指定した場所の地図を見ることができます。

1 ノーマルメニューで[地図／海外]▶[地図]

- 現在地の測位終了後、GPS対応ｉアプリが起動します。

ナビを利用する

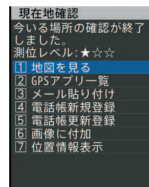
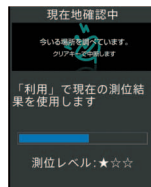
GPS対応ｉアプリを起動して、ナビゲーションの機能を利用することができます。

1 ノーマルメニューで[地図／海外]▶[ナビ]

現在地を確認する

現在地を測位して、自分がいる場所を確認します。測位した位置情報を利用して地図を表示したり、位置情報をURL化しメールに貼り付けて送信するなどの操作を行うことができます。

- 現在地確認した際の通信料は無料です。ただし、位置情報から地図を表示した場合などは、別途パケット通信料がかかります。

1 ノーマルメニューで[地図／海外]▶[現在地確認／通知]▶[現在地確認]

2 利用方法を選ぶ

オートGPSを利用する

お客様の居場所に合わせて、天気情報や店舗情報などの周辺情報や観光情報をお知らせするサービスなど、さまざまなサービスをご利用いただけます。

- オートGPS機能を利用すると、お客様の移動状況に基づき自動的に現在地を測位して、サービス提供者に位置情報や歩数計情報を送信します(お客様の移動状況に応じて、おおむね5分に1回測位します)。
- オートGPS機能に対応しているサービスを利用するには、各サービスのオートGPS機能対応iアプリからオートGPSサービス情報を設定してください。ドコモが提供するサービスでオートGPS機能を利用するには、ドコモ提供サービス設定を[利用する]に設定してください。
- オートGPSサービスは、ドコモが提供するサービスのほかに5件まで登録できます。
- オートGPS機能のご利用にあたっては、GPSサービス提供者やドコモのホームページなどでのお知らせをご確認ください。また、これらのサービスの利用は有料となる場合があります。
- 位置情報の送信にはパケット通信料がかかる場合があります。
- お客様のご利用状況によっては定期的に通信を行い、FOMA端末の消費電力が増加しますので、あらかじめご了承ください。

オートGPS機能を設定する

1. ノーマルメニューで[地図／海外]▶[地図・GPS設定／履歴]▶[オートGPS]
2. [オートGPS動作設定]▶設定を選ぶ

ドコモが提供するサービスを利用する

ドコモのオートGPSサービスを利用すると、FOMA端末の位置情報をドコモに定期的に自動送信し、iコンシェルやドコモが提供する各種サービスと連動したサービスを受けることができます。

- 各種サービスは別途お申し込みや利用設定が必要となります。

1. ノーマルメニューで[地図／海外]▶[地図・GPS設定／履歴]▶[オートGPS]▶[ドコモ提供サービス設定]
2. [利用する]▶[OK]

カメラ

撮影画面の見かたと操作

撮影画面の見かた

動画撮影

1 フォーカス枠　2 マーク表示位置
3 ズームバー　4 状態表示
5 残り時間

撮影画面の主なボタン操作

カメラギャラリー	✉	撮影切替	i
明るさ調整	◎	ズーム調整	◎
フォーカスロック	✓	撮影モード切替	1
デフォルト設定に戻す	3	手ぶれ補正	4
画質選択	6	ホワイトバランス	7
セルフタイマー	8	その他設定	9
保存先選択	＊	操作ガイド起動	0
マイカメラ	＃		

静止画／動画を撮影する

- カメラは非常に精密度の高い技術で作られていますが、常時明るく見える画素や線、暗く見える画素や線もあります。また、特に光量が少ない場所での撮影では白い線などのノイズが増えますので、ご了承ください。
- カメラのレンズに直射日光が長時間当たると、内部のカラーフィルターが変色して映像が変色することがあります。
- 太陽やランプなどの強い光源が含まれる撮影環境で被写体を撮影しようとすると、画像が暗くなったり画像が乱れることがありますので、ご注意ください。
- 太陽を直接撮影すると、CCDの性能を損なうときがありますので、ご注意ください。
- 電池残量が少ないときは、撮影した静止画や動画を保存できない場合があります。

静止画を撮影する

1 待受画面で📷
- 静止画撮影を起動すると撮影ランプが点灯します。

2 ◉／D
- 静止画を撮影します。

3 ◉／D
- 静止画を保存します。

たのしむ

動画を撮影する

1 ノーマルメニューで[カメラ/TV/MUSIC]▶[カメラ]▶[動画撮影]
- 動画撮影を起動すると撮影ランプが点灯します。

2 ◎/D
- 中央の被写体に自動的にピントを合わせて撮影します。
- 撮影一時停止/再開:MENU

3 撮影を止めるときは◎/D

4 [保存]

撮影した静止画/動画を見る

撮影した静止画を見る

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[マイピクチャ]

2 [カメラ]フォルダ▶静止画を選ぶ
- 待受画面などに設定:静止画にカーソルを合わせる▶MENU▶[画面設定]▶項目を選ぶ

撮影した動画を見る

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[iモーション・ムービー]

2 [カメラ]フォルダ▶動画を選ぶ
- 待受画面などに設定:動画にカーソルを合わせる▶MENU▶[音・映像設定]▶項目を選ぶ

さまざまな方法で撮影する

ISO感度

光量の足りない場所でも、明るく、ぶれの少ない写真が撮影できます。

1 静止画撮影画面でMENU▶📷▶[撮影メニュー]▶[ISO感度]

2 設定を選ぶ

シーン別撮影

自然な色合いやピントで撮影できるよう、撮影環境や被写体に応じた撮影モードを設定できます。

1 撮影画面でMENU▶📷▶[撮影メニュー]▶[シーン別撮影]

2 モードを選ぶ

フォーカス設定

被写体に合わせて、AF(オートフォーカス)モードの切り替えができます。

1 撮影画面でMENU▶[AF]

2 項目を選ぶ

たのしむ

顔登録

顔の画像を撮影して顔情報として登録したり、登録した顔情報名とフォーカスマークを静止画撮影画面で表示し撮影できます。

1 静止画撮影画面でMENU ▶ 📷 ▶ [顔登録]

2 [新規登録]

3 顔を検出する ▶ ◉／Ⓓ

- 顔が検出されるとガイド枠が赤色になります。

4 各項目を設定

5 MENU ▶ [はい]

- 登録した顔情報名は分類登録[アルバム]内で表示される項目になり、データ検索から画像を検索することができます。

エフェクトカメラ

撮影する静止画や動画にエフェクトを設定し、色合いやタッチを変えて撮影できます。

- 静止画撮影の場合、撮影サイズが「3M：1536×2048」、「フルHD：1080×1920」、「待受：480×854」、「VGA：480×640」、「QVGA：240×320」、「QCIF：176×144」のときにエフェクト撮影できます。
- 動画撮影の場合、次の設定のときにエフェクト撮影できます。
  - ■ 撮影サイズ：「QVGA：320×240」、「QCIF：176×144」
  - ■ 映像・音声切替：[映像＋音声]、[映像のみ]
  - ■ 共通再生モード：[OFF]
  - ■ シーン別撮影：[標準]
  - ■ 顔認識フォーカス：[OFF]
  - ■ チェイスフォーカス：[OFF]

1 ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC] ▶ [カメラ] ▶ [アレンジカメラ] ▶ [エフェクトカメラ] ▶ 📷

2 エフェクトの種類を選ぶ

3 ◉／Ⓓ

- 静止画を撮影します。

連写カメラ

連続撮影をしたり、連続撮影した静止画からお好みの写真を選んで保存できます。

1 ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC] ▶ [カメラ] ▶ [連写カメラ]

2 設定を選ぶ

3 ◉／Ⓓ

- 1枚目が撮影され、以降自動的に撮影されます。

4 画像を保存する

通常(ON)／ON／ブラケット／ベストセレクトフォト／マニュアルの場合

- 画像を保存：画像を選ぶ ▶ ◉／Ⓓ

オススメフォト／ストロボフォトの場合

- 表示された画像のみ保存：◉／Ⓓ

ワンセグ

ワンセグのご利用にあたって

ワンセグは、テレビ放送事業者(放送局)などにより提供されるサービスです。映像、音声の受信には通信料がかかりません。なお、NHKの受信料については、NHKにお問い合わせください。

※「データ放送サイト」「iモードサイト」などを閲覧する場合は、パケット通信料がかかります。
サイトによっては、ご利用になるために情報料が必要なもの(iモード有料サイト)があります。

※「ワンセグ」サービスの詳細については、下記のホームページなどでご確認ください。
社団法人　デジタル放送推進協会
パソコンから　http://www.dpa.or.jp/
iモードから　http://www.dpa.or.jp/1seg/k/

放送波について

ワンセグは、放送サービスの1つであり、FOMAサービスとは異なる電波(放送波)を受信しています。
次のような場所では、受信状態が悪くなったり、受信できなくなったりする場合があります。

- ■ 放送波が送信される電波塔から離れている場所
- ■ 山間部やビルの陰など
- ■ トンネル、地下、建物内の奥まった場所など

受信状態を良くするためには、ワンセグアンテナを十分伸ばしてください。また、アンテナの向きを変えたり、FOMA端末を体から離したり近づけたり、場所を移動することで受信状態が良くなることがあります。

電池残量について

電池残量が少ないときに録画を開始した場合、または録画中に電池残量が少なくなった場合は、録画ができない旨のメッセージが表示され、録画が終了します。

- しばらくの間何も操作しないと、自動的にワンセグが終了します。

はじめてワンセグを利用する場合の画面表示

お買い上げ後、はじめてワンセグを利用する場合、免責事項の確認画面が表示されます。
表示される内容を確認して◉を押してください。以後、同様の確認画面は表示されません。

ワンセグをご利用になる前に

- 充電しながらワンセグの視聴を長時間行うと、電池パックの寿命が短くなることがあります。
- FOMA端末の故障・修理やその他取り扱いによって、保存内容が消失・変化しても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
なお、FOMA端末を機種変更や故障修理する際に、端末内に保存した情報(ワンセグから録画したビデオや静止画、テレビリンク、放送用保存領域に保存された情報など)は移し替えできません。

チャンネルを設定する

ワンセグを利用するには、あらかじめチャンネル設定を行い、チャンネルリストを１つ選択しておく必要があります。

自動チャンネル設定

あらかじめ用意されている各地域の放送局の情報から、ご利用になる都道府県／地区を選び、自動的に放送局を検索してチャンネルリストに登録します。

- 自動チャンネル設定は、地上デジタルテレビ放送サービスのエリア内でワンセグアンテナを十分伸ばしてから行ってください。

1. ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC] ▶[ワンセグ]▶[チャンネルリスト]
   - 確認画面が表示されたとき：[はい]▶[自動チャンネル設定] ▶[はい]▶操作３へ
2. MENU▶[新規作成]▶[自動チャンネル設定]▶[はい]
3. 都道府県／地区を選ぶ
4. [はい]

プリセットから設定

あらかじめ用意されている各地域の放送局の情報から、ご利用になる都道府県／地区を選んでチャンネルリストに登録します。

1. ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC] ▶[ワンセグ]▶[チャンネルリスト]
   - 確認画面が表示されたとき：[はい]▶[プリセットから設定] ▶操作３へ
2. MENU▶[新規作成]▶[プリセットから設定]
3. 地域を選ぶ
4. 都道府県／地区を選ぶ
5. [はい]

ワンセグを見る

1. ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC] ▶[ワンセグ]▶[ワンセグ視聴]

待受画面で📷（１秒以上）でもワンセグを起動できます。

たのしむ

視聴画面の見かたと操作

ワンセグ視聴画面の見かた

1 映像　2 字幕
3 データ放送　4 チャンネル番号
5 放送局・番組名　6 マーク表示位置

ワンセグ視聴画面の主なボタン操作

映像モード

UP／DOWN選局	◎
ワンタッチ選局	1～9、*、0、#
サーチ選局	◎(1秒以上)／◎(1秒以上) ● サーチ選局の中止:◎／CLR
音量調節	◎
ミュート／解除	✓
字幕設定ON／OFF	✓(1秒以上)
番組表iアプリ起動	📷
ビデオ録画	✉(1秒以上) ● 録画停止:✉
静止画録画	✉
操作切替	i

ワンセグの視聴や録画を予約する

1 ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC]▶[ワンセグ]▶[予約／予約リスト]

2 MENU▶[新規予約]▶[視聴予約]／[録画予約]

3 各項目を設定▶📷▶📷
- [録画予約]の場合、電波状況などによっては録画が正常に行われない可能性がある旨の確認画面が表示されます。

録画したビデオを再生する

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[ワンセグ]

2 [ビデオ]フォルダ▶ビデオを選ぶ

たのしむ

音楽データの取り扱いについて

- 本書ではミュージックプレーヤーで再生する着うたフル®とWMA（Windows Media® Audio）ファイルを合わせて「音楽データ」と記載しています。
  - ・「着うたフル」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。
- FOMA端末では、著作権保護技術で保護されたWMAファイルや着うたフル®を再生できます。
- インターネット上のホームページなどから音楽データをダウンロードする際には、あらかじめ利用条件（許諾、禁止行為など）をよくご確認の上、ご利用ください。
- 著作権保護技術で保護されたWMAファイルは、FOMA端末固有の情報を利用して再生しています。故障や修理、機種変更などでFOMA端末固有の情報が変更された場合、変更前に保存したWMAファイルは再生できなくなることがあります。
- CCCD（コピーコントロールCD）の取り扱いや、音楽データをWMAファイルとして保存できない場合については、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末やmicroSDカード内に保存した音楽データは、個人使用の範囲内でのみ使用することができます。ご利用にあたっては、著作権などの第三者の知的財産権その他の権利を侵害しないよう十分ご配慮ください。また、FOMA端末やmicroSDカード内に保存した音楽データは、パソコンなど他の媒体に複製または移動しないでください。

Music&Videoチャネルについて

Music&Videoチャネルとは、事前にお好みの音楽番組などを設定するだけで、夜間に最大１時間程度の番組が自動配信されるサービスです。

- Music&Videoチャネルはお申し込みが必要な有料サービスです（お申し込みにはｉモード契約およびｉモードパケット定額サービスのご契約が必要です）。
- Music&Videoチャネルのサービス利用料のほかに、番組によって別途情報料がかかる場合があります。
- Music&Videoチャネルにご契約いただいたあと、Music&Videoチャネル非対応のFOMA端末にドコモUIMカードを差し替えた場合、Music&Videoチャネルはご利用いただけません。ただし、Music&Videoチャネルを解約されない限りサービス利用料がかかりますのでご注意ください。
- 国際ローミング中は番組設定や取得は行えません※。海外へお出かけの際は、事前に番組の配信を停止してください。また、帰国された際は、番組の配信を再開してください。
  ※ 国際ローミング中に番組設定や取得を行おうとした場合、ｉモード接続を行うためパケット通信料がかかりますのでご注意ください。
- ｉモードまたはMusic&Videoチャネルの解約やマイメニュー登録の削除を行うと、配信番組フォルダ内の番組データが削除されることがあります。
- Music&Videoチャネルの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

番組を設定する

1 ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC]▶[Music&Videoチャネル]▶[番組設定]

2 画面の指示に従って番組を設定

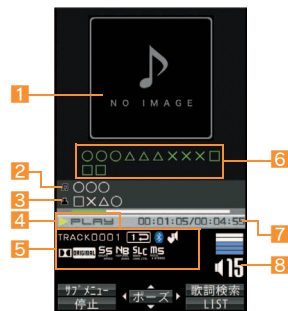
- 番組配信の12時間前になると、待受画面に[ ]が表示されます。
  番組の取得は夜間に自動的に行われます。取得に成功すると、[ ]が表示されます。取得に失敗した場合は、[ ]が表示されます。この場合は、手動で取得してください。

番組を再生する

1 ノーマルメニューで[カメラ／TV／MUSIC]▶[Music&Videoチャネル]

2 番組を選ぶ

ミュージックプレーヤー画面の見かたと操作

ミュージックプレーヤー画面の見かた

1 ジャケット画像　2 タイトル名
3 アーティスト名　4 再生状態
5 マーク表示位置　6 うた文字エリア
7 再生時間／総再生時間　8 音量

たのしむ

ミュージックプレーヤー画面の主なボタン操作

一時停止/再生	◎
停止	✉
音量調節	◎
ミュート/解除	✓
前の曲に戻す/頭出し※	◎
早戻し	◎(1秒以上)
次の曲を再生	◎
早送り	◎(1秒以上)
ボタンに割り振られた再生開始位置にジャンプ	1:先頭 2~9:総再生時間の約1/9ずつ先の位置

※ 再生経過時間が約2秒未満:前の曲に戻る
　再生経過時間が約2秒以上:頭出し

着うたフル®をダウンロードする

サイトから着うたフル®をダウンロードして保存できます。

- 5Mバイトまでの着うたフル®をダウンロードできます。

1 サイト表示中に着うたフル®を選ぶ

2 [保存] ▶ 保存先を選ぶ

音楽データを再生する

1 ノーマルメニューで[データBOX] ▶ [ミュージック]

2 音楽データを選ぶ

前回再生していた音楽データがあるときは、[続きから再生]を選ぶと、停止した位置から再生されます。

ｉアプリ／ｉウィジェット

ｉアプリを起動する

「ｉアプリ」とは、ｉモード対応携帯電話用のソフトです。ｉモードサイトからさまざまなソフトをダウンロードすれば、自動的に株価や天気情報などを更新させたり、ネットワークに接続していない状態でもゲームを楽しんだり、FOMA端末をより便利にご利用いただけます。

- 海外でご利用の場合は、国内でのパケット通信料と異なります。
- ｉアプリの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。
- お買い上げ時に登録されているソフトを削除後にもう一度ご利用になるときは、ｉMenu内のサイト[SH-MODE]からダウンロードできます。
  [ｉMenu] ▶ [メニューリスト] ▶ [ケータイ電話メーカー] ▶ [SH-MODE]
  - ・ダウンロードには別途パケット通信料がかかります。

サイト接続用QRコード

1 ノーマルメニューで[ｉアプリ] ▶ [ソフト一覧]

2 起動するソフトを選ぶ

ウィジェットアプリを起動する

ｉウィジェットとは電卓・時計や、メモ帳、株価情報など頻繁に利用する任意のコンテンツおよびツール（ウィジェットアプリ）を簡単にアクセスすることができる便利な機能です。
ウィジェットアプリはサイトからダウンロードすることにより、追加することが可能です。
ｉウィジェット画面に貼り付けると、次回すぐに利用できます。

- ｉウィジェット画面を表示すると、複数のウィジェットアプリが通信することがあります。
- 詳細情報を閲覧する場合は別途パケット通信料がかかります。
- ｉウィジェットの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

1 待受画面で◎
- ｉウィジェット画面が表示されます。

2 ウィジェットアプリを選ぶ

3 ✉／CLR
- ｉウィジェット画面にウィジェットアプリが貼り付けられます。
- ウィジェットアプリを終了：ｉ ▶ [YES]

たのしむ

ｉモーション・ムービー

サイトからｉモーションを取得して再生する

ｉモーションとは、映像や音声、音楽のデータです。ｉモーション対応サイトなどから、FOMA端末に取得し、再生することができます。

- 再生できるｉモーションは次のとおりです。

タイプ	説　明
標準タイプ（保存可※）	データを取得してから再生します。
	データを取得しながら再生します。
ストリーミングタイプ（保存不可）	データを取得しながら再生します。

※ ｉモーションによっては、標準タイプでも保存できないものがあります。

- 保存したｉモーションは、ｉモーションプレーヤーで再生できます。

1 サイト表示中にｉモーションを選ぶ

- ｉモーションを保存：ｉモーションの再生／一時停止中に MENU ▶［保存］▶フォルダにカーソルを合わせる▶ 📷
  - ・ｉモーションの再生が終了したとき：［保存］▶フォルダにカーソルを合わせる▶ 📷

サイトからムービーを取得して再生する

インターネット上のポータル系サイトや動画専門サイトなどで提供されている動画（ムービー）は、FOMA端末のインターネットムービープレーヤーで再生できます。

- インターネットムービープレーヤーはWindows Media Video、Windows Media Audioの再生に対応しています。
- フルブラウザでの容量制限のないストリーミングタイプのムービーなど、送受信データが大きい場合はパケット通信料が高額になりますので、ご注意ください。
- 再生できるムービーは次のとおりです。

タイプ	配信方式	説　明
ストリーミングタイプ	ライブ配信	ムービーがリアルタイムで配信されます。
	オンデマンド配信	あらかじめサーバ上に用意されたムービーが配信されます。

1 サイト表示中にムービーを選ぶ▶［はい］

- microSDカードのインポートフォルダのムービーを再生：ノーマルメニューで［便利ツール］▶［microSD］▶［インポート］▶［ｉモーション・ムービー］▶ムービーを選ぶ

おサイフケータイ

おサイフケータイ／トルカについて

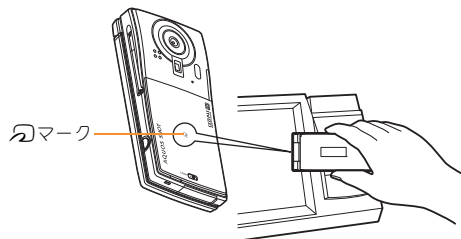
おサイフケータイは、ＩＣカードが搭載されておりお店などの読み取り機にFOMA端末をかざすだけで、お支払いやクーポン券、スタンプラリーなどがご利用いただける機能です。さらに、読み取り機にFOMA端末をかざしてサイトやホームページにアクセスしたり、通信を利用して最新のクーポン券の入手、電子マネーの入金や利用状況の確認などができます。また、安心してご利用いただけるよう、セキュリティも充実しています。
トルカとはおサイフケータイで取得できる電子カードで、チラシやレストランカード、クーポン券などの用途で便利にご利用いただけます。

● FOMA端末の故障により、ＩＣカード内データ（電子マネー、ポイントなど含む）が消失・変化してしまう場合があります（修理時など、FOMA端末をお預かりする場合は、データが残った状態でお預かりすることができませんので、原則データをお客様自身で消去していただきます）。データの再発行や復元、一時的なお預かりや移し替えなどのサポートは、ｉＣお引っこしサービスによる移し替えを除き、おサイフケータイ対応サービス提供者にご確認ください。重要なデータについては必ずバックアップサービスのあるサービスをご利用ください。
● 故障、機種変更など、いかなる場合であっても、ＩＣカード内のデータの消失・変化、その他おサイフケータイ対応サービスに関して生じた損害について、当社としては責任を負いかねます。
● FOMA端末の盗難、紛失時は、すぐにご利用のおサイフケータイ対応サービスの提供者に対応方法をお問い合わせください。

読み取り機にかざす

FOMA端末のマークを読み取り機にかざして、電子マネーや乗車券として利用したり、トルカを取得したりできます。

● 読み取り機にかざすときは、次のことに注意してください。
  ■ FOMA端末を読み取り機にぶつけない
  ■ マークと読み取り機を平行にかざす
  ■ マークはできるだけ読み取り機の中心位置にかざす
  ■ 読み取り機に認識されないときは、マークを前後左右にずらしてかざす
  ■ マーク面に金属物などを付けない

より便利に

ｉコンシェル

「ｉコンシェル」とは、執事やコンシェルジュのように、お客様の生活をサポートするサービスです。お客様のさまざまなデータをお預かりし、メモやスケジュールの内容、生活エリアやお客様の居場所、趣味嗜好にあわせた情報を適切なタイミングでお届けします。ｉコンシェルの情報は、待受画面上でマチキャラ（待受画面上のキャラクタ）がお知らせします。

- ｉコンシェルはお申し込みが必要な有料サービスです（お申し込みにはｉモードの契約が必要です）。
- ケータイデータお預かりサービスのご契約をされていないお客様が、ｉコンシェルを新たにご契約になる場合、同時にケータイデータお預かりサービスにもご契約いただいたことになります。
- コンテンツ（インフォメーション、ｉスケジュールなど）によっては、ｉコンシェルの月額使用料のほかに、別途情報料がかかる場合があります。
- インフォメーションの受信には一部を除いて別途パケット通信料がかかります。
- 詳細情報のご利用には別途パケット通信料がかかります。
- 国際ローミングサービスご利用の際は、受信・詳細情報の閲覧共にパケット通信料がかかります。また、海外でご利用の場合は、国内でのパケット通信料と異なります。
- ｉコンシェルを海外でご利用になる場合は海外利用設定が必要となります。
- ｉスケジュール・メモ・トルカ・電話帳の自動更新時には別途パケット通信料がかかります。
- ｉコンシェルの詳細については、『ご利用ガイドブック（ｉモード<FOMA>編）』をご覧ください。

ポップアップメッセージが表示されたときは

インフォメーションを受信したり、今日の予定通知設定時刻、スケジュールアラーム設定時刻になると、待受画面にポップアップメッセージを表示してお知らせします。

1. 待受画面にポップアップメッセージ表示 ▶ ◉
2. ポップアップメッセージを選ぶ

「ひつじのしつじくん®」
©NTT DOCOMO

ｉコンシェル画面を表示する

1. ノーマルメニューで［ｉコンシェル］
2. 機能アイコンを選ぶ

より便利に

便利ツール

スケジュールを利用する

● 日付と件名は必ず設定してください。

ノーマルの場合

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[スケジュール]▶MENU▶[新規作成]

2 各項目を設定▶i

アラームを利用する

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[アラーム]

2 登録する番号を選ぶ

3 各項目を設定▶📷

● 項目の切替:◎

バーコードリーダーを利用する

1 ノーマルメニューで[カメラ/TV/MUSIC]▶[カメラ]▶[読取りカメラ]▶[バーコードリーダー]

2 ディスプレイの中央に読み取るバーコードを表示▶◎

● バーコード(JANコード、QRコード)の真正面からカメラまでを10cm以上離して、バーコードやFOMA端末をできるだけ固定すると認識されやすくなります。

3 読み取り結果を利用する

Bluetooth機能

FOMA端末とBluetooth機器をワイヤレスで接続できます。

● すべてのBluetooth機器とのワイヤレス通信を保証するものではありません。

● Bluetooth機器が発信する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所ではFOMA端末の電源および周囲のBluetooth機器の電源を切ってください。

■ 電車内　■ 航空機内　■ 病院内

■ 自動ドアや火災報知機から近い場所

■ ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所

Bluetooth機器をFOMA端末に登録する

● Bluetooth機器の登録には、Bluetoothパスキーの入力が必要になります。登録を始める前にお好きな4～16桁の数字を決めておき、FOMA端末・相手のBluetooth機器で同じ数字を入力します。

● あらかじめ相手のBluetooth機器を登録待機状態にしておいてください。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Bluetooth]▶[機器リスト・接続・切断]

- 登録済みの機器があるときは、機器リスト画面が表示されます。[カメラ]を押して操作3に進みます。

2 [はい]

3 登録するBluetooth機器にカーソルを合わせる▶[MENU]▶[機器登録]

4 Bluetoothパスキーを入力

- 相手のBluetooth機器によっては、Bluetoothパスキーの入力が不要な場合もあります。

Bluetooth機器と接続する

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Bluetooth]▶[機器リスト・接続・切断]

2 接続するBluetooth機器を選ぶ

登録待機／接続待機にする

待受画面で、他のBluetooth機器からの登録要求／接続要求を受けられる状態にします。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Bluetooth]▶[接続待機]

- 待機状態を解除する場合は、Bluetooth電源をOFFにしてください。

FOMA端末のBluetooth電源をON／OFFにする

- Bluetooth電源をOFFにすると、接続中または接続待機中のすべてのサービスが停止します。Bluetooth電源をONにすると、前回接続または接続待機にしていたサービスや、登録機器のうち接続したことのあるサービスが接続待機になります。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Bluetooth]▶[Bluetooth電源オン]／[Bluetooth電源オフ]▶[はい]

Wi-Fi

本FOMA端末はWi-Fiに対応しており、Wi-Fiのさまざまな機能を利用できます。

アクセスポイントモードを利用する

FOMA端末をアクセスポイント（親機）にしてWi-Fi対応機器（子機）を接続し、ゲーム対戦などのサービスを利用できます。

- アクセスポイントモードは、mopera UなどWi-Fi接続に対応したインターネットサービスプロバイダを利用します。
- アクセスポイントモード利用時のパケット通信料は、パソコン・PDAなどを接続したパケット通信料となります。データ量の多い通信を行うと通信料が高額になりますので、ご注意ください。

IEEE 802.11nについて

- 5.2GHz／5.3GHz／5.6GHz（W52／W53／W56）には対応していません。
- MIMO（Multiple Input Multiple Output、多入力多出力）には対応していません。
- 40MHz帯域幅システム（HT40）には対応していません。

アクセスポイントモードの利用について設定する

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Wi-Fi]▶[アクセスポイントモード(親機)]

- アクセスポイントモード画面が表示されます。

2 項目を選ぶ

◆[APモード開始]▶[はい]
◆[接続中子機一覧]▶Wi-Fi対応機器を選ぶ▶各項目を設定▶[カメラ]
◆[APモード停止]▶[はい]

アクセスポイントモードの設定をする

1 アクセスポイントモード画面で[メニュー]

2 項目を選ぶ

◆[無線設定]▶端末暗証番号を入力▶各項目を設定▶[カメラ]
◆[接続先(APN)一覧]
◆[子機登録一覧]
◆[設定リセット]▶端末暗証番号を入力▶[はい]

クライアントモードを利用する

ご家庭のアクセスポイントや公衆無線LANサービスなどに接続して、Wi-Fi経由でインターネットを利用することができます。

- Wi-Fi経由でｉモードの利用はできません。
- Wi-FiからFOMAのネットワークに切り替えるとパケット通信料が発生し、通信料が高額になりますのでご注意ください。また、FOMAのネットワークに切り替えた場合、自動的にWi-Fiには戻りませんのでご注意ください。

クライアントモードの利用について設定する

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[Wi-Fi]▶[クライアントモード(子機)]

2 項目を選ぶ

◆[接続(自動選択)]
◆[新規接続先登録]▶登録方法を選ぶ
◆[接続先一覧]▶アクセスポイントにカーソルを合わせる▶[カメラ]▶各項目を設定▶[カメラ]
◆[切断／停止]

方位を確認する

電子コンパスを表示して、FOMA端末が向いている方位を確認できます。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[方位計]

より便利に

データ管理

microSDカードを利用する

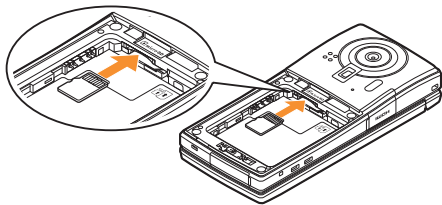
FOMA端末内の電話帳やメール、Bookmarkなどのデータを microSDカードに保存したり、microSDカード内のデータを FOMA端末に取り込むことができます。
microSDカードをご利用になるには、別途microSDカードが必要となります。
microSDカードおよびmicroSDカードアダプタをお持ちでない場合は、家電量販店などでお買い求めいただけます。

- SH-01Cでは市販の2Gバイトまでのmicro SDカード、16Gバイトまでのmicro SDHCカードに対応しています(2010年12月現在)。micro SDカードの製造メーカや容量など、最新の動作確認情報については次のサイトをご覧ください。また、掲載されているmicroSDカード以外については、動作しない場合がありますのでご注意ください。
  - ■ iモードから[SH-MODE](2010年12月現在)
    [iMenu]▶[メニューリスト]▶[ケータイ電話メーカー]▶[SH-MODE]
  - ■ パソコンから
    http://k-tai.sharp.co.jp/support/d/sh-01c/

  なお、掲載されている情報は動作確認の結果であり、すべての動作を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末の電源を入れたままの状態でmicroSDカードを取り付けたり、取り外したりしないでください。データが壊れたり、正常に動作しなくなることがあります。
- FOMA端末にmicroSDカードを挿入した直後や、microSDカード内のデータ編集中に、microSDカードを取り外したり、電源を切らないでください。データが壊れたり、正常に動作しなくなることがあります。
- 初期化されていないmicroSDカードを使うときは、FOMA端末で初期化する必要があります。パソコンなどで初期化したmicroSDカードは、FOMA端末では正常に使用できないことがあります。
- 他のFOMA端末やパソコンなどで初期化したmicroSDカードを使うときは、表示されるフォルダ名が異なることがあります。
- microSDカードの種類によっては、著作権保護機能に対応していないため、初期化できないことがあります。そのmicroSDカードはFOMAサポート対象となっていないため、データの保存やコピーなどの保証はいたしかねます。
- 他のFOMA端末やパソコンなどで使用していたmicroSDカードを挿入したときは、使用できないことがあります。
- microSDカードに保存されたデータはバックアップをとるなどして別に保管してくださるようお願いします。万が一、保存されたデータが消失または変化しても、当社としては責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

microSDカードを取り付ける／取り外す

1 microSDカードの金属端子面を上に向けてゆっくりと挿入する

- microSDカードの挿入口は、ドコモUIMカードの挿入口の上にあります。ドコモUIMカードを取り付ける前にmicroSDカードを挿入する場合、誤ってドコモUIMカードの挿入口に挿入しないようにご注意ください。
- 「カチッ」と音がするまで、ゆっくり指で押し込んでください。
- 取り外すときは、軽く押し込んでから引き抜きます。

- 無理な力を加えると、FOMA端末・microSDカードが破損するおそれがありますので、ご注意ください。
- microSDカードスロットを顔の方に向けて、挿入したり、取り外したりしないでください。急に指を離すとmicroSDカードが飛び出し危険です。

microSDカードを初期化する

- 初期化を行うと、microSDカードの内容がすべて消去されますのでご注意ください。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[microSD]▶[カメラ]

2 端末暗証番号を入力▶[はい]

データをmicroSDカード／FOMA端末へコピーする

例：ｉモーションのとき

1 ノーマルメニューで[データBOX]▶[ｉモーション・ムービー]（▶[→microSD]）※

※ 保存場所がmicroSDカードのとき

2 ｉモーションにカーソルを合わせる▶[MENU]▶[移動／コピー]▶[microSDへコピー]／[本体へコピー]

3 コピー方法を選ぶ

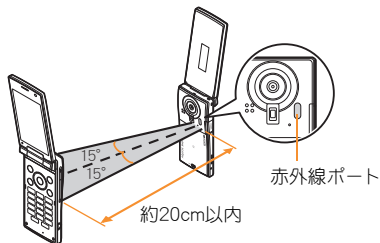
データをmicroSDカードにバックアップする

電話帳、メールなどのデータと各種設定情報が、一括してバックアップされます。

1 ノーマルメニューで[便利ツール]▶[microSD]▶[バックアップ／復元]

2 [microSDへバックアップ]▶端末暗証番号を入力▶[はい]

- 電話帳をバックアップするときは、プロフィールの保存確認画面が表示されます。

赤外線通信を使ってデータを送受信する

● 受信側と送信側のFOMA端末の赤外線ポートが約20cm以内に向き合うようにしてください。

データを送信する

例：電話帳のとき

1 待受画面で◎

2 名前にカーソルを合わせる▶MENU▶［データ送信］▶［赤外線送信］

3 送信方法を選ぶ

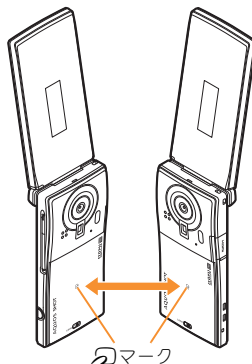
4 ［はい］

データを受信する

1 ノーマルメニューで［便利ツール］▶［赤外線／ｉＣ通信］▶［赤外線受信］

2 受信方法を選ぶ

3 ［はい］

ｉＣ通信を使ってデータを送受信する

● 受信側と送信側のFOMA端末のマークを重ね合わせてご利用ください。

データを送信する

例：電話帳のとき

1 待受画面で◎

2 名前にカーソルを合わせる▶MENU▶[データ送信]▶[ｉＣ送信]

3 送信方法を選ぶ

4 [はい]

5 相手のFOMA端末とマークを重ね合わせる

データを受信する

1 待受画面で相手のFOMA端末とマークを重ね合わせる

2 [はい]

パソコンと接続する

FOMA端末とパソコンを接続して、microSDカード内のWMAファイルや画像などをやりとりすることができます。
また、インターネットに接続して、データ通信を行うこともできます。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）またはFOMA USB接続ケーブル（別売）が必要です。
- データ通信を行うには、付属のCD-ROMからFOMA通信設定ファイルをインストールする必要があります。
  詳しくは付属のCD-ROM内の「パソコン接続マニュアル」をご覧ください。

故障かな？と思ったら

- まずはじめに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください（☞P.86）。
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」、またはドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

電源

FOMA端末の電源が入らない	
● 電池パックが正しく取り付けられていますか。	P.24
● 電池切れになっていませんか。	–

充電

充電ができない（充電ランプが点灯しない、または点滅する）	
● 電池パックが正しく取り付けられていますか。	P.24
● アダプタの電源プラグがコンセントまたはシガーライターソケットに正しく差し込まれていますか。	P.25
● アダプタとFOMA端末が正しくセットされていますか。	P.25
● ACアダプタ（別売）をご使用の場合、ACアダプタのコネクタがFOMA端末または付属の卓上ホルダにしっかりと接続されていますか。	P.25
● 卓上ホルダを使用する場合、FOMA端末の充電端子は汚れていませんか。汚れたときは、端子部分を乾いた綿棒などで清掃してください。	P.25
● 充電しながら通話や通信、その他機能の操作を長時間行うと、FOMA端末の温度が上昇して充電ランプが点滅する場合があります。その場合は、FOMA端末の温度が下がってから再度充電を行ってください。	–

端末操作

操作中・充電中に熱くなる	
● 操作中や充電中、また、充電しながらｉアプリやテレビ電話、ワンセグ視聴などを長時間行った場合などには、FOMA端末や電池パック、アダプタの温度が高くなることがありますが、安全上問題ありませんので、そのままご使用ください。	–

電池の使用時間が短い	
● 圏外の状態で長い時間放置されるようなことはありませんか。 圏外時は通信可能な状態にできるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。	–
● 電池パックの使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。	–
● 電池パックは消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。 十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、指定の電池パックをお買い求めください。	–

電源断・再起動が起きる	
● 電池パックの端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れることがあります。汚れたときは、電池パックの端子を乾いた綿棒などで拭いてください。	–
● ドコモUIMカードのＩＣ部分が汚れていませんか。	–

タッチしたり、ボタンを押しても動作しない	
● オールロックを設定していませんか。	P.44
● サイドキーロックを設定していませんか。	P.44
● FOMA端末の電源が切れていませんか。	P.27

ドコモUIMカードが認識しない	
● ドコモUIMカードを正しい向きで挿入していますか。	P.24
● FOMAカード（青色）を挿入していませんか。	P.24

時計がずれる	
● 長い間電源を入れた状態にしていると時計がずれる場合があります。 自動時刻・時差補正が[ON]に設定されているかを確認し、電波のよい場所で電源を入れ直してください。	－

通話

ダイヤル発信できない	
● オールロックを設定していませんか。	P.44
● ダイヤル発信制限を設定していませんか。	P.44
● セルフモードを設定していませんか。	P.44
通話ができない（場所を移動しても[圏外]の表示が消えない、電波の状態は悪くないのに発信または着信ができない）	
● 電源を入れ直すか、電池パックまたはドコモUIMカードを入れ直してください。	P.24 P.27
● 電波の性質により、「圏外ではない」「電波状態は[Yıl]を表示している」状態でも発信や着信ができない場合があります。場所を移動してかけ直してください。	P.28
● メモリ別着信許可、メモリ別着信拒否など着信制限を設定していませんか。	－
● 電波の混み具合により、多くの人が集まる場所では電話やメールが混み合い、つながりにくい場合があります。その場合は[しばらくお待ちください]と表示され、話中音が流れます。場所を移動するか、時間をずらしてかけ直してください。	－

おサイフケータイ

おサイフケータイが使えない	
● 電池パックを取り外したり、おまかせロックを起動したりすると、ＩＣカードロックの設定にかかわらずＩＣカード機能が利用できなくなります。	P.44
● ＩＣカードロックを設定していませんか。	P.44
● FOMA端末のマークがある位置を読み取り機にかざしていますか。	P.74

保証とアフターサービス

保証について

● FOMA端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。
必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。
無料保証期間は、お買い上げ日より１年間です。
● この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

調子が悪い場合は

修理を依頼される前に、本書または本FOMA端末に搭載の「使いかたガイド」の「故障かな？と思ったら」をご覧になってお調べください。
それでも調子が良くないときは、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

お問い合わせの結果、修理が必要な場合

ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

保証期間内は

● 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
● 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良（ディスプレイ・コネクタなどの破損）による故障・損傷などは有料修理となります。
● ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

以下の場合は、修理できないことがあります。

- 故障取扱窓口にて水濡れと判断した場合(例:水濡れシールが反応している場合)
- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や内部の基板が破損・変形していた場合(外部接続端子(イヤホンマイク端子)・ディスプレイなどの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります)

※ 修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

保証期間が過ぎた場合は

ご要望により有料修理いたします。

部品の保有期間は

FOMA端末の補修用性能部品(機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後6年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

お願い

- FOMA端末および付属品の改造はおやめください。
  - ■ 改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。以下のような場合は改造とみなされる場合があります。
    - ・ディスプレイやボタン部にシールなどを貼る
    - ・接着剤などによりFOMA端末に装飾を施す
    - ・外装などをドコモ純正品以外のものに交換するなど
  - ■ 改造が原因による故障・損傷の場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
- FOMA端末に貼付されている銘版シールは、はがさないでください。
  - ■ 銘版シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意願います。

技術基準適合認証品

- 各種機能の設定や積算通話時間などの情報は、FOMA端末の故障・修理やその他お取り扱いによってクリア(リセット)される場合があります。
  - ■ お手数をおかけしますが、この場合は再度設定を行ってくださるようお願いいたします。
- 修理を実施した場合には、故障箇所に関係なく、Wi-Fi用のMACアドレスおよびBluetoothアドレスが変更される場合があります。
- FOMA端末の下記の箇所に、磁気を発生する部品を使用しています。キャッシュカードなど、磁気の影響を受けやすいものを近づけますとカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。
  - ■ 使用箇所:スピーカ、受話口部
- 本端末は防水/防塵性能を有しておりますが、FOMA端末内部が濡れたり湿気を帯びてしまった場合は、すぐに電源を切って電池パックを外し、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし、FOMA端末の状態によって修理できないことがあります。

iモード故障診断サイト

ご利用中のFOMA端末において、メール送受信や画像・メロディのダウンロードなどが正常に動作しているかを、お客様ご自身でご確認いただけます。ご確認の結果、故障と思われる場合は、取扱説明書裏面の「故障お問い合わせ先」までお問い合わせください。

「iモード故障診断サイト」への接続方法

iモードサイト:[iMenu]▶[お知らせ]▶[サポート情報]▶[お問い合わせ]▶[故障・電波状況お問い合わせ先]▶[iモード故障診断]

- 海外からのアクセスの場合は有料となります。

サイト接続用QRコード

その他

ソフトウェア更新

FOMA端末のソフトウェアを更新する必要があるかどうかネットワークに接続してチェックし、必要な場合にはパケット通信を使ってソフトウェアの一部をダウンロードし、ソフトウェアを更新する機能です。

- ソフトウェア更新が必要な場合は、ドコモのホームページおよびｉMenuの「お客様サポート」にてご案内いたします。更新方法には、「自動更新」、「即時更新」、「予約更新」の３つの方法があります。
- ソフトウェア更新は、FOMA端末に登録された電話帳、カメラ画像、ダウンロードデータなどのデータを残したまま行うことができますが、お客様のFOMA端末の状態（故障・破損・水濡れなど）によってはデータの保護ができない場合がございますので、あらかじめご了承願います。必要なデータはバックアップを取っていただくことをおすすめします。ただし、ダウンロードデータなどバックアップが取れないデータがありますので、あらかじめご了承願います。

ご利用にあたって

- ソフトウェア更新中は電池パックを外さないでください。更新に失敗することがあります。
- ソフトウェア更新を行う際は、電池をフル充電しておいてください。
- ソフトウェア更新（ダウンロード、書換え）には時間がかかることがあります。
- ソフトウェア更新中は、電話の発信、着信、各種通信機能および、その他機能を利用できません（ダウンロード中は音声着信が可能です）。
- ソフトウェア更新は、電波が強く、アンテナマークが３本表示されている状態で、移動せずに実行することをおすすめします。ソフトウェアダウンロード中に電波状態が悪くなったり、ダウンロードが中止された場合は、再度電波状態のよい場所でソフトウェア更新を行ってください。
- ソフトウェア更新の際、お客様のFOMA端末固有の情報（機種や製造番号など）が、自動的にサーバ（当社が管理するソフトウェア更新用サーバ）に送信されます。当社は送信された情報を、ソフトウェア更新以外の目的には利用いたしません。
- ソフトウェア更新に失敗した場合、［書換え失敗しました］と表示され、一切の操作ができなくなります。その場合には、大変お手数ですがドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただきますようお願いいたします。

アイコンからソフトウェアを更新する

ソフトウェアが自動でダウンロードされると、待受画面に［ ］が表示されます。

1. 待受画面に［ ］表示 ▶ ◎ ▶ ［ ］を選ぶ
2. 書換え方法を選ぶ
   - 設定の確認：［OK］
   - 設定の変更：［時刻変更］
   - 書換え開始：［今すぐ書換え］

メニューからソフトウェアを更新する

1. ノーマルメニューで［本体設定］▶［その他設定］▶［ソフトウェア更新］
2. 端末暗証番号を入力 ▶［更新実行］
3. 更新方法を選ぶ

有害なデータをチェックする

FOMA端末に取り込んだデータやプログラムについて、データを検知して、障害を引き起こす可能性を含むデータの削除やアプリケーションの起動を中止します。

● スキャン機能は、ホームページの閲覧やメール受信などの際にFOMA端末に何らかの障害を引き起こすデータの侵入から一定の防衛手段を提供する機能です。各障害に対応したパターンデータがFOMA端末にダウンロードされていない場合、または各障害に対応したパターンデータが存在しない場合、本機能にて障害などの発生を防ぐことができませんのであらかじめご了承ください。

● パターンデータはFOMA端末の機種ごとにデータの内容が異なります。当社の都合により端末発売開始後３年を経過した機種向けパターンデータの配信は、停止することがありますのであらかじめご了承ください。

パターンデータを更新する

● まずはじめに、パターンデータの更新を行い、パターンデータを最新にしてください。

1 ノーマルメニューで[本体設定]▶[ロック･セキュリティ]▶[スキャン機能]▶[パターンデータ更新]

2 [はい]▶[はい]

3 パターンデータ更新が完了したら[OK]

スキャン結果の表示について

スキャンされた問題要素の表示について

● 警告画面で[詳細]を選択すると、問題要素名が表示されます。パターンデータの内容によって問題要素名がない場合、[詳細]は表示されません。

● 問題要素名は最大５個まで表示されます。6 個以上検出した場合は、6 個目以降の問題要素名は省略され、検出された問題要素の総数が表示されます。また、同じ問題要素を複数検出した場合は、1 個のみ表示されます。

スキャン結果の表示について

警告レベル０	警告レベル１	警告レベル２
問題要素が検出されました 正常に動作できない場合があります	問題要素が検出されました 正常に動作できない場合があります 動作を中止しますか？	問題要素が検出されました 正常に動作できない場合があるため終了します
[OK]：表示／起動／発信	[いいえ]：表示／起動／発信 [はい]：動作の中止	[OK]：終了
警告レベル３	**警告レベル４**	
問題要素が検出されました 正常に動作できない場合があります データを削除しますか？	問題要素が検出されました 正常に動作できないためデータを削除します	
[はい]：データ削除 [いいえ]：データを削除しないで終了	[OK]：データ削除	

オプション・関連機器のご紹介

FOMA端末にさまざまな別売りのオプション機器を組み合わせることで、パーソナルからビジネスまでさらに幅広い用途に対応できます。
なお、地域によってはお取り扱いしていない商品もあります。
詳しくは、ドコモショップなど窓口へお問い合わせください。
また、オプションの詳細については、各機器の取扱説明書などをご覧ください。

- FOMA ACアダプタ01※1／02※1
- 電池パック SH23
- リアカバー SH44
- 卓上ホルダ SH34
- イヤホンターミナル P001※2
- 平型ステレオイヤホンセット P01※3
- 平型スイッチ付イヤホンマイク P01※3／P02※3
- ステレオイヤホンセット P001※2
- スイッチ付イヤホンマイク P001※2／P002※2
- イヤホンマイク 01
- ステレオイヤホンマイク 01
- イヤホンジャック変換アダプタ P001※3
- 外部接続端子用イヤホン変換アダプタ 01
- イヤホン変換アダプタ 01
- FOMA USB接続ケーブル※4
- ワイヤレスイヤホンセット 02
- FOMA海外兼用ACアダプタ 01※1
- FOMA DCアダプタ01／02
- FOMA室内用補助アンテナ※5
- 車載ハンズフリーキット 01※6
- FOMA車載ハンズフリー接続ケーブル 01
- 車内ホルダ01※7
- FOMA乾電池アダプタ 01
- キャリングケースL 01
- キャリングケース 02
- 骨伝導レシーバマイク 01※3／02
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02※4
- FOMA 補助充電アダプタ 01／02
- FOMA室内用補助アンテナ（スタンドタイプ）※5

※1 ACアダプタでの充電方法については、P.26をご覧ください。
※2 外部接続端子用イヤホン変換アダプタ 01とイヤホンジャック変換アダプタを接続しないとご利用になれません。
※3 外部接続端子用イヤホン変換アダプタ 01を接続しないとご利用になれません。
※4 USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。
※5 日本国内でご利用ください。
※6 SH-01Cを充電するためには、FOMA車載ハンズフリー接続ケーブル 01が必要です。
※7 車内ホルダ01をご利用になるときは、サイドキーロックを設定してください。

付録

メニュー一覧

- ［　］の項目は、各種設定リセット（☞P.45）でお買い上げ時の状態に戻る項目です。
  - 項目の中には、お買い上げ時の状態に戻らない機能を含んでいる場合があります。

ノーマルメニュー／ベーシックメニュー一覧

- ノーマルメニューに設定されているきせかえツールによっては、機能名の表記が異なる場合があります。

メールメニュー

メール	
受信BOX	
送信BOX	
未送信BOX	
新規メール作成	
新規デコメアニメ作成	
デコメテンプレート	デコメール
	デコメアニメ
新規SMS作成	
メール／メッセージ問合せ	
SMS問合せ	
メール選択受信	
デコメアイテム	変換パターン
	フォント
メール設定	受信設定
	表示設定
	署名編集設定
	定型文／単語登録
	メール／メッセージ問合せ設定
	返信設定
	ブログ／SNS投稿先設定
	メールグループ
	アドレス・迷惑メール設定
	編集時自動保存設定
	SMS設定
	緊急速報「エリアメール」設定
メール送受信履歴	メール送信履歴
	メール受信履歴

ｉモード／webメニュー

ｉモード／web	
ｉMenu🔍検索	
Bookmark	
画面メモ	
サイト閲覧履歴	
URL入力	URL入力
	URL入力履歴
ｉチャネル	ｉチャネル一覧
	テロップ表示設定
	ｉチャネル初期化
RSSリーダー	
ツータッチサイト	
ｉモード／web設定	ｉモードブラウザ設定
	フルブラウザ設定
	共通設定
	ｉモード設定確認
	ｉモード設定リセット

ｉモード／web
フルブラウザホーム

ｉアプリメニュー

ｉアプリ	
ソフト一覧	
ｉアプリコール履歴	
ｉアプリ実行情報	自動起動失敗履歴
	異常終了履歴
	セキュリティエラー履歴
	トレース情報
ｉアプリ設定	ｉアプリ音量
	ソフト情報表示設定
	自動起動設定
	ｉウィジェット設定
	オートGPS優先設定
	ソフトの並べ替え
	照明点灯時間設定
	バイブレータ設定
	ツータッチｉアプリ表示
	ｉアプリ省電力設定
	ｉアプリコールダウンロード設定
	ｉアプリについて

カメラ／TV／MUSICメニュー

カメラ／TV／MUSIC	
カメラ	静止画撮影
	動画撮影
	アレンジカメラ
	連写カメラ
	読取りカメラ
	メイクデコカメラ
	ゴルフスイングビデオカメラ
	ハンドミラー
	静止画アルバム
	動画再生
ワンセグ	ワンセグ視聴
	番組表
	録画した番組
	予約／予約リスト
	録画予約履歴
	テレビリンク
	チャンネルリスト
	ユーザ設定
ミュージックプレーヤー	
Music&Videoチャネル	

データBOXメニュー

データBOX
マイピクチャ
ミュージック
Music&Videoチャネル
ｉモーション･ムービー
メロディ
マイドキュメント
きせかえツール
マチキャラ
キャラ電
ワンセグ
その他
データ検索
アルバム
ホームネットワーク

便利ツールメニュー

便利ツール	
バーコードリーダー	
電卓	
アラーム	
赤外線／ｉＣ通信	赤外線受信
	赤外線全件送信
	ｉＣ全件送信
	データ送受信設定
スケジュール	
メモ	
お知らせタイマー	
ボイスレコーダー	
HDMI接続	HDMI接続開始
	出力解像度設定
	映像鮮鋭化設定
	ガイド自動表示設定
	AQUOSファミリンク設定
Bluetooth	接続待機
	Bluetooth受信
	Bluetooth全件送信
	機器リスト・接続・切断
	新規機器登録
	Bluetooth電源オン／Bluetooth電源オフ
	送信予約データ削除
	Bluetooth設定
クイックランチャ	機能検索
	電話帳検索
Wi-Fi	クライアントモード（子機）
	アクセスポイントモード（親機）
	ホームネットワーク設定

便利ツール	
ウェルネス	歩数確認
	プロフィール登録
	設定
	ワークアウト
	ヘルプ
方位計	
手書き	
プレゼンアシスト	
マンガ・ブックリーダー	
ドキュメントビューア	
ケータイデータお預かりサービス	データ確認／ダウンロード
	電話帳等を更新
	画像を更新
	設定情報を更新
	詳細設定／通信履歴
microSD	データBOX
	PIM
	トルカ
	ｉアプリ使用データ
	現在地通知先
	デコメアニメテンプレート
	マンガ・ブックリーダー
	バックアップ／復元
	その他
	個別バックアップ／復元
	インポート
使いかたガイド	
クイック検索	
ダウンロード辞書	
定型文／単語登録	定型文
	単語登録

便利ツール	
ドコモへのお問合せ	ドコモ総合案内・受付
	ドコモ故障問合せ

電話機能メニュー

電話機能	
電話帳	電話帳検索
	電話帳登録
	UIMカード(FOMAカード)操作
	グループ登録
伝言メモ／音声メモ	伝言メモ一覧
	音声メモ一覧
	音声メモ録音
	伝言メモ設定
発着信履歴	着信履歴
	リダイヤル
発着信・通話設定	迷惑電話ストップ
	番号通知お願いサービス
	発信者番号通知
	通話中の着信動作
	発信詳細設定
	着信詳細設定
	通話中詳細設定
	イヤホン機能設定
	着信拒否設定
	着信通知
	電話発着信設定
	メモリ着信拒否／許可
テレビ電話設定	テレビ電話発信設定
	テレビ電話着信設定
	パケット通信中着信設定
	テレビ電話動作設定

電話機能	
テレビ電話設定	テレビ電話画像選択
	テレビ電話切替機能通知
通話時間・料金	通話料金表示
	通話時間表示
	通話料金自動リセット設定
	通話料金上限通知
	上限通知アイコン消去
着もじ	メッセージ作成
	メッセージ表示設定
2in1	2in1モード切替
	電話帳2in1設定
	モード別待受画面設定
	番号別発着信設定
	2in1機能OFF
	着信回避設定
メロディコール	
留守番電話サービス	開始
	呼出時間
	停止
	設定確認
	メッセージ再生
	設定
	メッセージ問合せ
	件数増加鳴動設定
	表示消去
	テレビ電話設定

電話機能	
その他ネットワークサービス	転送でんわ
	キャッチホン
	英語ガイダンス
	遠隔操作設定
	マルチナンバー
	デュアルネットワーク
	追加サービス
	OFFICEED

本体設定メニュー

本体設定	
画面・ディスプレイ	きせかえツール設定
	待受画面設定
	カラーテーマ設定
	表示画質設定
	ベールビュー設定
	各種画面設定
	サブディスプレイ設定
	マチキャラ設定
	メニュー設定
	縦横画面自動切替
音／バイブ／マナー	着信音設定
	その他音設定
	音量設定
	スピーカーブースター設定
	バイブレータ設定
	マナーモード選択
	モーションサイレント
	音楽再生音優先設定
	マチキャラおしゃべり設定
照明・イルミネーション	照明設定
	イルミネーション設定

本体設定	
文字表示／入力	文字サイズ設定
	フォント選択
	文字入力設定
	Select language
時計	日付時刻設定
	時計表示設定
	自動電源ON／OFF
ロック・セキュリティ	ロック設定
	シークレットモード
	プライバシー設定
	電話／メール着信時設定
	ダイヤル発信制限
	着信拒否設定
	端末暗証番号設定
	手書き認証設定
	UIMカード（FOMAカード）設定
	スキャン機能
電池	ecoモード
	自動ecoモード設定
	電池残量
	電池アイコン設定
	電池マーク%一時表示
外部接続	USBモード
	Bluetooth
	Wi-Fi
	フェムトセル
	データ送受信設定

本体設定	
その他設定	セルフモード
	タッチパネルON／OFF
	初期設定
	データ一括削除
	各種設定リセット
	ソフトウェア更新
	リモート機能設定確認
	メモリ確認
きせかえ／ライフスタイル	トータルカスタマイズ
	ライフスタイル設定

地図／海外メニュー

地図／海外	
地図	
ナビ	
イマドコサーチ	イマドコかんたんサーチ
	イマドコサーチ
ｉエリア-周辺情報-	
GPSアプリ一覧	
現在地確認／通知	現在地確認
	現在地通知
地図・GPS設定／履歴	位置履歴
	地図設定
	GPSボタン設定
	位置提供可否設定
	オートGPS
	測位モード設定
	現在地通知先一覧
	サービス利用設定
	サービス利用／接続先設定
	点灯色／鳴動音設定

地図／海外	
海外ネットワークサーチ	3G／GSM切替
	ネットワークサーチ設定
	優先ネットワーク設定
	オペレータ名表示設定
	在圏状態表示
	再検索アイコン表示設定
海外設定	お問合せ（海外）
	ローミング時着信規制
	ローミング着信通知
	ローミングガイダンス
	国際ダイヤルアシスト
	ｉモードサービス利用設定
	メール／メッセージ利用設定
	ネットワークサービス
海外ご利用ガイド	

ｉコンシェルメニュー

ｉコンシェル
ｉコンシェル

プロフィールメニュー

プロフィール
プロフィール

おサイフケータイメニュー

おサイフケータイ	
ＩＣカード一覧	
DCMX	
トルカ	
ＩＣカードロック設定	ＩＣカードロック
	ＩＣカードオートロック設定
	ＩＣカードロック解除予約
	電源OFF時ＩＣロック設定
設定	ＩＣカードからトルカ取得
	ワンセグからトルカ取得
	トルカ重複チェック
	トルカ自動読取チェック
	トルカ自動表示
	トルカサウンド設定
ＩＣオーナー確認	
ＩＣオーナー変更	
ｉモードで探す	

その他の機能

機能	
待受タッチランチャ	
クイック設定	
セレクトメニュー	
受話音量調節	
テレビ電話	
マナーモード	
おまかせロック	
サイドキーロック	
かんたんデコメ	
文字入力	入力設定

主な仕様

本体

項目			仕様
品名			SH-01C
サイズ			高さ約112mm×幅約50mm×厚さ約16.9mm（最厚部：約21mm）（折りたたみ時）
質量			約138g（電池パック装着時）
連続通話時間※1※2	FOMA／3G		音声電話時：約220分
			テレビ電話時：約110分
	GSM		音声電話時：約200分
連続待受時間※2※3	FOMA／3G	3G／GSM切替：3G	移動時：約330時間※4
		3G／GSM切替：自動	移動時：約310時間※4
			静止時：約460時間※5
	GSM	3G／GSM切替：自動	静止時：約250時間※5
ワンセグ視聴時間			約290分
充電時間			ACアダプタ：約120分
			DCアダプタ：約120分
ディスプレイ	方式		メインディスプレイ：NEWモバイルASV液晶　16,777,216色 サブディスプレイ：有機EL　１色
	サイズ		メインディスプレイ：約3.4inch サブディスプレイ：約1.4inch
	画素数		メインディスプレイ：409,920画素（480×854ドット） サブディスプレイ：12,288画素（192×64ドット）
撮像素子	種類		メインカメラ：CCD※6 サブカメラ：CMOS※6
	サイズ		メインカメラ：1/2.3inch サブカメラ：1/8.2inch

カメラ部	有効画素数	メインカメラ:約1410万画素 サブカメラ:約43万画素
	記録画素数(最大時)	メインカメラ:約1400万画素 サブカメラ:約41万画素
	ズーム(デジタル)	メインカメラ:最大約27.0倍 サブカメラ:最大約5.4倍
ピクチャーライト光源LED特性		a) 連続発光 b) 波長 白:400-700nm c) 最大出力 白:1.4mW(本体内部4.3mW)
記録部	静止画記録枚数	約1500枚※7※8
		約60000枚(microSDカード(2Gバイト)保存時)※7
	静止画連続撮影	14M:3枚／10M:3枚／5M:3枚／3M:3枚／フルHD:6枚／待受:8枚／VGA:10枚／QVGA:40枚／QCIF:40枚
	静止画ファイル形式	JPEG
	動画録画時間	1件あたり約26分※9
		1件あたり約60分(microSDカード(2Gバイト)保存時)※9
	動画ファイル形式	MP4
音楽再生	連続再生時間	iモーション:約410分※10
		着うたフル®(バックグラウンド再生対応):約3300分※10
		WMAファイル(バックグラウンド再生対応):約2510分※11
		Music&Videoチャネル(音声)(バックグラウンド再生対応):約1010分
		Music&Videoチャネル(動画):約410分
保存容量	着うた®	約152Mバイト※12
	着うたフル®	

無線LAN	IEEE 802.11b/g/n(2.4GHz)準拠

- 「着うた」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

※1 連続通話時間とは、電波を正常に送受信できる状態で通話に使用できる時間の目安です。

※2 データ通信やマルチアクセス実行時およびカメラ起動時も、前述の通話時間や待受時間より短くなります。

※3 連続待受時間とは、FOMA端末を折りたたみ、電波を正常に受信できる状態で移動したときの目安です。なお、電池パックの充電状態、機能設定状況、気温などの使用環境、利用場所の電波状態(電波が届かない、または弱い)などにより、通話・待受時間は半分程度になることがあります。iモード通信を行うと通話(通信)・待受時間は短くなります。また、通話やiモード通信をしなくても、ワンセグの視聴、iモードメールの作成、Bluetooth機能、ダウンロードしたiアプリ、iアプリ待受画面を起動させると通話(通信)・待受時間は短くなります。

※4 FOMA端末を折りたたみ、電波を正常に受信できるエリア内で「静止」、「移動」と「圏外」を組み合わせた状態での平均的な利用時間です。

※5 FOMA端末を折りたたみ、電波を正常に受信できる静止状態での平均的な利用時間です。

※6 CCD(charge coupled device:電荷結合素子)およびCMOS(complementary metal-oxide semiconductor:相補型金属酸化膜半導体)とは、銀塩カメラのフィルムに当たる部分を構成する撮像素子です。

※7 画像サイズ:QVGA(240×320ドット)／画質:ノーマル／ファイルサイズ:25Kバイト

※8 お買い上げ時に登録されているデータ(削除可能なデータ)を削除していない場合の撮影枚数です。

※9 画像サイズ:QCIF(176×144ドット)／画質:ノーマル／ファイルサイズ制限:制限なし／種別:映像+音声

※10 ファイル形式:AAC形式

※11 ファイル形式:WMA形式

※12 静止画、動画、ミュージック、メロディ、マイドキュメント、きせかえツール、マチキャラ、キャラ電、iアプリ、電子書籍／電子辞書／電子コミック、Music&Videoチャネル、ビデオ、トルカを保存している場合には、着うた®／着うたフル®の保存容量は少なくなります。

電池パック

品名	電池パック SH23
使用電池	リチウムイオン電池
公称電圧	DC 3.7 V
公称容量	800 mAh

ビデオの保存件数と録画時間の目安

	保存件数	録画時間
FOMA端末	最大99件	最長約45分
microSDカード（16Gバイト）※	最大99件	最長約5120分

※ 1回あたりの録画サイズは2Gバイト（約640分）までです。2Gバイトを超えるmicroSDカードを使用し、空き容量があっても録画を終了します。

FOMA端末の保存・登録・保護件数

種　別		保存・登録可能件数	保護可能件数
電話帳		2000※1※2	−
ワンセグ	テレビリンク	50	−
	視聴予約／録画予約	100※3	−
チャンネルリスト		10	−
Music&Videoチャネルの番組		22※2	−
ミュージック	着うたフル®	50※2	−
	うた文字	100※2	−
	プレイリスト	10	−
スケジュール	スケジュール	2600※2※4	−
	休日	30	−
	祝日	5※5	−
メモ		2600※6	−
メール（SMSとｉモードメールの合計）	受信メール	2500※2※7※8	2500
	送信メール	500※2※7	500
	未送信メール	500※2	500
エリアメール		30	−
デコメ®テンプレート	デコメール®	100※8	−
	デコメアニメ®	100※8	−
デコメ®アイテム	変換パターン	10	−
	フォント	5	−
メッセージ	メッセージR	50※2	25
	メッセージF	50※2	25
Bookmark		200	−
画面メモ		400※2	400
ダウンロード辞書		10※9	−
ｉアプリ		100※2※8	−
画像		3000※2※8※10	−
動画／ｉモーション		200※2※8	−
きせかえツール		50※2※8	−
マチキャラ		50※2※8	−
キャラ電		50※2※8	−
メロディ		500※2	−
PDFデータ		100※2※8	−
Word、Excel、PowerPoint		100	−
トルカ		200※2	−
電子書籍／電子辞書／電子コミック		1000※2※8	−
ワンセグのビデオ		99※2	−
フォント（TTF）		3	−

※1 50件までドコモUIMカードに保存できます。
※2 メモリの使用状況によっては実際に保存できる件数が少なくなる場合があります。
※3 視聴予約と録画予約を合わせた件数です。
※4 視聴予約、録画予約、メモも含みます。
※5 あらかじめ登録されている国民の祝日とは別に登録できます。
※6 スケジュールも含みます。
※7 SMSの場合はさらに受信メールと送信メールを合わせて20件までドコモUIMカードに保存できます。
※8 お買い上げ時に登録されている削除可能なデータも含みます。
※9 使用辞書には5件まで設定できます。
※10 ワンセグで録画した静止画も含みます。

携帯電話機の比吸収率(SAR)について

この機種SH-01Cの携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この携帯電話機は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準(※1)ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。
国の技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体頭部に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR:Specific Absorption Rate)で定めており、携帯電話機に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この携帯電話機の側頭部におけるSARの最大値は0.285W/kgです。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることもありますが、いずれも許容値を満足しています。
携帯電話機は、携帯電話基地局との通信に必要な最低限の送信電力になるよう設計されているため、実際に通話している状態では、通常SARはより小さい値となります。一般的には、基地局からの距離が近いほど、携帯電話機の出力は小さくなります。
この携帯電話機は、側頭部以外の位置でも使用可能です。NTTドコモ推奨のキャリングケース等のアクセサリを用いて携帯電話機を身体に装着して使用することで、この携帯電話機は電波防護の国際ガイドラインを満足します(※2)。NTTドコモ推奨のキャリングケース等のアクセサリをご使用にならない場合には、身体から1.5cm以上の距離に携帯電話機を固定でき、金属部分の含まれていない製品をご使用ください。
世界保健機関は、モバイル機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。もし個人的に心配であれば、通話時間を抑えたり、頭部や体から携帯電話機を離して使用することが出来るハンズフリー用機器を利用しても良いとしています。
さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。
http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_japanese.htm
SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ
http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm
社団法人電波産業会のホームページ
http://www.arib-emf.org/index02.html
ドコモのホームページ
http://www.nttdocomo.co.jp/product/sar/
シャープ株式会社のホームページ
http://www.sharp.co.jp/products/menu/phone/cellular/sar/index.html

※1 技術基準については、電波法関連省令(無線設備規則第14条の2)で規定されています。
※2 携帯電話機本体を側頭部以外でご使用になる場合のSARの測定法については、平成22年3月に国際規格(IEC62209-2)が制定されましたが、国の技術基準については、情報通信審議会情報通信技術分科会に設置された局所吸収指針委員会にて審議している段階です(平成22年12月現在)。

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.
The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 1.23 W/kg※.
As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.
The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head.

※ The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

Declaration of Conformity

CE0168ⓘ

In some countries/regions, such as France, there are restrictions on the use of Wi-Fi. If you intend to use Wi-Fi on the handset abroad, check the local laws and regulations beforehand.

Hereby, Sharp Telecommunications of Europe Ltd, declares that this SH-01C is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC.
A copy of the original declaration of conformity can be found at the following Internet address:
http://www.sharp.co.jp/k-tai/

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules.
  Operation is subject to the following two conditions:
  (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.
However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver.
It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.
The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organisations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.
The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 0.298 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 0.503 W/kg.
Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.5 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.5 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.
The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.

The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ after searching on FCC ID APYHRO00129.
Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the Cellular Telecommunications & Internet Association (CTIA) Website at http://www.ctia.org/.

Wi-Fiとは

無線LAN標準規格のIEEE 802.11に基づき、無線LAN機器の相互接続性を保証するためにWi-Fi Alliance®が実施している認証テストで、この認証テストにパスした製品のみ「Wi-Fi Certified™」という認定が与えられ、Wi-Fiロゴがついた製品との相互接続が保証されます。

認証取得内容

IEEE Standard※1

- IEEE 802.11b
- IEEE 802.11g
- IEEE 802.11n

Security※2

- WPA™ - Personal
- WPA2™ - Personal

Special Features

- Wi-Fi Protected Setup™※3

※1 無線LAN規格IEEE 802.11に基づいたWi-Fi認証のベースとなる規格です。

※2 IEEE 802.11iに基づきWi-Fi Alliance®が策定した無線LANの暗号化方式の規格です。

- WPA™
  Wi-Fi Protected Accessの略で、相互運用可能なセキュリティ拡張の標準化仕様です。
  暗号化方式はTemporal Key Integrity Protocol(TKIP)を使用します。
- WPA2™
  IEEE 802.11i規格に準拠し、WPA™認証をさらに強化しており、下位互換性があります。
  暗号化方式はAdvanced Encryption Standard(AES)を使用し、現在Wi-Fi認証ではWPA2™認証は必須となっています。

WPA™、WPA2™のPersonalでは事前共有キー(WPA/WPA2-PSK)で認証を行います。

※3 WPS機能で、無線LANの接続設定内容(SSIDや認証方式、暗号キーなど)をプッシュボタン方式、PINコード入力方式で設定できる機能を有しています。

輸出管理規制

本製品及び付属品は、日本輸出管理規制(「外国為替及び外国貿易法」及びその関連法令)の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制(Export Administration Regulations)の適用を受けます。本製品及び付属品を輸出及び再輸出する場合は、お客様の責任及び費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問い合わせください。

知的財産権

著作権・肖像権について

- お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードやテレビ、ビデオなどにより取得した文章、画像、音楽、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製、改変、公衆送信などすることはできません。
  実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますので、ご注意ください。
  また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害するおそれがありますのでお控えください。

商標について

- 「FOMA」、「おサイフケータイ」、「トルカ」、「mopera U」、「キャラ電」、「デコメール®」、「デコメ®」、「デコメアニメ®」、「デコメ絵文字®」、「ｉアプリ」、「ｉモーション」、「ｉモード」、「ｉチャネル」、「DCMX」、「WORLD WING」、「公共モード」、「WORLD CALL」、「デュアルネットワーク」、「セキュリティスキャン」、「メッセージF」、「マルチナンバー」、「おまかせロック」、「ケータイデータお預かりサービス」、「着もじ」、「ｉCお引っこしサービス」、「きせかえツール」、「OFFICEED」、「ｉエリア」、「2in1」、「Music&Videoチャネル」、「メロディコール」、「エリアメール」、「イマドコサーチ」、「イマドコかんたんサーチ」、「マチキャラ」、「ｉコンシェル」、「ｉウィジェット」、「ｉアプリコール」、「ｉスケジュール」、「docomo PRIME series」、「かんたんデコメ」、「i-mode」ロゴ、「i-αppli」ロゴはNTTドコモの商標または登録商標です。
- 本機には、Symbian Foundation Limitedよりライセンス供与されたソフトウェアが含まれています。
  SymbianはSymbian Foundation Limitedの登録商標です。
- キャッチホンは日本電信電話株式会社の登録商標です。
- マルチタスク／Multitaskは、日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、PowerPoint®、Windows Media®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Microsoft Excel、Microsoft Wordは、米国のMicrosoft Corporationの商品名称です。
- QuickTimeは、米国および他の国々で登録された米国Apple Inc.の登録商標です。
- QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- microSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。

- Powered by JBlend™ Copyright 2002-2010 Aplix Corporation. All rights reserved.
  JBlendおよびJBlendに関する商標は、日本およびその他の国における株式会社アプリックスの商標または登録商標です。
- 「AXISフォント」は株式会社アクシスの登録商標です。
  また、「AXIS」フォントはタイププロジェクト株式会社が制作したフォントです。
- この製品では、シャープ株式会社が液晶画面で見やすく、読みやすくなるよう設計したLCフォントが搭載されています。LCフォント／LCFONTおよび FONT LC® は、シャープ株式会社の登録商標です。
- McAfee®、マカフィー®は米国法人McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Gガイド、G-GUIDE、Gガイドモバイル、G-GUIDE MOBILE、およびGガイド関連ロゴは、米Gemstar-TV Guide International, Inc. またはその関係会社の日本国内における商標または登録商標です。

- Google, モバイルGoogle マップは、Google, Inc.の登録商標です。
- OBEX™、IrSimple™、IrSS™またはIrSimpleShot™は、Infrared Data Association®の商標です。
- 「CROSS YOU」は、ソニー株式会社の商標です。
- ♪はフェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
  Dolby、ドルビー及びダブルＤ記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- FlashFX® Pro™は、米国Datalight, Inc.の商標または登録商標です。
  (U.S.Patent Office 5,860,082/6,260,156)
- PhotoSolid®、PhotoScouter®、ImageSurf®、StroboPhoto®、TrackSolid®、MovieSolid®、Morpho Smart Select™、Morpho Motion Sensor™は株式会社モルフォの商標または登録商標です。
- 本製品には株式会社モルフォのMorpho Effect Library [PRETTY]を採用しております。
  Morpho Effect Library [PRETTY]は株式会社モルフォの商標です。
- AOSS™及び、AOSS™は株式会社バッファローの商標です。
- Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WMM®、Wi-FiロゴおよびWi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED™、WPA™、WPA2™およびWi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Allianceの商標です。
- DLNA®、DLNAロゴおよびDLNA CERTIFIED™は、Digital Living Network Alliance の商標です。
  DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
  本機のDLNAの認定はシャープ株式会社が取得しました。

- 本製品は沖電気工業株式会社の顔認識エンジンFSE(Face Sensing Engine)を使用しています。FSEおよびFSEロゴは沖電気工業株式会社の商標です。

- 文字変換は、オムロンソフトウェア株式会社のiWnnを使用しています。iWnn©OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2008-2010 All Rights Reserved.
- SNSF © J-DATA Co., Ltd. © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2004-2009 All Rights Reserved.
- HDMI、HDMIロゴおよび高品位マルチメディアインターフェイスは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- 「らくらく瞬漢ルーペ®」及び「ラクラク瞬英ルーペ®」は株式会社アイエスピーの登録商標です。
- Myきせかえクリエイターは、プライムワークス株式会社の商標です。
- 「ベールビュー」、「VeilView」、「チェイスフォーカス」、「AQUOS SHOT」、「ショットメモ」、「ショットデコ」、「ベストセレクトフォト」、「プリティアレンジカメラ」、「クイック設定」、「待受タッチランチャ」、「プレゼンアシスト」、「トリプルくっきりトーク」はシャープ株式会社の商標または登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

その他

- ＦｅｌｉＣａは、ソニー株式会社が開発した非接触ＩＣカードの技術方式です。ＦｅｌｉＣａは、ソニー株式会社の登録商標です。
- 本製品はMPEG-4 Visual Patent Portfolio Licenseに基づき、下記に該当するお客様による個人的で且つ非営利目的に基づく使用がライセンス許諾されております。これ以外の使用については、ライセンス許諾されておりません。
  - ■ MPEG-4ビデオ規格準拠のビデオ(以下「MPEG-4ビデオ」と記載します)を符号化すること。
  - ■ 個人的で且つ営利活動に従事していないお客様が符号化したMPEG-4ビデオを復号すること。
  - ■ ライセンス許諾を受けているプロバイダから取得したMPEG-4ビデオを復号すること。

  その他の用途で使用する場合など詳細については、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。
- 本製品はMPEG-4 Systems Patent Portfolio Licenseに基づき、MPEG-4システム規格準拠の符号化についてライセンス許諾されています。ただし、下記に該当する場合は追加のライセンスの取得およびロイヤリティの支払いが必要となります。
  - ■ タイトルベースで課金する物理媒体に符号化データを記録または複製すること。
  - ■ 永久記録および／または使用のために、符号化データにタイトルベースで課金してエンドユーザに配信すること。

  追加のライセンスについては、米国法人MPEG LA, LLCより許諾を受けることができます。詳細については、米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。

- 本製品は、AVCポートフォリオライセンスに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（ｉ）AVC規格準拠のビデオ（以下「AVCビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ｉｉ）AVCビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたAVCビデオ、および／またはAVCビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したAVCビデオに限ります）を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
  HTTP://WWW.MPEGLA.COMをご参照ください。
- 本製品は、VC-1 Patent Portfolio Licenseに基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（ｉ）VC-1規格準拠のビデオ（以下「VC-1ビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ｉｉ）VC-1ビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化されたVC-1ビデオ、および／またはVC-1ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手したVC-1ビデオに限ります）を復号するライセンスが許諾されております。その他の使用については、黙示的にも一切のライセンス許諾がされておりません。さらに詳しい情報については、MPEG LA, L.L.C.から入手できる可能性があります。
  HTTP://WWW.MPEGLA.COMをご参照ください。
- 本製品はAdobe Systems IncorporatedのAdobe® Flash® Lite®および Adobe Reader® Mobileテクノロジーを搭載しています。

  Adobe Flash Lite Copyright © 2003-2010 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
  Adobe Reader Mobile Copyright © 1993-2010 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.
  Adobe、Adobe Reader、Flash、およびFlash Lite はAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- 本製品は、株式会社ACCESSのNetFront Browser、NetFront Document Viewer、NetFront Sync Client、NetFront Browser DTV Profile One-seg Editionを搭載しています。
  ACCESS、ACCESSロゴ、NetFrontは日本国、米国、およびその他の国における株式会社ACCESSの登録商標または商標です。
  Copyright © 2010 ACCESS CO., LTD. All rights reserved.
  本製品の一部分にIndependent JPEG Groupが開発したモジュールが含まれています。

ACCESS™ NetFront®

- 本製品はジェスチャーテックの技術を搭載しております。
  Copyright © 2006-2009, GestureTek, Inc. All Rights Reserved.
- 本製品のBluetoothソフトウェア・スタックは、株式会社東芝が開発し、著作権を有するToshiba Embedded Bluetooth Stack for Symbianを搭載しております。
- コンテンツ所有者は、WMDRM（Windows Media digital rights management）技術によって著作権を含む知的財産を保護しています。本製品は、WMDRMソフトウェアを使用してWMDRM保護コンテンツにアクセスします。WMDRMソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、保護コンテンツを再生またはコピーするために必要なソフトウェアのWMDRM機能を無効にするよう、コンテンツ所有者はMicrosoftに要求することができます。無効にすることで保護コンテンツ以外のコンテンツが影響を受けることはありません。保護コンテンツを利用するためにライセンスをダウンロードする場合、Microsoftがライセンスに無効化リストを含める場合がありますのであらかじめご了承ください。コンテンツ所有者はコンテンツへのアクセスに際し、WMDRMのアップグレードを要求することがあります。アップグレードを拒否した場合、アップグレードを必要とするコンテンツへのアクセスはできません。
- 「CP8 PATENT」
- 本書では各OS（日本語版）を次のように略して表記しています。
  - Windows 7は、Microsoft® Windows® 7（Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows Vistaは、Windows Vista®（Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。

- Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INCの登録商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。
- 本製品内蔵のネット辞典ではBSDライセンスを使用しています。

  - Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
  - Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
  - Neither the name of the <ORGANIZATION> nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- 本製品に搭載しているHMM音声合成エンジンは、修正BSDライセンスを使用しています。
The HMM-Based Speech Synthesis System (HTS)
hts_engine API developed by HTS Working Group
http://hts-engine.sourceforge.net/

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
  - Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
  - Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
  - Neither the name of the HTS working group nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Quick Manual

CAUTION

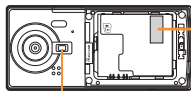
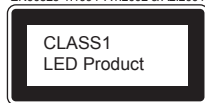
Use only the battery packs and adapters specified by NTT DOCOMO for use with the FOMA terminal.
May cause fires, burns, bodily injury or electric shock.

Do not throw the battery pack into a fire.
The battery pack may catch fire, explode, overheat or leak.

Do not dispose of used battery packs in ordinary garbage.
May cause fires or damage to the environment. Place tape over the terminals to insulate unnecessary battery packs, and take them to a docomo Shop, retailer or institution that handles used batteries in your area.

Avoid using the handset in extremely high or low temperatures.
Use the FOMA terminal within the range of a temperature between 5°C and 40°C (for temperatures of 36°C or higher, such as in a room with a bath, limit usage to a short period of time) and a humidity between 45% and 85%.

Charge battery in areas where ambient temperature is between 5°C and 35°C.

Do not point the illuminated light directly at someone's eyes.
Do not use Picture Light near people's faces. Eyesight may be temporarily affected leading to accidents.

CAUTION:
Use of controls, adjustments or performance of procedure other than those specified herein may result in hazardous radiation exposure. As the emission level from Picture Light LED used in this product is harmful to the eyes, do not attempt to disassemble the cabinet. Servicing is limited to qualified servicing station only.

Picture light source LED characteristics

a) Continuous illumination
b) Wavelength
   White: 400-700 nm
c) Maximum output
   White: 1.4 mW (inside FOMA terminal 4.3 mW)

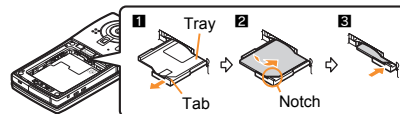
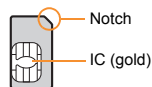
Before Using

Inserting UIM (FOMA card)

1 Hook a finger on the tab and pull out the tray (1)

- Pull out the tray straight until it stops.

2 Hold the UIM with the IC (gold) turned down and set on the tray (2)

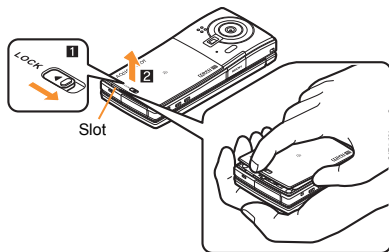
3 Push the tray all the way in (3)

- Note that inserting or removing the UIM forcibly may damage the UIM or deform the tray.

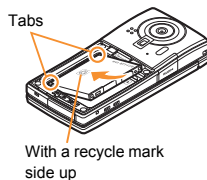
その他

Attaching battery pack

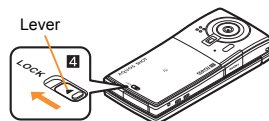
- Perform with the FOMA terminal turned off and closed while holding with your both hands.
- The battery pack is not waterproof/dust-proof.

1 Slide the back cover lever in the direction of the arrow (1) to unlock and remove the back cover (2)

- The FOMA terminal has a slot to remove the back cover. Securely hold the FOMA terminal as shown in the illustration to prevent excessive force on the back cover and hook a nail on the slot and remove the back cover upward.

2 Attach the battery pack

- Turn a recycle mark side of the battery pack up, match tabs and attach the battery pack.

3 Insert the tab of the top of the back cover into the FOMA terminal slot (1), attach it in the direction of the arrow (2) and securely push down with both hands (3)

- The back of the back cover has also six tabs to insert the back cover. Securely push tab areas down with both hands so that gaps are not left between the FOMA terminal and the back cover.

4 Slide the back cover lever in the direction of the arrow (4) to lock

- Using unnecessary force when attaching or removing the battery pack may damage the connector terminal for the battery pack (charger terminal) on the FOMA terminal.
- Securely close the back cover. If not closed securely, the back cover may come off and the battery pack may fall out due to vibration. May damage the waterproof/dust-proof performance and allow water to seep or dust to get in.

その他

Charging

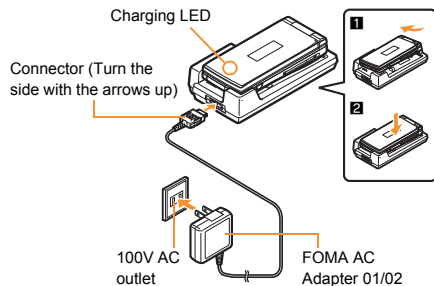
- It is recommended that the accompanying desktop holder be used for charging to prevent water from seeping or dust from getting in caused by forgetting to close the external connector terminal cover.
- The AC adapter and desktop holder are not waterproof/dust-proof. Never try to charge the battery pack when the FOMA terminal is wet.

1 Turn the side with the arrows of the AC adapter connector up and insert it into the connector terminal of the desktop holder

- Keep the connector parallel with the desktop holder and securely push all the way in until it clicks.

2 Insert the AC adapter power plug into an outlet

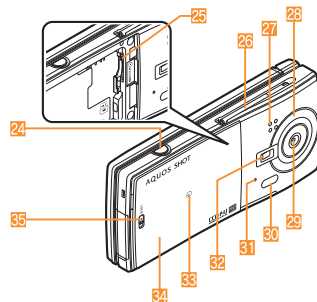
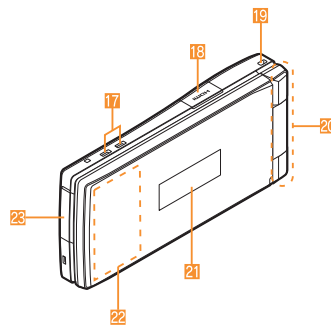
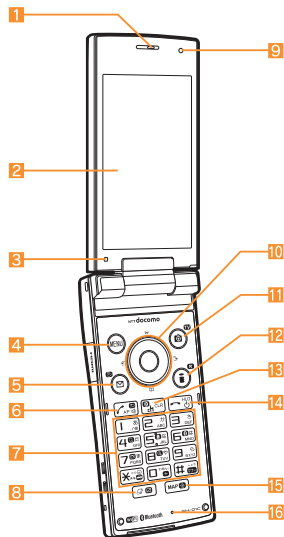
3 When placing the FOMA terminal in the desktop holder, charge alert is heard, charging LED illuminates, and charging starts

- Put the left part of the FOMA terminal on the desktop holder (1) and push down until it clicks (2).

4 Charging is complete when charge alert is heard and charging LED turns off

- Hold the desktop holder and lift the FOMA terminal out.

- Pull the AC adapter out of the outlet when left unused for a long period of time.

- When charge alert is not heard or when charging LED does not illuminate, check that the FOMA terminal is placed securely in the desktop holder (except when terminal is turned off, manner mode is set or charge alert is [OFF]).
- When placing the FOMA terminal in the desktop holder, be careful not to catch a strap, etc.
- When switching to the viewer position with the FOMA terminal set in the desktop holder, operate with holding the FOMA terminal so that it does not come off the desktop holder.

- Key illustrations may look different from actual keys.

1 Earpiece
2 Main display/Touch panel
3 Brightness sensor
4 MENU: MENU/Operation guidance key
5 ✉: Mail/Operation guidance key
6 ☎: Start/Hands-free key
7 1 to 9, ✱, 0 and #: Dial/Character entry keys
8 ▱: Multi/VeilView key
9 Sub camera
10 ◎◎: Multi-guide key
11 📷: Camera/TV/Operation guidance key
12 i (i-mode): i-mode/Operation guidance key
13 CLR (ch): i-Channel/Clear key
14 ⏻: Power/End key
15 MAP: MAP/GPS key
16 Mouthpiece/Microphone
17 Charger terminal
18 HDMI terminal (type D)
19 Strap hole
20 FOMA antenna
21 Sub display
22 Called/Charging LED
23 External connector terminal
24 ▷: Side key
25 microSD Card slot
26 1Seg antenna
27 Speaker
28 Shooting LED
29 Main camera
30 Infrared port
31 Out-microphone for shooting
32 Picture Light
33 ᖘ mark
34 Back cover
35 Back cover lever

Viewing Display

Icon display area

Main icons

Icon	Description
	Battery level → → → → (High → Low)
	Signal status → → → (Strong → Weak) ● When [圏外] appears, the handset is outside the service area or in a place with no signal.
AP Wi-Fi	Wi-Fi
	Hands-free
GPS GPS AUTO GPS	GPS
	i-mode mail/SMS/Area Mail/Information received
	i-αppli
	Alarm/Schedule
	Bluetooth
	Ir communication
	i-mode
	UIM error
	Self mode
	Music&Video Channel program reservation
	3G/GSM
	VeilView
	USB connection
	Record message
	Keypad dial lock
	Manner mode
	Silent/Vibrator
	Public mode (Drive mode)
SD	microSD Card
	Software update
IC	IC card lock
	Music&Video Channel
	Personal data lock
REC REC	1Seg recording

Basic Operations

Turning power on

1 **(for at least 2 seconds)**
- Press for at least 2 seconds to turn the power off.

Changing screen display to English

1 **In the Normal menu, [本体設定] ▶ [文字表示/入力] ▶ [Select language] ▶ [English]**

Making initial setting

1 **[Date and time setting] ▶ set the date and time**
2 **[Password] ▶ register a terminal security code**
3 **[Keypad sound] ▶ set the key sound**
4 **[Text size] ▶ set the font size collectively**
5 **[Request permit/deny] ▶ set GPS location provision**
6 **📷**

Checking your own phone number

1 **In the Normal menu, [Profile]**

Character entry

■ Switching entry modes

1 **In the character entry screen, ✉**

2 **Select the entry mode**

■ Entering characters

Ex.) When entering "電話"

1 **In the character entry screen, enter "でんわ"**

- でんわ: 4 (four times) ▶ ✳ (once) ▶ 0 (three times) ▶ ◎ ▶ 0 (once)
- To enter multiple characters assigned to the same key: Enter a character ▶ ◎ ▶ enter a character

2 📷

3 ◎

■ Entering pictograms/symbols

1 **In the character entry screen, 📷**

- To switch between pictogram and Deco-mail pictogram: 📷
- To switch between single- and double-byte symbols: MENU

2 **Select a pictogram/symbol**

■ Using phrases

1 **In the character entry screen, MENU ▶ [Quote phrase/data] ▶ [Phrase]**

2 **Select a phrase**

■ Entering emoticons

1 **In the character entry screen, MENU ▶ [Pict/Symbol/Smiley] ▶ [Smiley]**

- For a mail message: In the character entry screen, MENU ▶ [Quote phrase/data] ▶ [Pict/Symbol/Smiley] ▶ [Smiley]

2 **Select a category ▶ select an emoticon**

Changing ring tone

1 **In the Normal menu, [Setting] ▶ [Sound/Vibration/Manner] ▶ [Ring tone]**

2 **Select an item**

◆ [Call ring tone] ▶ select an item
◆ [Videophone]
◆ [Mail] ▶ select an item

3 **Set each item ▶ 📷**

Lock/Security

Changing terminal security code

1 **In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [Change security code] ▶ enter the current terminal security code**

2 **Enter the new terminal security code**

3 **Enter the new terminal security code again**

4 📷

Changing network security code

1 **In stand-by, i ▶ [お客様サポート] ▶ [各種設定 (確認･変更･利用)] ▶ [ネットワーク暗証番号変更]**

Changing i-mode password

1 **In stand-by, i ▶ [English] ▶ [Options] ▶ [Change i-mode Password]**

Setting PIN code

1 **In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [UIM setting]**

2 **Select an item**

◆ [Change PIN1 code] ▶ enter the terminal security code ▶ enter the current PIN1 code ▶ enter the new PIN1 code ▶ enter the new PIN1 code again ▶ 📷
◆ [Change PIN2 code] ▶ enter the terminal security code ▶ enter the current PIN2 code ▶ enter the new PIN2 code ▶ enter the new PIN2 code again ▶ 📷
◆ [PIN1 entry ON/OFF] ▶ [ON] ▶ enter the PIN1 code

Various lock functions

■ All lock

1 **In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [Lock settings] ▶ [All lock] ▶ enter the terminal security code**

■ Omakase Lock

Omakase Lock is a service to lock the personal data and IC card functions in case of loss, etc. by only your request to DOCOMO via phone.

- Refer to "Mobile Phone User's Guide [Basic Usage]" for details on Omakase Lock.

Set/Release Omakase Lock

0120-524-360 Office hours: 24 hours (in Japanese only) (open all year round)

※ Unavailable from part of IP phones.

※ Omakase Lock can also be set/released from the My docomo website using PCs.

■ Self mode

1 In the Normal menu, [Setting] ▶ [Other setting] ▶ [Self mode] ▶ select the setting ▶ [Yes]

■ Personal data lock

1 In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [Lock settings] ▶ [Personal data lock] ▶ enter the terminal security code ▶ select the setting

■ Keypad dial lock

1 In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [Keypad dial lock] ▶ enter the terminal security code ▶ select the setting

■ AutoKeyLock

1 In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [Lock settings] ▶ [AutoKeyLock] ▶ select the lock type ▶ enter the terminal security code ▶ set each item ▶

■ IC card lock

1 In stand-by, (for at least 1 second) ▶ [Yes]

■ Side key lock

1 In stand-by, (for at least 1 second) ▶ [Side key lock]

Incoming call restriction

■ Setting response to a call with no caller ID

1 In the Normal menu, [Setting] ▶ [Lock/Security] ▶ [Call rejection setting] ▶ enter the terminal security code

2 Select the reason

3 Set each item ▶

■ Rejecting a call from a caller unset in phonebook

1 In the Normal menu, [TEL function] ▶ [Dial/Receive call setting] ▶ [Reject/Accept call]

2 [Unregistered caller] ▶ enter the terminal security code ▶ select the setting

Voice/Videophone Calls

Making a voice/videophone call

1 In stand-by, enter a phone number

2 (Phone)/ (V.phone)

3 to end the call

Receiving a voice/videophone call

1 When a call is received, the ring tone sounds and the called LED flashes

2

3 to end the call

Making a call with redials/received calls

1 In stand-by, ( ) (Redial)/ ( ) (Received calls)

2 Point the cursor to the phone number

3 (Phone)/ (V.phone)

Using overseas

■ Making a call to outside the country you stay in (including Japan)

1 In stand-by, enter "+" (0 for at least 1 second), country code, area code (city code) and other party's phone number

- When the area code (city code) begins with "0", omit the "0" when dialing (Include "0" when making a call to some countries or regions such as Italy).

2 (Phone)/ (V.phone)

■ Making a call in country you stay

1 In stand-by, enter a phone number

2 (Phone)/ (V.phone)

■ Making a call to WORLD WING user overseas

When you make a call to a WORLD WING user overseas, you make a call as an international call to Japan regardless of your country of stay.

1 In stand-by, enter "+" (0 for at least 1 second), country code "81" (Japan) and the other party's mobile phone number excluding the first "0"

2 (Phone)/ (V.phone)

Mail

Sending i-mode mail

1 In stand-by, ✉ ▶ [Compose message]
2 Select the TO field ▶ select an item
3 Select the SUB field ▶ enter a subject
4 [Message] ▶ enter a message
5 📷

Checking new i-mode mail

1 In stand-by, ✉ ▶ [Check new mail/message]

Replying to i-mode mail

1 In the received mail details screen, MENU ▶ [Reply/Forward]
2 Select the reply method
3 Compose and send a mail

Displaying a mail in Inbox/Outbox/Unsent box

1 In stand-by, ✉
2 Select a box
3 Select a mail

Phonebook

Adding phonebook entries

1 In the Normal menu, [TEL function] ▶ [Phonebook] ▶ [Add to phonebook]/[UIM operation]
2 Set each item ▶ 📷

Camera

Shooting still pictures

1 In stand-by, 📷
2 ◉/D
3 ◉/D

Shooting moving pictures

1 In the Normal menu, [CAMERA/TV/MUSIC] ▶ [Camera] ▶ [Movie shooting]
2 ◉/D
3 ◉/D to end shooting
4 [Save]

Displaying shot still pictures

1 In the Normal menu, [Data box] ▶ [My picture]
2 [Camera] folder ▶ select a still picture

Playing shot moving pictures

1 In the Normal menu, [Data box] ▶ [i-motion/Movie]
2 [Camera] folder ▶ select a moving picture

Watching 1Seg

Performing automatic channel setting

1 In the Normal menu, [CAMERA/TV/MUSIC] ▶ [1Seg] ▶ [Channel setting]
  - When the confirmation screen appears: [Yes] ▶ [Auto setting] ▶ [Yes] ▶ proceed to step 3
2 MENU ▶ [Create] ▶ [Auto setting] ▶ [Yes]
3 Select a prefecture/district
4 [Yes]

Watching 1Seg

1 In the Normal menu, [CAMERA/TV/MUSIC] ▶ [1Seg] ▶ [Activate 1Seg]

Playing recorded videos

1 In the Normal menu, [Data box] ▶ [1Seg]
2 [Video] folder ▶ select a video

Music Playback

Using Music&Video Channel

The Music&Video Channel service is provided in Japanese.

1 In the Normal menu, [CAMERA/TV/MUSIC] ▶ [Music&Video Channel]
2 Select a program

Using MUSIC Player

1 **In the Normal menu, [Data box] ▶ [MUSIC]**
2 **Select music data**

Network Services

Setting Voice Mail Service

Voice Mail Service is a paid option (monthly fees apply) that requires subscription.

1 **In the Normal menu, [TEL function] ▶ [Voice mail service]**
2 **[Activate] ▶ [Yes] ▶ [Yes] ▶ enter the ringing time ▶ [OK]**

Setting Call waiting service

Call waiting service is a paid option (monthly fees apply) that requires subscription.

1 **In the Normal menu, [TEL function] ▶ [Other network service] ▶ [Call waiting]**
2 **[Activate] ▶ [Yes] ▶ [OK]**

Setting Call Forwarding Service

Call Forwarding Service is a free option (no monthly fees) that requires subscription.

1 **In the Normal menu, [TEL function] ▶ [Other network service] ▶ [Call forwarding]**
2 **[Activate] ▶ [Yes] ▶ [Yes] ▶ enter a phone number ▶ [📷] ▶ [Yes] ▶ enter the ringing time ▶ [OK]**

Osaifu-Keitai

Hold the mark of the FOMA terminal over the scanning device to use as electronic money or railway tickets, or retrieve ToruCa.

- When the FOMA terminal is stolen or lost, immediately contact your provider of Osaifu-Keitai compatible service for handling methods.

Bluetooth function

- The Bluetooth word mark and logos are owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by NTT DOCOMO, INC. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.

Registering Bluetooth devices on FOMA terminal

- Switch the other party's Bluetooth device to the registration stand-by status in advance.

1 **In the Normal menu, [Tool] ▶ [Bluetooth] ▶ [List/cnnct/discnct]**
- The device list screen appears when registered device exists. Press [📷] and proceed to step 3.

2 **[Yes]**
3 **Point the cursor to the Bluetooth device to register ▶ [MENU] ▶ [Register Devices]**
4 **Enter the Bluetooth passkey**

Connecting with Bluetooth devices

1 **In the Normal menu, [Tool] ▶ [Bluetooth] ▶ [List/cnnct/discnct]**
2 **Select a Bluetooth device to connect to**

General Notes

Introduction of options and related devices

- Battery Pack SH23
- FOMA AC Adapter 01/02
- FOMA AC Adapter 01 for Global use
- Desktop Holder SH34

Main specifications

Size			112 (H) × 50 (W) × 16.9 (D) mm (21 at thickest point) (when folded)*
Weight			138 g (with battery pack attached)*
Continuous talk time	FOMA/3G		Voice call: 220 min*
			Videophone: 110 min*
	GSM		Voice call: 200 min*
Continuous stand-by time	FOMA/3G	3G/GSM setting: 3G	When mobile: 330 hr*
		3G/GSM setting: AUTO	When mobile: 310 hr*
			At rest: 460 hr*
	GSM	3G/GSM setting: AUTO	At rest: 250 hr*
Charge time	FOMA AC Adapter 01/02		120 min*
	FOMA DC Adapter 01/02		120 min*

* Approximate value

その他

Specific Absorption Rate (SAR) of Mobile Phones

This model SH-01C mobile phone complies with Japanese technical regulations and international guidelines regarding exposure to radio waves.
This mobile phone was designed in observance of Japanese technical regulations regarding exposure to radio waves (*1) and limits to exposure to radio waves recommended by a set of equivalent international guidelines. This set of international guidelines was set out by the International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP), which is in collaboration with the World Health Organization (WHO), and the permissible limits include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health condition.
The technical regulations and international guidelines set out limits for radio waves as the Specific Absorption Rate, or SAR, which is the value of absorbed energy in any 10 grams of tissue over a 6-minute period. The SAR limit for mobile phones is 2.0 W/kg. The highest SAR value for this mobile phone when tested for use at the ear is 0.285 W/kg. There may be slight differences between the SAR levels for each product, but they all satisfy the limit.
The actual SAR of this mobile phone while operating can be well below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum required to reach the network. Therefore in general, the closer you are to a base station, the lower the power output of the device.
This mobile phone can be used in positions other than against your ear. This mobile phone satisfies the international guidelines when used with a carrying case or a wearable accessory approved by NTT DOCOMO, INC. (*2). In case you are not using the approved accessory, please use a product that does not contain any metals, and one that positions the mobile phone at least 1.5 cm away from your body.
The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate that there are harmful effects attributed to the use of mobile devices. They recommend that if you are worried about your exposure then you can limit your usage or simply use a hands-free kit to keep the mobile device away from the head and body.
Please refer to the WHO website if you would like more detailed information.
http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/fact_english.htm
Please refer to the websites listed below if you would like more detailed information regarding SAR.

Ministry of Internal Affairs and Communications Website:
http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/index.htm
Association of Radio Industries and Businesses Website:
http://www.arib-emf.org/index02.html (in Japanese only)
NTT DOCOMO, INC. Website:
http://www.nttdocomo.co.jp/english/product/sar/
SHARP Corporation Website:
http://www.sharp.co.jp/products/menu/phone/cellular/sar/index.html
(in Japanese only)

*1 Technical regulations are defined by the Ministerial Ordinance Related to Radio Law (Article 14-2 of Radio Equipment Regulations).
*2 Regarding the method of measuring SAR when using mobile phones in positions other than against the ear, international standards (IEC62209-2) were set in March of 2010. On the other hand, technical regulation is currently being deliberated on by national council (As of December, 2010).

European RF Exposure Information
Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.
The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2 W/kg and the highest SAR value for this device when tested at the ear was 1.23 W/kg*.
As SAR is measured utilizing the devices highest transmitting power the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.
The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head.

* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

Declaration of Conformity

CE0168ⓘ

In some countries/regions, such as France, there are restrictions on the use of Wi-Fi. If you intend to use Wi-Fi on the handset abroad, check the local laws and regulations beforehand.

Hereby, Sharp Telecommunications of Europe Ltd, declares that this SH-01C is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC.
A copy of the original declaration of conformity can be found at the following Internet address:
http://www.sharp.co.jp/k-tai/ (in Japanese only)

FCC Notice

- This device complies with part 15 of the FCC Rules.
  Operation is subject to the following two conditions:
  (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.
- Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Information to User

This equipment has been tested and found to comply with the limits of a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications.
However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation; if this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

1. Reorient/relocate the receiving antenna.
2. Increase the separation between the equipment and receiver.
3. Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
4. Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver.
It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.
The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organisations through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.
The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg.
The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model. The highest SAR value for this model handset when tested for use at the ear is 0.298 W/kg and when worn on the body, as described in this user guide, is 0.503 W/kg.
Body-worn Operation; This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.5 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.5 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.
The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided.
The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ after searching on FCC ID APYHRO00129.
Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on the Cellular Telecommunications & Internet Association (CTIA) Website at http://www.ctia.org/.

Inquiries

General inquiries <docomo Information Center>

(Business hours: 9:00 a.m. to 8:00 p.m.)

0120-005-250 (toll free)

※ Service available in: English, Portuguese, Chinese, Spanish, Korean.

※ Unavailable from part of IP phones.

(Business hours: 9:00 a.m. to 8:00 p.m. (open all year round))

From DOCOMO mobile phones

(In Japanese only)

(No prefix) 151 (toll free)

※ Unavailable from land-line phones, etc.

From land-line phones

(In Japanese only)

0120-800-000 (toll free)

※ Unavailable from part of IP phones.

- Please confirm the phone number before you dial.

Repairs

(Business hours: 24 hours (open all year round))

From DOCOMO mobile phones

(In Japanese only)

(No prefix) 113 (toll free)

※ Unavailable from land-line phones, etc.

From land-line phones

(In Japanese only)

0120-800-000 (toll free)

※ Unavailable from part of IP phones.

- Please confirm the phone number before you dial.
- For Applications or Repairs and After-Sales Service, please contact the above-mentioned information center or the docomo Shop etc. near you on the NTT DOCOMO website or the i-mode site.
  NTT DOCOMO website: http://www.nttdocomo.co.jp/english/
  i-mode site: iMenu ▶ お客様サポート (user support) ▶ ドコモショップ (docomo Shop) (In Japanese only)

Loss or theft of FOMA terminal or payment of cumulative cost overseas <docomo Information Center>

(available 24 hours a day)

From DOCOMO mobile phones

International call access code for the country you stay	-81-3-6832-6600* (toll free)

* You are charged a call fee to Japan when calling from a land-line phone, etc.

※ If you use SH-01C, you should dial the number +81-3-6832-6600 (to enter "+", press the "0" key for at least 1 second).

From land-line phones

<Universal number>

Universal number international prefix	-8000120-0151*

* You might be charged a domestic call fee according to the call rate for the country you stay.

※ For international call access codes for major countries and universal number international prefix, refer to DOCOMO International Services website.

Failures encountered overseas <Network Support and Operation Center>

(available 24 hours a day)

From DOCOMO mobile phones

International call access code for the country you stay	-81-3-6718-1414* (toll free)

* You are charged a call fee to Japan when calling from a land-line phone, etc.

※ If you use SH-01C, you should dial the number +81-3-6718-1414 (to enter "+", press the "0" key for at least 1 second).

From land-line phones

<Universal number>

Universal number international prefix	-8005931-8600*

* You might be charged a domestic call fee according to the call rate for the country you stay.

※ For international call access codes for major countries and universal number international prefix, refer to DOCOMO International Services website.

- If you lose your FOMA terminal or have it stolen, immediately take the steps necessary for suspending the use of the FOMA terminal.
- If the FOMA terminal you purchased is damaged, bring your FOMA terminal to a repair counter specified by DOCOMO after returning to Japan.

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

英数字

ご契約内容の確認・変更、各種サービスのお申し込み、各種資料請求をオンライン上で承っております。

iモードから　iMenu ▶ お客様サポート ▶ お申込・お手続き ▶ 各種お申込・お手続き パケット通信料無料

パソコンから　My docomo（http://www.mydocomo.com/）▶ 各種お申込・お手続き

※ iモードからご利用になる場合、「ネットワーク暗証番号」が必要となります。
※ iモードからご利用になる場合のパケット通信料は無料です。海外からのアクセスの場合は有料となります。
※ パソコンからご利用になる場合、「docomo ID／パスワード」が必要となります。
※ 「ネットワーク暗証番号」および「docomo ID／パスワード」をお持ちでない方・お忘れの方は取扱説明書裏面の「総合お問い合わせ先」にご相談ください。
※ ご契約内容によってはご利用になれない場合があります。
※ システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

マナーも一緒に携帯しましょう

公共の場所で携帯電話をご利用の際は周囲への心くばりを忘れずに。

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■ 使用禁止の場所にいる場合
航空機内、病院内や電車などの優先席付近では、必ず携帯電話の電源を切ってください。

こんな場合は公共モードに設定しましょう

■ 運転中の場合
運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合を除きます。

■ 劇場・映画館・美術館など、公共の場所にいる場合

プライバシーに配慮しましょう

カメラ付き携帯電話を利用して、撮影や画像送信を行う際はプライバシーなどにご配慮ください。

ドコモの環境への取り組み

取扱説明書の薄型化

本書では、基本的な機能の操作について説明することにより、取扱説明書の薄型化を図り、紙の使用量を削減いたしました。よく使われる機能や詳しい説明については、使いかたガイド（本FOMA端末に搭載）やドコモのホームページでご確認いただけます。

携帯電話の回収・リサイクル

携帯電話・PHS事業者は、環境を保護し貴重な資源を再利用するためにお客様が不要となってお持ちになる電話機・電池・充電器をブランド・メーカー問わず左記マークのあるお店で回収し、リサイクルを行っております。
お近くのドコモショップへお持ちください。

● この印刷物はリサイクルに配慮して製本されています。不要となった際は、回収、リサイクルに出しましょう。

総合お問い合わせ先<ドコモ インフォメーションセンター>

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）151（無料）

※ 一般電話などからはご利用いただけません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※ 一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　午前9:00～午後8:00　（年中無休）

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

（局番なしの）113（無料）

※ 一般電話などからはご利用いただけません。

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※ 一部のIP電話からは接続できない場合があります。

受付時間　24時間　（年中無休）

●番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。
●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページ、ｉモードサイトにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。

ドコモホームページ　http://www.nttdocomo.co.jp/

ｉモードサイト　ｉMenu ▶お客様サポート ▶ドコモショップ

海外での紛失、盗難、精算などについて <ドコモ インフォメーションセンター>（24時間受付）

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 -81-3-6832-6600＊（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。
※SH-01Cからご利用の場合は、+81-3-6832-6600でつながります。
（「+」は「0」ボタンを1秒以上押します。）

一般電話などからの場合
<ユニバーサルナンバー>

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 -8000120-0151＊

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。
※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

海外での故障について <ネットワークオペレーションセンター>（24時間受付）

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 -81-3-6718-1414＊（無料）

＊一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。
※SH-01Cからご利用の場合は、+81-3-6718-1414でつながります。
（「+」は「0」ボタンを1秒以上押します。）

一般電話などからの場合
<ユニバーサルナンバー>

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 -8005931-8600＊

＊滞在国内通話料などがかかる場合があります。
※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの「国際サービスホームページ」をご覧ください。

●紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。
●お客様が購入されたFOMA端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

マナーもいっしょに携帯しましょう。
◎公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　株式会社NTTドコモ
製造元　シャープ株式会社

Li-ion00
環境保全のため、不要になった電池はNTTドコモまたは代理店、リサイクル協力店などにお持ちください。

大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています

'10.12（3.2版）
TINSJA742AFZB
11A 42.8 DS SM124③

SH-01C
パソコン接続マニュアル

パソコン接続マニュアルについて

本マニュアルでは、SH-01Cでデータ通信をする際に必要な事項についての説明をはじめ、CD-ROM内の「FOMA通信設定ファイル」「ドコモ コネクションマネージャ」のインストール方法などを説明しています。
お使いの環境によっては操作手順や画面が一部異なる場合があります。

'10.11(2版)

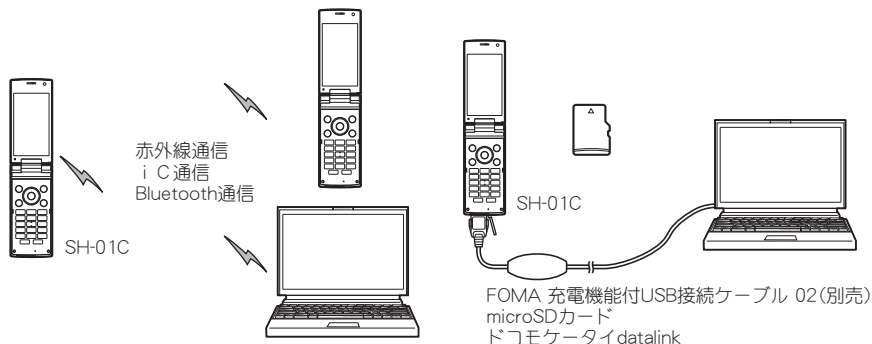
データ通信

FOMA端末から利用できるデータ通信

FOMA端末の通信形態は、パケット通信、64Kデータ通信、データ転送の３つに分類されます。

- FOMA端末はFAX通信をサポートしていません。
- FOMA端末をsigmarionⅢと接続してデータ通信を行うことができます。ハイスピードエリア対応の高速通信には対応しておりません。
- FOMA端末は、Remote Wakeupには対応していません。
- 海外では、パソコンなどと接続しての64Kデータ通信は利用できません。
- 海外でパケット通信を行う場合は、IP接続で通信を行ってください（PPP接続ではパケット通信できません）。

■ データ転送（OBEX™通信）

画像や音楽、電話帳、メールなどのデータを、FOMA端末と他のFOMA端末やパソコンなどの間で送受信します。

■ パケット通信

送受信したデータ量に応じて課金されます。ネットワークに接続中でもデータの送受信を行っていないときは通信料がかからないので、ネットワークに接続したまま必要なときにデータの送受信を行うという使いかたができます。

ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」など、FOMAのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大7.2Mbps、送信最大5.7Mbpsの高速通信を行うことができます（通信環境や、電波などが混み合った状態の影響により通信速度が変化するベストエフォート方式による提供です）。

- 最大7.2Mbps、最大5.7Mbpsとは、技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。実際の通信速度は、ネットワークの混み具合や通信環境により異なります。
- FOMAハイスピードエリア外やHIGH-SPEEDに対応していないアクセスポイントに接続するとき、またはドコモのPDA「sigmarionⅢ」などHIGH-SPEEDに対応していない機器をご利用の場合は、通信速度が遅くなる場合があります。

パケット通信はFOMA端末とパソコンなどをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）やBluetooth機能、Wi-Fi接続で接続して、各種設定を行うと利用できます。メールの文字データの送受信など、比較的少ないデータ量を高速でやりとりする場合に適しています。

データ量の大きいファイルの送受信を行った場合、通信料金が高額になりますので、ご注意ください。

FOMA端末では、パソコンなどによるパケット通信と音声電話を同時に利用できます。

■ 64Kデータ通信

接続している時間に応じて課金されます。ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」など、FOMA 64Kデータ通信に対応したアクセスポイント、またはISDNの同期64Kアクセスポイントを利用します。

64Kデータ通信はFOMA端末とパソコンなどをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02やBluetooth機能で接続して、各種設定を行うと利用できます。データBOXコンテンツのダウンロードなど、比較的データ量の多い送受信を行う場合に適しています。

長時間通信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。

ご利用にあたっての留意点

■ インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットをご利用の場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダに対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に、インターネットサービスプロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用いただけます。「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要（有料）となります。

■ 接続先（インターネットサービスプロバイダなど）の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときは、FOMAパケット通信対応の接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

- DoPaのアクセスポイントには接続できません。
- moperaのサービス内容および接続設定方法についてはmoperaのホームページをご確認ください。
  http://www.mopera.net/mopera/index.html

■ パケット通信および64Kデータ通信の条件

日本国内でデータ通信（パケット通信／64Kデータ通信）を行うには、次の条件が必要になります。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を利用できるパソコンであること
- Bluetooth機能を利用する場合は、パソコンがBluetooth標準規格Ver.1.1、Ver.1.2またはVer.2.0+EDR（ダイヤルアップネットワーキングプロファイル）に対応していること
- Wi-Fi接続を利用する場合は、パソコンが無線LAN標準規格IEEE 802.11b、IEEE 802.11gまたはIEEE 802.11nに対応していること
- FOMAサービスエリア内であること
- パケット通信の場合、アクセスポイントがFOMAのパケット通信に対応していること
- 64Kデータ通信の場合、接続先がFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64Kに対応していること

ただし、前述の条件が整っていても、基地局が混雑していたり、電波状況などにより通信ができないことがあります。

- パケット接続を行う場合は、FOMA端末と接続する機器がJATE（財団法人電気通信端末機器審査協会）の認定品である必要があります。

■ ブラウザ利用時のアクセス認証について

パソコンのブラウザでFirstPass対応サイトを利用するときのアクセス認証ではFirstPass（ユーザ証明書）が必要です。詳しくはドコモのホームページをご覧ください。

ご使用になる前に

動作環境

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

項　目	必要環境
パソコン本体	PC/AT互換機 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）を使用する場合：USBポート（Universal Serial Bus Specification Rev1.1／2.0準拠） Bluetooth機能を利用する場合：Bluetooth標準規格Ver.1.1、Ver.1.2またはVer.2.0+EDR準拠（ダイヤルアップネットワーキングプロファイル） Wi-Fi接続を利用する場合：無線LAN標準規格IEEE 802.11b、IEEE 802.11gまたはIEEE 802.11n準拠 ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color16ビット以上を推奨 ● ドコモ コネクションマネージャは1024×768ドット以上を推奨
OS	Windows XP、Windows Vista、Windows 7（各日本語版）
必要メモリ	Windows XP：128MB以上、Windows Vista：512MB以上、Windows 7（32ビット版）：1GB以上、Windows 7（64ビット版）：2GB以上
ハードディスク容量	5MB以上の空き容量 ● ドコモ コネクションマネージャは10MB以上の空き容量
Webブラウザ※	Internet Explorer 6.0以上
メールソフト※	WindowsメールおよびOutlook Express 6.0

※ドコモ コネクションマネージャを利用するための動作環境です。

次ページへ続く ▶▶

- 動作環境の最新情報については、ドコモのホームページをご確認ください。
- 必要メモリ・ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なる場合があります。
- メニューが動作する推奨環境はMicrosoft Internet Explorer 7.0以上です。
  Windows XPの場合、推奨環境はMicrosoft Internet Explorer 6.0以上です。
- CD-ROMをセットしてもメニューが表示されない場合は、次の手順で操作してください。

  Windows 7の場合

  Windowsの[スタート]メニューで[プログラムとファイルの検索]欄に[＜CD-ROMドライブ名＞:index.html]と指定し、検索結果欄に表示された[index.html]をクリックします。

  Windows Vistaの場合

  Windowsの[スタート]メニューで[検索の開始]欄に[＜CD-ROMドライブ名＞:index.html]と指定し、検索結果欄に表示された[index.html]をクリックします。

  Windows XPの場合

  Windowsの[スタート]メニューで[ファイル名を指定して実行]をクリックし、[＜CD-ROMドライブ名＞:index.html]と指定して[OK]をクリックします。
- OSのアップグレードや追加・変更した環境での動作は保証いたしかねます。
- 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、前記の動作環境以外でのご使用による問い合わせおよび動作保証は、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- CD-ROMをパソコンにセットすると、警告画面が表示される場合があります。この警告は、Internet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。
  [はい]をクリックしてください。

必要な機器

FOMA端末とパソコン以外に次のハードウェア、ソフトウェアを使います。

- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)※、またはFOMA USB接続ケーブル(別売)※
- CD-ROM「SH-01C用CD-ROM」(付属)

※ USB接続の場合

- USBケーブルは専用の「FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02」、または「FOMA USB接続ケーブル」をご利用ください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。
- USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。

データ転送(OBEX™通信)の準備の流れ

FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)をご利用になる場合は、FOMA通信設定ファイルをインストールしてください。

FOMA通信設定ファイルをダウンロード、インストールする
● 付属のCD-ROMからインストール(☞P.7) ● ドコモのホームページからダウンロードして、インストール

データ転送

データ通信の準備の流れ

パソコンとFOMA端末を接続して、パケット通信および64Kデータ通信を利用する場合の準備について説明します。次のような流れになります。

USB接続の場合

FOMA通信設定ファイルをダウンロード、インストールする

● 付属のCD-ROMからインストール（☞P.7）
● ドコモのホームページからダウンロードして、インストール

↓

パソコンとFOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）で接続する（☞P.6）

↓

インストール後の確認をする（☞P.8）

Bluetooth接続の場合

パソコンとFOMA端末をBluetooth機能を利用してワイヤレス接続する（☞P.11）

↓

モデムの確認をする（☞P.12）

↓

ドコモ コネクションマネージャをインストールする（☞P.16）

↓

ドコモ コネクションマネージャでデータ通信の設定をする※

↓

接続する（☞P.19）

または

ドコモ コネクションマネージャを使わずに通信の設定をする

● パケット通信（☞P.20）
● 64Kデータ通信（☞P.20）

↓

接続する（☞P.28）

※ドコモ コネクションマネージャの設定については、「ドコモ コネクションマネージャ操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

● FOMA端末でインターネットをするには、ブロードバンド接続などに対応した「mopera U」（お申し込み必要）が便利です。使用した月だけ月額使用料がかかるプランもございます。

Wi-Fi接続の場合

FOMA端末をアクセスポイントモードにする

● アクセスポイントモードについては、FOMA端末の「取扱説明書（詳細版）」（ PDFファイル）をご覧ください。

パソコンとFOMA端末をWi-Fi接続を利用してワイヤレス接続する（☞P.13）

接続する（☞P.28）

FOMA通信設定ファイルについて

FOMA端末とパソコンをFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02で接続してデータ通信を行うには、付属のCD-ROMからFOMA通信設定ファイルをインストールする必要があります（☞P.7～P.10）。

- インストールに失敗してP.9「インストールしたFOMA通信設定ファイル（ドライバ）を確認する」の操作 3 の各画面で[FOMA SH01C]のデバイス名が表示されていない場合は、FOMA通信設定ファイルをアンインストールし（☞P.9）、もう一度インストールしてください。
- 何らかの原因により、パソコンがFOMA端末を認識できなくなった場合は、FOMA通信設定ファイルをアンインストールし（☞P.9）、もう一度インストールしてください。

Bluetooth接続を準備する

Bluetooth対応パソコンとFOMA端末をワイヤレス接続してデータ通信を行います。

- Bluetooth接続の詳細については☞P.11

Wi-Fi対応パソコンを接続する

Wi-Fi対応パソコンとFOMA端末をワイヤレス接続してデータ通信を行います。

- Wi-Fi対応パソコンの接続については☞P.13

ドコモ コネクションマネージャについて

付属のCD-ROMからドコモ コネクションマネージャをパソコンにインストールして使うと、FOMA端末とパソコンを接続して行うパケット通信や、64Kデータ通信に必要なさまざまな設定を、簡単に行うことができます（☞P.14）。

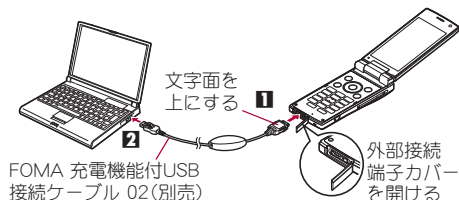
パソコンとFOMA端末を接続する

パソコンとFOMA端末は、電源が入っている状態で接続してください。パソコンとFOMA端末を接続すると、FOMA端末の画面に[▣]が表示されます。FOMA通信設定ファイルがインストールされていない場合、使用するパソコンにFOMA端末を接続する前に、FOMA通信設定ファイルをインストールしておきます(☞P.7)。

- Bluetooth機能を利用してワイヤレス接続する場合は、P.11を参照してください。
- Wi-Fi接続を利用してワイヤレス接続する場合は、P.13を参照してください。

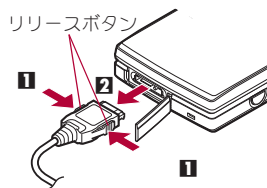
FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02で接続する

1 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)のFOMA端末側コネクタをFOMA端末の外部接続端子に差し込む(1)。

2 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のパソコン側コネクタをパソコンのUSBコネクタに差し込む(2)。

取り外しかた

1 FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のFOMA端末側のリリースボタンを押した状態(1)で、FOMA端末からコネクタを水平に引き抜く(2)。

- 無理に引っ張ると故障の原因となります。

2 パソコンからFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02のコネクタを抜く。

- FOMA端末のUSBモード設定を[通信モード]にして接続してください。
  - 通信モードにする:FOMA端末のノーマルメニューで[本体設定] ▶ [外部接続] ▶ [USBモード] ▶ [通信モード]の順に選ぶ。
- FOMA端末を卓上ホルダで充電しながら接続することもできます。
- データ通信中にFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を外さないでください。データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。

FOMA通信設定ファイルをインストールする

FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)でパソコンに接続してデータ通信を行うには、FOMA通信設定ファイルが必要です。

- FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする前に、パソコンに常駐しているソフトはすべて終了してください。
- FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を使用して接続するとき以外は、FOMA通信設定ファイルをインストールする必要はありません。

FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする

- パソコンの管理者権限を持ったユーザーでインストールしてください。
  - ・ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、[はい]または[許可]、[続行]をクリックしてください。
- FOMA端末は操作 1 ～ 6 を行ったあとにパソコンに接続してください。

1 付属のCD-ROMをパソコンにセットする。

- TOP画面が表示されます。

2 [データリンクソフト・各種設定ソフト]▶[FOMA通信設定ファイル(USBドライバ)]欄の[Windows® 7(32ビット版)用]をクリックする。

Windows 7(64ビット版)の場合

1 [Windows® 7(64ビット版)用]をクリックする。

Windows Vista(32ビット版)の場合

1 [Windows Vista®(32ビット版)用]をクリックする。

Windows Vista(64ビット版)の場合

1 [Windows Vista®(64ビット版)用]をクリックする。

Windows XPの場合

1 [Windows® XP用]をクリックする。

3 [SH_Setup.exe]をダブルクリックする。

Windows Vista、Windows XPの場合

1 [SH01Cs.exe]をダブルクリックし、操作 6 へ進む。

次ページへ続く▶▶

4 **[セットアップ後ドライバインストールを開始する。]が☑になっているか確認し、[セットアップ開始]をクリックする。**

- □の場合は、☑にします。

5 **セットアップ完了画面が表示されたら[OK]をクリックする。**

6 **[インストール開始]をクリックする。**

7 **[FOMA SH01CとPCをFOMA USB接続ケーブルにて接続してください。]が表示されたら、FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02でパソコンに接続する。**

- インストール中の画面が表示され、インストールが自動的に開始します。
- FOMA端末は電源が入った状態で接続してください。

8 **[FOMA SH01Cドライバのインストールが完了しました。]が表示されたら[OK]をクリックする。**

- FOMA通信設定ファイルのインストールが終了します。

- インストールには数分かかる場合があります。
- [プログラム互換性アシスタント]が表示された場合は[このプログラムは正しくインストールされました]をクリックしてください。
- パソコンを再起動する旨の画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。
- [他のデバイスドライバのインストールが終了後に再度インストーラを実行してください。]と表示された場合は、自動的にインストールされた別のドライバをアンインストールしてから、インストールしてください。アンインストールの操作については「FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をアンインストールする」を参照してください。

インストールしたFOMA通信設定ファイル(ドライバ)を確認する

FOMA端末がパソコンに正しく認識されていない場合、設定および通信はできません。

＜例＞Windows 7で確認するとき

- Windows Vista、Windows XPをご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 **[スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックし、[システムとセキュリティ]をクリックする。**

- システムのプロパティ画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 [スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックする。
2 [システムとメンテナンス]▶[システム]アイコンを順にクリックする。

Windows XPの場合

1 [スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックする。
2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコン▶[システム]アイコンをクリックする。

2 **[デバイスマネージャー]をクリックする。**

- デバイスマネージャー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 [タスク]の[デバイスマネージャ]をクリックする。

Windows XPの場合

1 [ハードウェア]タブをクリックする。
2 [デバイスマネージャ]をクリックする。

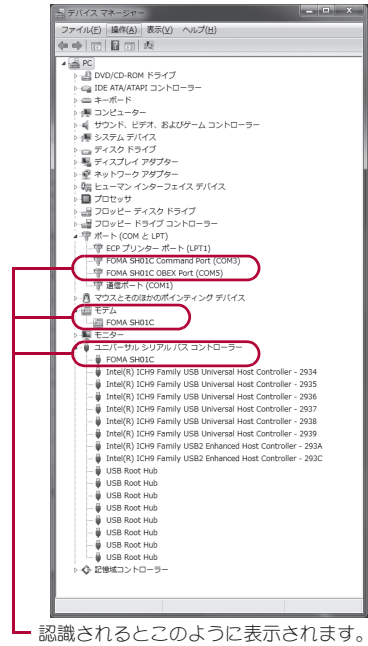
次ページへ続く▶▶

3 各デバイスをクリックしてインストールされたデバイス名を確認する。

［ユニバーサル シリアル バス コントローラー］、［ポート（COMとLPT）］、［モデム］の箇所に、インストールしたデバイス名がすべて表示されていることを確認します。

- FOMA通信設定ファイルをインストールすると、次のドライバがインストールされます。

デバイスの種類	デバイス名
ユニバーサル シリアル バス コントローラー Windows Vistaの場合 ユニバーサル シリアル バス コントローラ Windows XPの場合 USB（Universal Serial Bus）コントローラ	● FOMA SH01C
ポート（COMとLPT）	● FOMA SH01C Command Port（COMx）※ ● FOMA SH01C OBEX Port（COMx）※
モデム	● FOMA SH01C

※「COMx」の「x」は数値です。お使いのパソコンによって異なります。

認識されるとこのように表示されます。

- インストールに失敗したとき、または操作3の画面に［FOMA SH01C］が表示されていないときは、アンインストールしてから再度インストールしてください。アンインストールの操作については「FOMA通信設定ファイル（ドライバ）をアンインストールする」を参照してください。

FOMA通信設定ファイル（ドライバ）をアンインストールする

FOMA通信設定ファイルのアンインストール手順を説明します。

- FOMA通信設定ファイルのアンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。それ以外のユーザーが行うとエラーになります。
  パソコンの管理者権限の設定操作については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。
  - ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、［はい］または［許可］、［続行］をクリックしてください。

■ コントロールパネルからアンインストールする

<例>Windows 7でアンインストールするとき

- Windows Vista、Windows XPをご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 ［スタート］メニュー▶［コントロールパネル］をクリックし、［プログラムのアンインストール］をクリックする。

- ［プログラムのアンインストールまたは変更］画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 ［スタート］メニュー▶［コントロールパネル］をクリックする。

2 ［プログラム］▶［プログラムと機能］アイコンを順にクリックする。

Windows XPの場合

1 ［スタート］メニュー▶［コントロールパネル］をクリックする。

2 ［プログラムの追加と削除］アイコンをクリックする。

- ［プログラムの追加と削除］画面が表示されます。

次ページへ続く

2 [FOMA SH01C USB]をダブルクリックする。

Windows XPの場合

1 [FOMA SH01C USB]を選ぶ。
2 [変更と削除]をクリックする。

3 [FOMA SH01C ドライバーのアンインストールを行います。]が表示されたら、[はい]をクリックする。

- FOMA通信設定ファイルのアンインストールが開始されます。

4 [アンインストールは完了しました。PCを再起動してください。]が表示されたら、[OK]をクリックし、パソコンを再起動する。

- FOMA通信設定ファイルのアンインストールが終了します。

5 デバイスメタデータの削除を行う(☞P.10)。

- [プログラムのアンインストールまたは変更]画面に「FOMA SH01C USB」が表示されていない場合は、付属のCD-ROM内の¥SH-01C_driver_win7_32¥Win7_32フォルダ内※の「SH01Cc.exe」をダブルクリックしてアンインストールを行ってください。
  ※ Windows 7(64ビット版)の場合:¥SH-01C_driver_win7_64¥Win7_64フォルダ内
  Windows Vista(32ビット版)の場合:¥SH-01C_driver_vista32¥WinVista32フォルダ内
  Windows Vista(64ビット版)の場合:¥SH-01C_driver_vista64¥WinVista64フォルダ内
  Windows XPの場合:¥SH-01C_driver_win_xp¥Win_XPフォルダ内
- [プログラム互換性アシスタント]が表示された場合は[このプログラムは正しくインストールされました]をクリックしてください。

■デバイスメタデータを削除する

Windows 7の場合は、FOMA通信設定ファイル(ドライバ)のアンインストールを行ってもデバイスメタデータは削除されません。パソコンの使用には問題ありませんが、デバイスメタデータの削除を行う場合は次の操作を行ってください。

- パソコンの管理者権限を持ったユーザーで削除してください。
  ・ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、[はい]または[許可]、[続行]をクリックしてください。

1 P.7「FOMA通信設定ファイル(ドライバ)をインストールする」の操作 1 ～ 2 を行う。

2 [SH_DeleteMetadata.exe]をダブルクリックする。

3 [メタデータ削除後ドライバアンインストールを開始する。]が□になっているか確認し、[削除開始]をクリックする。

- デバイスメタデータ削除後、続けてFOMA通信設定ファイル(ドライバ)のアンインストールを行う場合は、□を☑にします。

4 アンインストール完了画面が表示されたら[OK]をクリックする。

- デバイスメタデータの削除が終了します。

- [プログラム互換性アシスタント]が表示された場合は[このプログラムは正しくインストールされました]をクリックしてください。

Bluetooth接続の準備をする

Bluetooth対応パソコンとFOMA端末をワイヤレス接続してデータ通信を行います。

- Bluetooth機能を利用してデータ通信を行う場合は、FOMA端末の通信速度はハイスピード用の通信速度になりますが、Bluetooth機能の通信速度に限界があるため、最大速度では通信できない場合があります。
- 通信の際はBluetoothリンク経由標準モデムまたはBluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデムをご使用ください。ご使用になる場合のインストール方法や設定方法については、ご使用のパソコンメーカまたはBluetooth機器メーカにご確認ください。
- パソコンの操作方法については、ご使用のパソコンの取扱説明書を参照してください（取扱説明書によっては、「検索」の代わりに「探索」／「サーチ」、「機器登録」の代わりに「ペアリング」と表記されています）。

パソコンとFOMA端末をBluetooth機能を利用してワイヤレス接続する

はじめてFOMA端末に接続するパソコンの場合、パソコンをFOMA端末に登録します。

- パソコンとFOMA端末を操作します。

■ パソコンをFOMA端末に登録する

1 FOMA端末のノーマルメニューで[便利ツール]▶[Bluetooth]▶[接続待機]を順に選ぶ。

2 パソコンからBluetoothデバイスの検索と機器登録をする。

- FOMA端末は待受画面を表示させておいてください。

3 FOMA端末の画面に機器登録する旨のメッセージが表示されたら[はい]を選び、FOMA端末でBluetoothパスキーを入力して◉を押す。

- Bluetoothパスキーは4～16桁まで入力できます。
- FOMA端末とパソコンには同一のBluetoothパスキーを入力してください。
- パソコンが機器登録されます。
- 続けてパソコンとFOMA端末をワイヤレス接続する場合は「登録済みのパソコンとFOMA端末を接続する」の操作2に進みます。

- FOMA端末を接続待機にしてから約5分間以内に機器登録してください。

■ 登録済みのパソコンとFOMA端末を接続する

1 FOMA端末のノーマルメニューで[便利ツール]▶[Bluetooth]を順に選ぶ。

2 [接続待機]を選んで✉を押し、[ダイヤルアップ（DUN）]を☑にして📷を押す。

3 パソコンから接続操作を行う。

- 自動的に接続し、[ʙ（青色）]が約0.5秒間隔で点滅します。FOMA端末から一定時間データが送信されないときはアイコンが[ʙ（グレー）]に変わります。

モデムを確認する

通信の設定を行う前に、使用するモデムのモデム名やダイヤルアップ接続用に設定されたCOMポート番号を確認します。

- パソコンを操作します。

<例>Windows 7で確認するとき

- Windows Vista、Windows XPをご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 [スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックし、[システムとセキュリティ]をクリックする。

- システムのプロパティ画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 [スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックする。
2 [システムとメンテナンス]▶[システム]アイコンを順にクリックする。

Windows XPの場合

1 [スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックする。
2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコン▶[システム]アイコンをクリックする。

2 [デバイスマネージャー]をクリックする。

- デバイスマネージャー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 [タスク]の[デバイスマネージャ]をクリックする。

Windows XPの場合

1 [ハードウェア]タブをクリックする。
2 [デバイスマネージャ]をクリックする。

3 各デバイスをクリックしてモデム名またはCOMポート番号を確認する。

ダイヤルアップ通信サービスを停止する

- FOMA端末を操作します。

1 通信中に[✉]を押し、[便利ツール]▶[Bluetooth]▶[機器リスト・接続・切断]を順に選ぶ。

2 接続中のBluetooth機器を選んで◉を押し、[はい]を選ぶ。

Wi-Fi対応パソコンを接続する

FOMA端末をアクセスポイントにすることで、Wi-Fi対応パソコンとFOMA端末をWi-Fi接続し、パケット通信を行うことができます。

- あらかじめFOMA端末をアクセスポイントモードにしておく必要があります。アクセスポイントモードの設定などについては、FOMA端末の「取扱説明書(詳細版)」(PDFファイル)をご覧ください。

<例>Windows 7で接続するとき

1 [スタート]メニュー ▶ [コントロールパネル]をクリックする。

Windows Vistaの場合

1 [スタート]メニュー ▶ [接続先]をクリックし、操作4へ進む。

2 [ネットワークとインターネット]をクリックする。

3 [ネットワークと共有センター]をクリックする。

- ネットワークに接続画面が表示されます。

4 [新しい接続またはネットワークのセットアップ]をクリックする。

- ネットワークに接続画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 [接続またはネットワークをセットアップします]をクリックする。

5 [ワイヤレスネットワークに手動で接続します]を選んで[次へ]をクリックする。

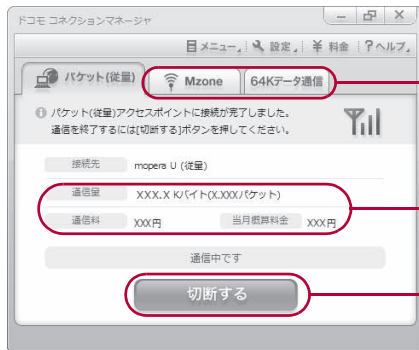
6 [ネットワーク名]にESSIDを入力し、[セキュリティの種類]からセキュリティ方式を選んで[次へ]をクリックする。

- ESSID、セキュリティの種類はFOMA端末に設定されている内容を入力/設定してください。
- [セキュリティの種類]の[WPA2-パーソナル]は、WPA2-PSKと同じ意味です。
- FOMA端末で暗号化を設定している場合は、[暗号化の種類]と[セキュリティキー]をFOMA端末と同じように設定します。

7 [閉じる]をクリックする。

ドコモ コネクションマネージャを利用する通信の設定

ドコモ コネクションマネージャ

「ドコモ コネクションマネージャ」は、定額データ通信および従量データ通信を行うのに便利なソフトウェアです。mopera Uのお申し込みや、お客様のご契約状況に応じたパソコンの設定を簡単に行うことができます。
また、料金カウンタ機能でデータ通信量や利用金額の目安を確認することもできます。

- 本書では、ドコモ コネクションマネージャのインストール方法までをご案内いたします。
- 端末を使ってインターネットに接続するためには、サービスおよびデータ通信に対応したインターネットサービスプロバイダ(mopera Uなど)のご契約が必要です。
- 詳しくは、ドコモのホームページをご覧ください。

従量制データ通信(iモードパケット定額サービスなど含む)のご利用について

- パケット通信を利用して、画像を含むホームページの閲覧、データのダウンロード(例:アプリケーションや音楽・動画データ、OS・ウイルス対策ソフトのアップデート)などのデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額となる場合がありますのでご注意ください。
  なお、本FOMA端末をパソコンなどにUSBケーブルで接続してデータ通信を行う場合は、FOMAのパケット定額サービス「パケ・ホーダイ」、「パケ・ホーダイフル」の定額対象外通信となりますのでご注意ください。

定額データプランのご利用について

- 定額データプランを利用するには、定額データ通信に対応した料金プラン・インターネットサービスプロバイダにご契約いただく必要があります。詳しくはドコモのホームページをご確認ください。

moperaのご利用について

- 接続設定方法についてはmoperaのホームページをご確認ください。
  http://www.mopera.net/mopera/support/index.html

ドコモ コネクションマネージャをインストールする前に

■インストールの流れ

STEP 1　設定前の準備
FOMA端末とFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)またはFOMA USB接続ケーブル(別売)を用意する。

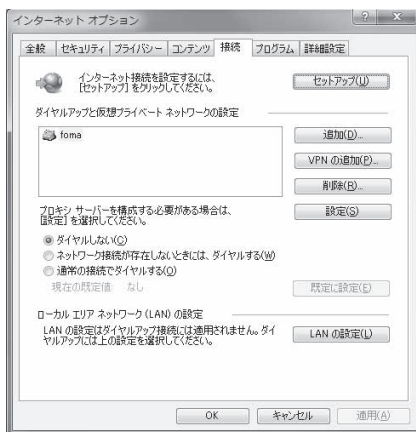
STEP 2　契約内容の確認
サービスおよびインターネットサービスプロバイダの契約内容を確認する。

STEP 3　設定の変更
ドコモ コネクションマネージャ以外の接続ソフトがインストールされている場合は、必要に応じて自動的に起動しないように設定を変更する。
詳しくは、P.15「ドコモ コネクションマネージャ以外の接続ソフトのご利用について」を参照してください。

次ページへ続く

Internet Explorerの設定について

本ソフトをインストールする前に、Internet Explorerのインターネットオプションで、接続の設定を[ダイヤルしない]に設定してください。

1 Internet Explorerを起動し、[ツール]▶[インターネットオプション]を順にクリックする。
2 [接続]タブをクリックし、[ダイヤルしない]を選ぶ。
3 [OK]をクリックする。

1 ドコモ コネクションマネージャを使用するユーザーでログオンする。

Windows 7、Windows Vistaの場合

- 管理者アカウントが必要です。管理者アカウント以外でログオンしている場合は、インストールの途中で、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。

Windows XPの場合

- Administratorsグループに所属しているユーザーや「コンピュータの管理者」のユーザーでログオンします。

2 起動しているアプリケーションをすべて終了する。

- ウイルス対策ソフトを含む、Windows上に常駐しているプログラムも終了します。
<例>タスクバーに表示されているアイコンを右クリックし、[閉じる]または[終了]を選択します。

ドコモ コネクションマネージャ以外の接続ソフトのご利用について

- 本ソフトには、次のソフトと同等の機能が搭載されているため、次のソフトを同時にご利用いただく必要はありません。
  必要に応じて、起動しない設定への変更やアンインストールを実施してください。
  ■ 同時利用いただく必要のないソフト
  - mopera Uかんたんスタート
  - U かんたん接続設定ソフト
  - FOMA PC設定ソフト
  - FOMAバイトカウンタ

  また、本ソフトでMzone（ドコモ公衆無線LANサービス）を利用する場合、次の公衆無線LAN接続ソフトはアンインストールを行ってください。
  ※ 次のソフトを同時にインストールした場合、本ソフトでのMzone接続はご利用いただけません。
  ■ U公衆無線LANユーティリティソフト
  ■ ドコモ公衆無線LANユーティリティソフト
  ■ ドコモ公衆無線LANユーティリティプログラム

ドコモ コネクションマネージャをインストールする

＜例＞Windows 7にインストールするとき

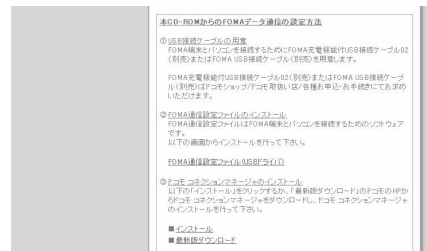
- Windows Vista、Windows XPをご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 **付属のCD-ROMをパソコンにセットする。**

- TOP画面が表示されます。

2 **[インターネット接続]▶[本CD-ROMからのFOMAデータ通信の設定方法]欄の「③ドコモ コネクションマネージャのインストール」から[インストール]をクリックする。**

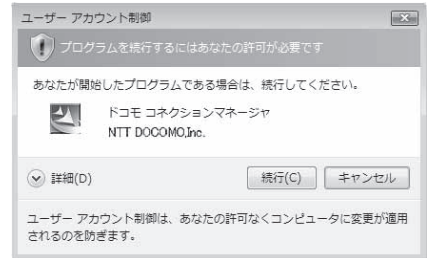
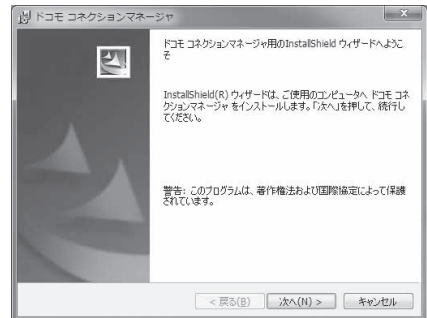
- [インストール]をクリックすると、次のような警告画面が表示される場合があります。この警告はInternet Explorerのセキュリティの設定によって表示されますが、使用には問題ありません。
  - ■「ファイルのダウンロード - セキュリティの警告」画面が表示された場合
    [実行]をクリックしてください。

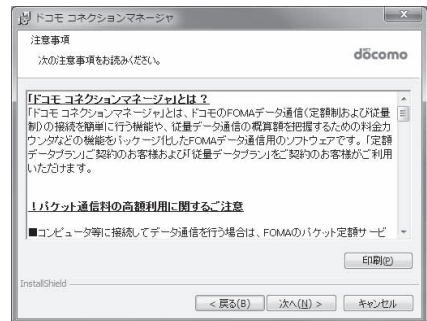
次ページへ続く▶▶

3 [はい]をクリックする。

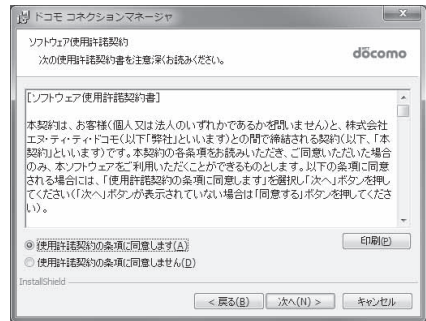
Windows Vistaの場合

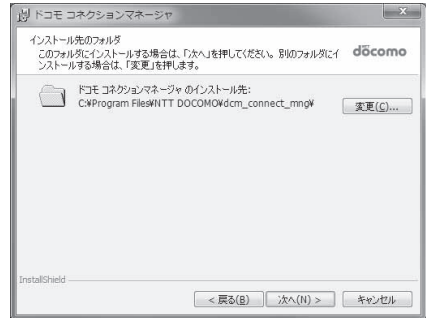
1 [続行]をクリックする。

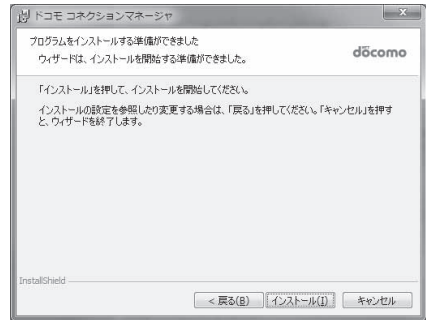
Windows XPの場合

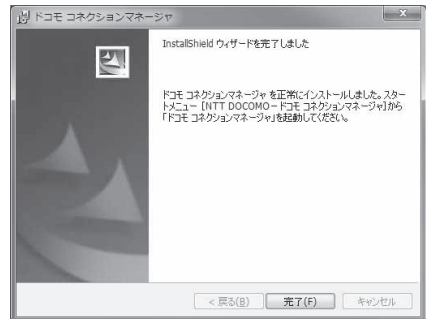
- ユーザーアカウント制御画面は表示されません。すぐにセットアッププログラムが起動します。

4 [次へ]をクリックする。

5 内容を確認の上、[次へ]をクリックする。

- 注意事項が表示されます。必ず内容をご確認ください。[キャンセル]をクリックすると、インストールは中止されます。

6 内容を確認の上、契約内容に同意する場合は[使用許諾契約の条項に同意します]を選んで[次へ]をクリックする。

- ドコモ コネクションマネージャの使用許諾契約書です。[キャンセル]をクリックすると、インストールは中止されます。

7 インストール先を確認し、[次へ]をクリックする。

- 変更する場合は[変更]をクリックし、任意のインストール先を指定して[次へ]をクリックしてください。

8 [インストール]をクリックする。

- インストールが開始されます。

9 [完了]をクリックする。

- インストールが完了します。

- Windows XPで、MSXML6・Wireless LAN APIが環境にない場合は、ドコモ コネクションマネージャをインストールする前に、それらをインストールする必要があります。確認の画面が表示されたときは[Install]をクリックして、MSXML6・Wireless LAN APIをインストールします。MSXML6・Wireless LAN APIのインストール完了後、Windowsを再起動すると、自動的にドコモ コネクションマネージャのインストールが始まります。

ドコモ コネクションマネージャを起動する

1 [スタート]メニュー▶[すべてのプログラム]▶[NTT DOCOMO]▶[ドコモ コネクションマネージャ]▶[ドコモ コネクションマネージャ]の順に選ぶ。

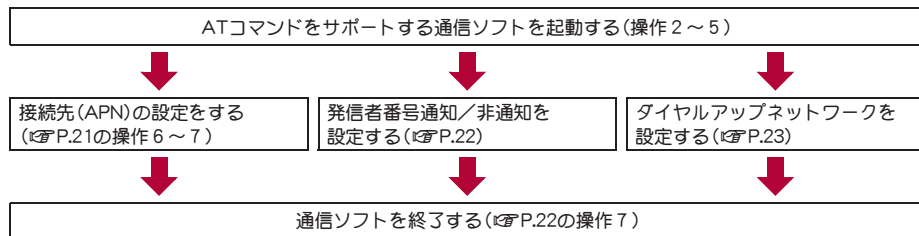
- 初回起動時には、自動的に設定ウィザードが表示されます。以降はソフトの案内に従って操作・設定することで、インターネットに接続する準備が整います。詳細については、「ドコモ コネクションマネージャ操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

- インターネットブラウザやメールソフトを終了しただけでは、通信は切断されません。
  通信をご利用にならない場合は、必ずドコモ コネクションマネージャの[切断する]ボタンで通信を切断してください。
  OSアップデートなどにおいて自動更新を設定していると自動的にソフトウェアが更新され、パケット通信料が高額となる場合がございますのでご注意ください。

ドコモ コネクションマネージャを利用しない通信の設定

パケット通信と64Kデータ通信の設定手順

ドコモ コネクションマネージャを使わずに、パケット通信／64Kデータ通信を設定する方法について説明します。
設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここでは「ハイパーターミナル」を使って説明します。

- ATコマンドで設定する操作は、次のような流れになります。
- 64Kデータ通信の場合、接続先（APN）の設定はありません。
- Windows 7、Windows Vistaは「ハイパーターミナル」が標準で搭載されていません。それぞれの対応のソフトを使って設定してください（ご使用になるソフトの使用方法に従ってください）。

- パケット通信／64Kデータ通信の設定をする前にFOMA通信設定ファイルをインストールしてください（☞P.7）。
- ATコマンドとは、モデム制御用のコマンドです。FOMA端末はATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。
- ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaをご利用になる場合、お買い上げ時に設定されているため、接続先（APN）の設定は不要です。
- 発信者番号通知の設定は必要に応じて設定してください（mopera Uまたはmoperaをご利用の場合、［通知］に設定する必要があります）。お買い上げ時は、［設定なし］に設定されています。
- その他の設定は必要に応じて設定してください。お買い上げ時のままでも利用できます。

接続先（APN）の設定

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。最大10件まで登録できます。接続先は1～10のcid（☞P.21）という番号で管理されます。お買い上げ時、cid1にはmoperaに接続するためのAPN「mopera.ne.jp」、<PDP_type>は「PPP」が、cid2にはmopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」、<PDP_type>は「PPP」が、cid3にはmopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」、<PDP_type>は「IP」が、cid4にはmopera Uに接続するためのAPN「mpr.ex-pkt.net」、<PDP_type>は「PPP」が登録されていますので、cid5～10に接続先（APN）を登録してください。

- 登録したcidはダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。
- USB接続とBluetooth接続は、それぞれ個別に接続先（APN）を設定する必要があります。
- パケット通信時にUSB接続とBluetooth接続を切り替える場合は、再度接続先（APN）を設定する必要があります。
- mopera Uまたはmopera以外の接続先（APN）については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

＜例＞Windows XPでFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）を利用する場合

1 **FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02でパソコンに接続する。**

2 **［スタート］メニュー▶［すべてのプログラム］▶［アクセサリ］▶［通信］▶［ハイパーターミナル］の順に選ぶ。**

- ハイパーターミナルが起動します。

次ページへ続く

3 [名前]に接続先名など任意の名前を入力して[OK]をクリックする。

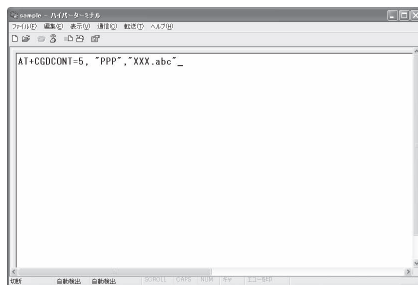
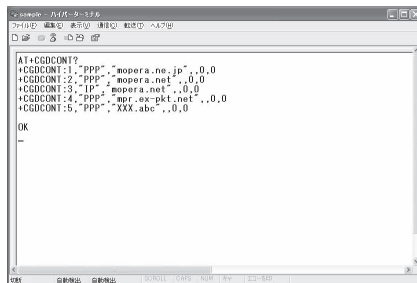
- 電話番号の詳細設定画面が表示されます。

4 [接続方法]から[FOMA SH01C]を選んで[電話番号]に実在しない電話番号([0]など)を仮入力して、[OK]をクリックする。

- 市外局番には、Windowsに設定されている値[03]などが表示されますが、接続先(APN)の設定とは関係ありませんので、任意の値を設定してください。

5 接続画面が表示されたら、[キャンセル]をクリックする。

6 接続先(APN)を入力して⏎を押す。

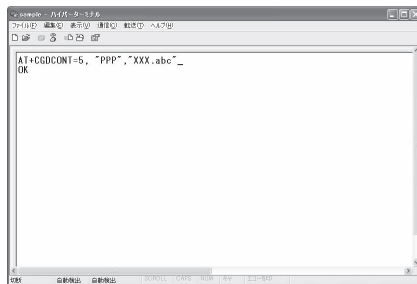
- 「AT+CGDCONT=<cid>, "<PDP_type>","APN"」の形式で入力します(☞P.35)。
  <cid>　　　　:5～10までのうち任意の番号を入力します。
  "<PDP_type>":"PPP"または"IP"と入力します。
  "APN"　　　　:接続先(APN)の名称を" "で囲んで入力します。
- [OK]と表示されると、APNの設定は完了です。
- 現在の接続先(APN)設定を確認したい場合は「AT+CGDCONT?⏎」と入力すると、接続先(APN)設定が一覧画面で表示されます。

ATコマンドを入力しても画面に何も表示されない場合

- ATE1⏎
  詳しくは、P.39を参照してください。

ATコマンドで接続先(APN)設定をリセットする場合

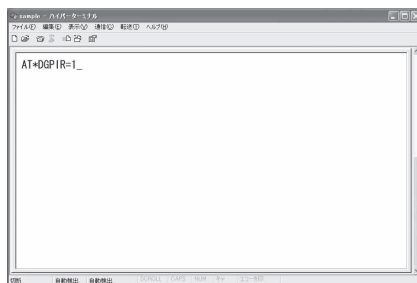
- AT+CGDCONT=⏎　　:すべてのcidをリセットします
- AT+CGDCONT=<cid>⏎ :特定のcidのみリセットします

リセットした場合、<cid>=1は「mopera.ne.jp」(初期値)、<cid>=2、3は「mopera.net」(初期値)、<cid>=4は「mpr.ex-pkt.net」(初期値)に戻り、<cid>=5～10の設定は未登録になります。

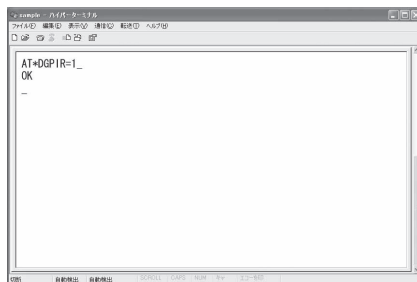
次ページへ続く▶▶

ATコマンドで接続先（APN）設定を確認する場合

- AT+CGDCONT?⏎
  詳しくは、P.35を参照してください。

7 [OK]が表示されていることを確認し、[ファイル]メニューから[ハイパーターミナルの終了]を選ぶ。

- ハイパーターミナルが終了します。
- [セッション×××を保存しますか？]と表示されますが、保存する必要はありません。

発信者番号の通知／非通知を設定する

発信者番号はお客様の大切な情報です。通知する際には十分にご注意ください。

1 P.20「接続先（APN）の設定」の操作1～5を行う。

2 パケット通信時の発信者番号の通知（186）／非通知（184）を設定する。

- 「AT*DGPIR=<n>」の形式で入力します（☞P.34）。
  AT*DGPIR=1⏎：パケット通信確立時、接続先（APN）に「184」を付けて接続します。
  AT*DGPIR=2⏎：パケット通信確立時、接続先（APN）に「186」を付けて接続します。

3 [OK]が表示されたことを確認する。

■ ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に「186」（通知）／「184」（非通知）を付けることができます。
*DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で「186」（通知）／「184」（非通知）の設定を行った場合は、次のようになります。

ダイヤルアップネットワークの設定（<cid>=1の場合）	*DGPIRコマンドによる通知／非通知設定	発信者番号の通知／非通知
*99***1#	設定なし（初期値）	通知
	非通知	非通知
	通知	通知
184*99***1#	設定なし（初期値）	非通知（ダイヤルアップネットワークの「184」が優先される）
	非通知	
	通知	
186*99***1#	設定なし（初期値）	通知（ダイヤルアップネットワークの「186」が優先される）
	非通知	
	通知	

- 「186」（通知）／「184」（非通知）を［設定なし］（初期値）に戻すには、「AT*DGPIR=0」と入力してください。
- ドコモのインターネット接続サービスmopera Uまたはmoperaをご利用になる場合は、発信者番号を［通知］に設定する必要があります。

ダイヤルアップネットワークを設定する

接続先およびTCP/IPプロトコルを設定します。設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ 接続先について

パケット通信では、あらかじめ接続先（APN）設定をしておきます。接続先（APN）設定で1～10の管理番号（cid）に接続先（APN）を登録しておけば、その管理番号を指定してパケット通信ができます。接続先（APN）設定とはパソコンでパケット通信用の電話帳を登録するようなもので、通常の電話帳と比較すると次のようになります。

電話帳の登録	パケット通信の設定
登録番号（メモリ番号）	1～10の管理番号（cid）
相手の名前	接続先の名前（接続先（APN））
相手の電話番号	*99***<cid>#

たとえば、moperaの接続先（APN）、「mopera.ne.jp」をcid1に登録している場合、「*99***1#」という接続先番号を指定すると、moperaに接続できます。他のcidに登録した場合も同様です。
*99***1#　:cid1に登録した接続先（APN）に接続します。*99#でも接続できます。
*99***2#　:cid2に登録した接続先（APN）に接続します。
　≀
*99***10#　:cid10に登録した接続先（APN）に接続します。
お買い上げ時、cid1にはmoperaに接続するためのAPN「mopera.ne.jp」、<PDP_type>は「PPP」が、cid2にはmopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」、<PDP_type>は「PPP」が、cid3にはmopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」、<PDP_type>は「IP」が、cid4にはmopera Uに接続するためのAPN「mpr.ex-pkt.net」、<PDP_type>は「PPP」が登録されています。moperaまたはmopera Uの接続先（APN）以外のインターネットサービスプロバイダや企業LANに接続する場合は、cid5～10に接続先（APN）を登録してください（☞P.21）。
64Kデータ通信では、接続先にはインターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者から指定されたアクセスポイントの電話番号を入力します。

- 設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 64Kデータ通信をご利用の場合のアクセスポイントの電話番号は、mopera Uをご利用の場合「*8701」、moperaをご利用の場合「*9601」です。
- パケット通信をご利用の場合の接続先番号は、mopera Uをご利用の場合「*99***3#」、moperaをご利用の場合「*99***1#」です（お買い上げ時）。

■ Windows 7、Windows Vistaでダイヤルアップネットワークの設定をする

Windows 7では「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先(APN)を設定します。

<例>Windows 7で、<cid>=3を使いドコモのインターネット接続サービスmopera Uへ接続する場合

- Windows Vistaをご使用のときは、画面の表示が異なります。
- mopera Uをご利用いただく場合は、お申し込みが必要(有料)となります。

1 [スタート]メニュー ▶ [コントロールパネル]をクリックする。

Windows Vistaの場合

1 [スタート]メニュー ▶ [接続先]をクリックし、操作 4 へ進む。

2 [ネットワークとインターネット]をクリックする。

3 [ネットワークと共有センター]をクリックする。

- ネットワークに接続画面が表示されます。

4 [新しい接続またはネットワークのセットアップ]をクリックする。

- ネットワークに接続画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

1 [接続またはネットワークをセットアップします]をクリックする。

5 [ダイヤルアップ接続をセットアップします] ▶ [次へ]をクリックします。

- Bluetooth接続の場合は、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]を選んでください。
- パソコンに 2 台以上のモデムが接続されている場合は、[どのモデムを使いますか?]という画面が表示されますので、[FOMA SH01C]を選んでください。
- ダイヤルアップ接続の作成画面が表示されます。

6 [ダイヤルアップの電話番号]に接続先の番号、[接続名]に任意の接続名を入力して[接続]をクリックする。

- [ダイヤルアップの電話番号]は、ここでは<cid>=3(mopera U)への接続のため、「*99***3#」を入力します。
- mopera Uまたはmoperaをご利用の場合は、[ユーザー名]と[パスワード]については空欄でも接続できます。
- mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合の[ユーザー名]と[パスワード]は、プロバイダご使用のユーザー名とパスワードを入力してください。

7 [(接続名)に接続中]と表示されたら、[スキップ]をクリックする。

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認のみを行います。
- [スキップ]をクリックしなかった場合、インターネットに接続されます。

8 [閉じる]をクリックする。

Windows Vistaの場合

1 [接続をセットアップします]をクリックし、[閉じる]をクリックする。

次ページへ続く ▶▶

9 [スタート]メニュー ▶ [コントロールパネル]をクリックする。

Windows Vistaの場合

1 [スタート]メニュー ▶ [ネットワーク]をクリックする。

2 [ネットワークと共有センター] ▶ [ネットワーク接続の管理]を順にクリックし、操作12へ進む。

10 [ネットワークとインターネット]をクリックする。

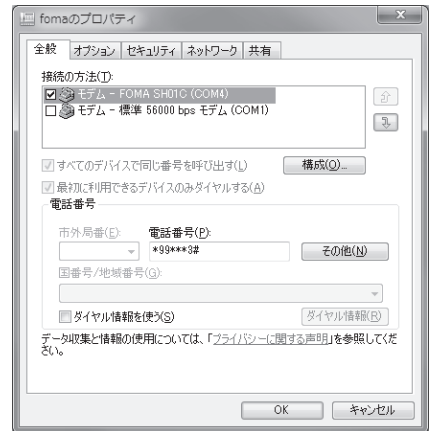
11 [ネットワークと共有センター] ▶ [タスク]の[アダプターの設定の変更]をクリックする。

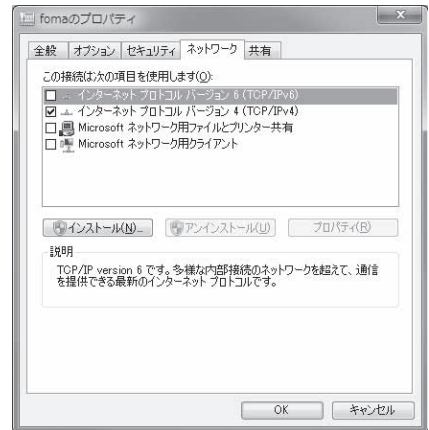
- ネットワーク接続画面が表示されます。

12 作成した接続先アイコンを選んで、右クリックで[プロパティ]を選ぶ。

- プロパティ画面が表示されます。

13 [全般]タブの各項目の設定を確認する。

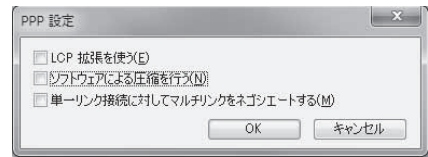
- パソコンに２台以上のモデムが接続されているとき
  - ■ FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の場合：[接続の方法]の[FOMA SH01C]が☑になっているか確認します。☐の場合は、☑にします。また、[FOMA SH01C]以外のモデムの☑を☐にします。
  - ■ Bluetooth接続の場合：[接続の方法]の[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]が☑になっているか確認します。☐の場合は、☑にします。また、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]以外のモデムの☑を☐にします。
- [ダイヤル情報を使う]が☐になっていることを確認します。☑の場合は、☐にします。

14 [ネットワーク]タブをクリックし、各項目の設定を確認する。

- [この接続は次の項目を使用します]の欄は、[インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)]のみを☑にします。[QoSパケットスケジューラ]は、ご使用のプロバイダの指示に従って設定してください。

15 [オプション]タブをクリックし、[PPP設定]をクリックする。

- PPPの設定画面が表示されます。

次ページへ続く ▶▶

16 すべての項目を□にし、[OK]をクリックする。

- オプション設定画面に戻ります。

17 [OK]をクリックする。

- 接続先とTCP/IPプロトコルが設定されます。
- ダイヤルアップ接続するにはP.28を参照してください。

■ Windows XPでダイヤルアップネットワークの設定をする

Windows XPでは「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先（APN）とTCP/IPプロトコルの両方を設定します。

＜例＞<cid>=3を使いドコモのインターネット接続サービスmopera Uへ接続する場合

● mopera Uをご利用いただく場合は、お申し込みが必要（有料）となります。

1 [スタート]メニュー ▶ [すべてのプログラム] ▶ [アクセサリ] ▶ [通信] ▶ [ネットワーク接続]をクリックする。

- ネットワーク接続画面が表示されます。

2 [ネットワークタスク]の[新しい接続を作成する]をクリックする。

- 新しい接続ウィザード画面が表示されます。

3 [次へ]をクリックする。

- ネットワーク接続の種類を選ぶ画面が表示されます。

4 [インターネットに接続する]を選んで[次へ]をクリックする。

- 準備画面が表示されます。

5 [接続を手動でセットアップする]を選んで[次へ]をクリックする。

- インターネット接続画面が表示されます。

6 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する]を選んで[次へ]をクリックする。

- デバイスの選択画面が表示されます。

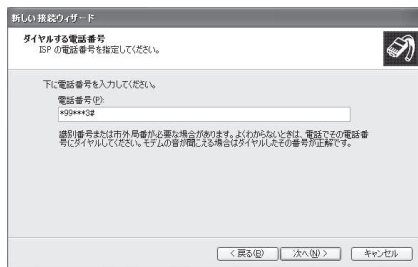
7 [モデム－FOMA SH01C（COMx）]を選んで[次へ]をクリックする。

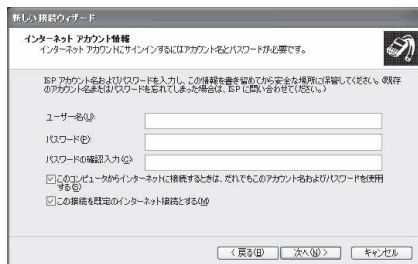
- 「x」には数字が入ります。
- 接続名画面が表示されます。
- Bluetooth接続の場合は、[（ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム）]または[（Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム）]を選んでください。
- 複数のモデムがインストールされている場合のみ、この画面が表示されます。

8 [ISP名]に任意の接続名を入力して[次へ]をクリックする。

- ダイヤルする電話番号画面が表示されます。
- [ISP名]とは、インターネットサービスプロバイダの名称です。

9 [電話番号]に接続先の番号を入力して[次へ]をクリックする。

- インターネットアカウント情報画面が表示されます。
- ここでは<cid>=3(mopera U)への接続のため、「*99***3#」を入力します。

10 各項目を画面例のように設定し、[次へ]をクリックする。

- 新しい接続ウィザードの完了画面が表示されます。
- mopera Uまたはmoperaをご利用の場合は、[ユーザー名]と[パスワード]については空欄でも接続できます。
- mopera Uまたはmopera以外のプロバイダに接続する場合の[ユーザー名]と[パスワード]は、プロバイダご使用のユーザー名とパスワードを入力してください。

11 [新しい接続ウィザードの完了]が表示されたら、[完了]をクリックする。

- 新しく作成した接続ウィザードが表示されます。

12 設定内容を確認し、[キャンセル]をクリックする。

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認のみを行います。

13 作成した接続先アイコンを選んで[ファイル]メニューの[プロパティ]を選ぶ。

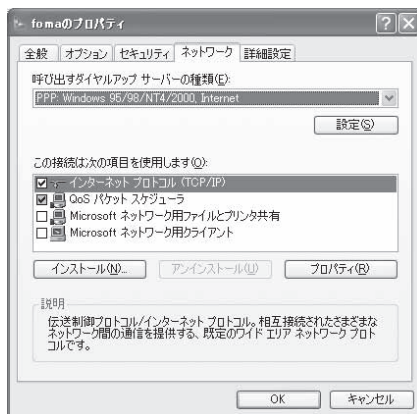
- 接続先のプロパティ画面が表示されます。

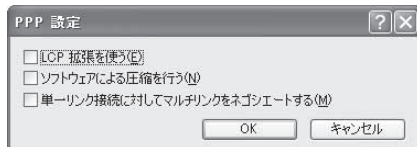
14 [全般]タブの各項目の設定を確認する。

- パソコンに2台以上のモデムが接続されているとき
  - ■ FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02の場合:[接続の方法]の[FOMA SH01C]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[FOMA SH01C]以外のモデムの☑を□にします。
  - ■ Bluetooth接続の場合:[接続の方法]の[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]が☑になっているか確認します。□の場合は、☑にします。また、[(ご使用のBluetoothリンク経由標準モデム)]または[(Bluetooth機器メーカが提供しているBluetoothモデム)]以外のモデムの☑を□にします。
- [ダイヤル情報を使う]が□になっていることを確認します。☑の場合は、□にします。

次ページへ続く

15 **[ネットワーク]タブをクリックし、各項目の設定を確認し、[設定]をクリックする。**

- [呼び出すダイヤルアップサーバーの種類]は[PPP:Windows95/98/NT4/2000, Internet]に設定します。
- [この接続は次の項目を使用します]の欄は、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のみを☑にします。[QoSパケットスケジューラ]は設定変更できませんので、そのままにしておいてください。
- PPP設定画面が表示されます。
- ISPなどに接続する場合のTCP/IP設定は、ISPまたはネットワーク管理者に確認してください。

16 **すべての項目を□にし、[OK]をクリックする。**

- 接続先のプロパティ画面に戻ります。

17 **[プロパティ]の画面で[OK]をクリックする。**

- 接続先とTCP/IPプロトコルが設定されます。
- ダイヤルアップ接続するにはP.28を参照してください。

ダイヤルアップ接続する

<例>Windows 7でFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02を利用してダイヤルアップ接続する場合

● Windows Vista、Windows XPをご使用のときは、画面の表示が異なります。

1 **FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02でパソコンに接続する。**

2 **[スタート]メニュー▶[コントロールパネル]をクリックする。**

Windows Vistaの場合

1 [スタート]メニュー▶[接続先]をクリックし、操作6へ進む。

Windows XPの場合

1 [スタート]メニュー▶[すべてのプログラム]▶[アクセサリ]▶[通信]▶[ネットワーク接続]をクリックし、操作6へ進む。

3 **[ネットワークとインターネット]をクリックする。**

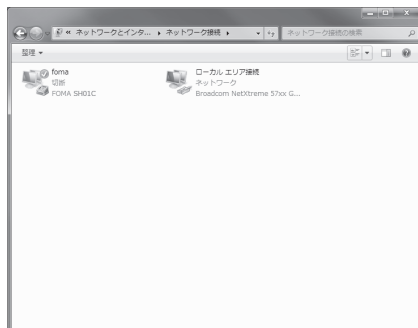
4 **[ネットワークと共有センター]をクリックする。**

5 **[タスク]の[アダプターの設定の変更]をクリックする。**

- ダイヤルアップネットワーク画面が表示されます。

次ページへ続く▶▶

6 接続先のアイコンをダブルクリックする。

- 接続画面が表示されます。
- 接続先のアイコンを選んで[ファイル]メニューの[接続]を選んでも、接続画面が表示されます。

7 各項目を確認し、[ダイヤル]をクリックする。

- 接続先へ接続されます。
- [ダイヤル]には「ダイヤルアップネットワークを設定する」(☞P.23)で設定した電話番号が表示されます。
- 接続先がmopera Uまたはmoperaの場合、[ユーザー名]と[パスワード]については空欄でも接続できます。

■ 切断するには

インターネットブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作をしてください。

1 タスクトレイの[ ] ▶ 切断先をクリックし、[切断]をクリックする。

- 接続が切断されます。

Windows Vistaの場合

1 タスクトレイの[ ] ▶ [接続または切断…]をクリックし、切断先のアイコンをダブルクリックする。

Windows XPの場合

1 タスクトレイの[ ]をクリックし、[切断]をクリックする。

データの送受信（OBEX™通信）について

FOMA端末内のデータをパソコンと送受信する

- FOMA端末は、データ通信用のプロトコルとして、OBEX™機能を持っています。FOMA端末をFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02（別売）でパソコンに接続し、本データ通信（OBEX™通信によるデータの送受信）を使って電話帳、電話番号表示の所有者情報、スケジュール、送信メール（SMS含む）、受信メール（SMS含む）、未送信メール（SMS含む）、エリアメール、メモ、メロディ、マイピクチャ、ｉモーション、マイドキュメント、ブックマーク、トルカ、デコメアニメ®テンプレート、現在地通知先、設定情報のデータを送受信できます。
- FOMA端末では、次の３通りのデータ送信が可能です。
  - ■ パソコンからFOMA端末にデータを１件ずつ送信する（１件書き込み）
  - ■ パソコンからFOMA端末にデータを一括して送信する（全件書き込み）
  - ■ FOMA端末からパソコンにデータを一括して送信する（全件読み出し）
- データの送受信中は圏外となり、音声電話やテレビ電話、ｉモードやｉモードメール、パケット通信などはできません。
- データの送受信終了後、しばらく[圏外]と表示される場合があります。

- FOMA端末とパソコンが正しく接続されているか十分に確認してください。正しく接続されていない場合、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。
- FOMA端末の電池残量が十分残っていることを確認してください。電池残量がほとんど残っていない状態や電池切れの状態では、データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。データの送受信中は、卓上ホルダでFOMA端末を充電することをおすすめします。
- パソコンの電源についても確認してください。データの送受信ができないだけでなく、データが失われることがあります。
- 待受画面の状態でデータ通信を行ってください。待受画面に動画／ｉモーションを設定している場合は、動画／ｉモーションの再生を停止してからデータ通信を行ってください。
- 通信中（音声通話やテレビ電話、データ通信）にデータの送受信はできません。また、データの送受信中には他の通信もできません。ただし、データの送受信開始直後などは着信を受ける場合があります。その場合、データの送受信が中止されます。
- ドコモUIMカード内の電話帳は送信できません。
- ｉアプリの起動指定が貼り付けられているメールは、貼り付けられているデータを削除して送信されます。
- 本文と合わせて100Kバイトを超えるメールの添付データは削除して送信されます。
- オールロックまたはパーソナルデータロックが設定されている場合、電話帳などのデータの送受信はできません。
- ダイヤル発信制限が設定されている場合、電話帳のデータは送受信できません。
- データの大きさによっては、送受信に時間がかかる場合があります。また、データの大きさによってはFOMA端末で受信できない場合があります。
- 電話帳のデータを受信する場合、１件受信のときは、メモリ番号[0010]から、全件受信のときは、メモリ番号の情報に従って登録します。
- 電話帳を全件受信すると、電話番号表示に登録されているプロフィール（１件目の電話番号を除く）も上書きされます。
- 電話帳はメモリ番号順に送信されます。
- 全件送信を行うと電話番号表示のプロフィールは電話帳と一緒に送信されます。
- ２Mバイトを超えるPDFは送信できません。
- データの送受信（OBEX）は次の方法で行うこともできます（機能によっては送受信できないデータがあります）。
  - ■ 赤外線通信　■ ｉC通信　■ microSDカード　■ Bluetooth通信

■ データの送受信（OBEX™通信）に必要な機器

- データの送受信を行うには、OBEX™規格に準拠したデータ転送用のソフトをインターネットからダウンロードし、パソコンにインストールする必要があります。データ転送用のソフトの動作環境、インストール方法については、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。また、あらかじめFOMA通信設定ファイルのインストール（☞P.7～P.9）が必要です。
- FOMA端末とパソコンの接続には、FOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02が必要です。

- FOMA端末のデータの送受信（OBEX™通信）機能は、IrMC™ 1.1規格に準拠しています。ただし、相手機器がIrMC™ 1.1規格に準拠していてもアプリケーションによっては送受信できないデータがあります。

データを１件送信する（１件書き込み）

- パソコンからFOMA端末へデータを１件ずつ送信します。
- FOMA端末からパソコンへ１件ずつ送信することはできません。
- データ送信の操作方法は、データ転送用のソフトによって異なります。詳しくは、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンからデータ転送用のソフトを使ってデータ送信（１件書き込み）の操作を行う。

- データ送信のしかたについては、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。

- 電話帳のデータを１件ずつ受信するとき（パソコンからFOMA端末へ送信するとき）は電話帳のメモリ番号[0010]～[1999]の空いているメモリ番号の中で最も若いメモリ番号に登録されます。[0010]～[1999]がすべて登録されているときは、[0000]～[0009]の空いているメモリ番号の中で最も若いメモリ番号に登録されます。
- 電話帳のデータを受信した場合、すでに名前や電話番号またはメールアドレスが2000件登録されているときや2000件を超えるときは、登録できないことを通知するメッセージが表示されます。

データを全件送信する（全件書き込み／全件読み出し）

- パソコンとFOMA端末の間で一括書き込みと一括読み出しができます。
- 「全件書き込み」あるいは「全件読み出し」の操作では、データ転送用のソフトとFOMA端末の両方で認証パスワードを入力する必要があります。
- データ送信の操作方法は、データ転送用のソフトによって異なります。詳しくは、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンからデータ転送用のソフトを使ってデータ送信（全件転送）の操作を行う。

- データ送信のしかたについては、データ転送用のソフトの取扱説明書を参照してください。
- パソコン側でも認証パスワードの入力が必要です。
- 認証パスワードは４桁の数字を入力してください。

2 FOMA端末で、端末暗証番号（４～８桁の数字）と認証パスワード（４桁の数字）を入力する。

3 データ送信を開始する。

- パソコンからFOMA端末への全件書き込みを行うとFOMA端末のデータはすべて書換えられます。元のFOMA端末のデータは消去されますので、ご注意ください。シークレット登録した電話帳、スケジュール、保護されたメールを含みます。ただし、データBOXの画像やｉモーション、メロディ、PDF、またはデコメアニメ®テンプレートの場合、元のデータは削除されずに追加保存されます。
- パソコンからFOMA端末への全件書き込みの途中で送信エラーが起こると、送信中のFOMA端末のすべてのデータが消去されることがあります。全件書き込みの前にケーブルの接続、FOMA端末の電池残量、パソコンの電源の状態を確認してください。データの送信中は、卓上ホルダでFOMA端末を充電することをおすすめします。
- 相手の機器によっては、通信状況（バー表示）が表示されないことがあります。

ATコマンド一覧

ATコマンドについて

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の各機能を設定するためのコマンド（命令）です。パソコンでコマンドを入力すると、その内容に従ってFOMA端末が動作します。

■ ATコマンドの入力形式

ATコマンドは、コマンドの先頭に必ずATを付けて入力します。必ず半角英数字で入力してください。

入力例

ATコマンドはコマンドに続くパラメータ（数字や記号）を含めて、必ず1行で入力します。1行とは最初の文字から↵を押した直前までの文字のことで、160文字（AT含む）まで入力できます。

■ ATコマンドの入力モード

ATコマンドでFOMA端末を操作するには、パソコンをターミナルモードにしてください。ターミナルモードにすると、キーボードから入力された文字がそのまま通信ポートに送られ、FOMA端末を操作できます。

- オフラインモード
  FOMA端末が待受の状態です。通常ATコマンドでFOMA端末を操作する場合は、この状態で操作を行います。
- オンラインデータモード
  FOMA端末が通信中の状態です。この状態のときにATコマンドを入力すると、送られてきた文字をそのまま通信先に送信して、通信先のモデムを誤動作させることがあります。通信中はATコマンドを入力しないでください。
- オンラインコマンドモード
  FOMA端末が通信中の状態でも、特別な操作をすると、ATコマンドでFOMA端末を操作できる状態になります。その場合、通信先との接続を維持したままATコマンドを実行し、終了すると再び通信を続けられます。

- 外部機器から64Kデータ通信で発信を行った場合、2in1のモードが[Aモード]／[デュアルモード]のときはAナンバーで発信します。[Bモード]のときはBナンバーで発信します。ただし、[デュアルモード]設定時のATコマンドによるリダイヤル発信を行った場合は、最後に発信したナンバーでリダイヤル発信します。
- ターミナルモードとは、パソコンを1台の通信端末（ターミナル）のように動作させるモードです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている機器や回線に送られます。

■ オンラインデータモードとオンラインコマンドモードを切り替える

FOMA端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えるには、次の方法があります。

- +++コマンドまたはS2レジスタに設定したコードを入力します。
- AT&D1に設定されているときに、RS-232C※のER信号をOFFにします。

また、オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替えるには、ATO↵と入力します。

※ USBインターフェースにより、RS-232Cの信号線がエミュレートされていますので、通信アプリケーションによるRS-232Cの信号線制御が有効になります。

ATコマンド一覧

[M]:FOMA SH01C Modem Portで使用できるATコマンドです。

ATコマンド	概　要	パラメータ/説明	コマンド実行例
AT [M]	—	本コマンドのあとに本一覧表のコマンドを付加することでFOMA端末のモデム機能を制御することができます。 ※ ATのみ入力した場合でもOKが応答されます。	AT↵ OK
AT%V [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。※2	—	AT%V↵ Ver1.00 OK
AT&C<n> [M]	DTEへの回路CD(DCD)信号の動作条件を設定します。※1	n=0 :回路CDを常にON n=1 :回路CD信号は回線接続状態に従って変化(お買い上げ時) &C1に設定する場合は、接続完了時のCONNECTを送出する直前にCD信号を「ON」にします。回路が切断され、“NO CARRIER”を送出する直前にCD信号を「OFF」にします。	AT&C1↵ OK
AT&D<n> [M]	オンラインデータモードのときに、DTEから受け取る回路ER(DTR)信号が「ON」から「OFF」に変わったときの動作を設定します。※1	n=0 :状態を無視(常にONとみなす) n=1 :ONからOFFに変わるとオンラインコマンドモード状態になる n=2 :ONからOFFに変わると回線を切断しオフラインモード状態になる(お買い上げ時)	AT&D1↵ OK
AT&E<n> [M]	接続時の速度表示仕様を選択します。※1	n=0 :無線区間通信速度を表示 n=1 :DTEシリアル通信速度を表示(お買い上げ時)	AT&E0↵ OK
AT&F<n> [M]	FOMA端末のATコマンド設定値をお買い上げ時の状態にリセットします。通信中に本コマンドを入力した場合は、回線を切断してからリセットします。※2	n=0のみ指定可能(省略可)	AT&F↵ OK
AT&S<n> [M]	DTEへ出力するデータセットレディ(DR)信号の制御のしかたを設定します。※1	n=0 :常時ON(お買い上げ時) n=1 :回線接続時にDR信号ON	AT&S0↵ OK
AT&W<n> [M]	現在の設定値をFOMA端末に記憶します。※2、※5	n=0のみ指定可能(省略可)	AT&W↵ OK
AT*DANTE [M]	FOMA端末の電波の受信状態を表示します。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 *DANTE:<m> <m> 0 :FOMA端末にて圏外と表示される状態 1 :FOMA端末にてアンテナ本数0本もしくは1本の状態 2 :FOMA端末にてアンテナ本数2本の状態 3 :FOMA端末にてアンテナ本数3本の状態	AT*DANTE↵ *DANTE:3 OK
AT*DGANSM=<n> [M]	パケット着信呼に対する着信拒否/許可設定のモードを設定します。本コマンドの設定は、設定コマンド入力後のパケット通信着信呼のみ有効です。※2	n=0 :着信拒否設定および着信許可設定を[OFF]に設定(お買い上げ時) n=1 :着信拒否設定を[ON]に設定 n=2 :着信許可設定を[ON]に設定	AT*DGANSM=0↵ OK AT*DGANSM?↵ *DGANSM:0 OK

次ページへ続く

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT*DGAPL=<n> [,<cid>] [M]	パケット着信呼に対して着信を許可する接続先（APN）を設定します。APN設定は「+CGDCONT」で定義された<cid>パラメータを使用します。※2	<n>パラメータによって着信許可リストへの追加および削除を指定し、<cid>パラメータを省略した場合は、<cid>のすべてをリストに追加（<n>=0）あるいは削除（<n>=1）します。本コマンドで追加（削除）しようとする<cid>が「+CGDCONT」コマンドで定義されていない場合でも、リストへ追加（削除）できます。 n=0 ：リストへ追加（<cid>で定義されたAPNを着信許可リストに追加） n=1 ：リストから削除（<cid>で定義されたAPNを着信許可リストから削除）	AT*DGAPL=0,1↵ OK AT*DGAPL?↵ *DGAPL:1 OK
AT*DGARL=<n> [,<cid>] [M]	パケット着信呼に対して着信を拒否する接続先（APN）を設定します。APN設定は「+CGDCONT」で定義された<cid>パラメータを使用します。※2	<n>パラメータによって着信拒否リストへの追加および削除を指定し、<cid>パラメータを省略した場合は、<cid>のすべてをリストに追加（<n>=0）あるいは削除（<n>=1）します。本コマンドで追加（削除）しようとする<cid>が「+CGDCONT」コマンドで定義されていない場合でも、リストへ追加（削除）できます。 n=0 ：リストへ追加（<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストに追加） n=1 ：リストから削除（<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストより削除）	AT*DGARL=0,1↵ OK AT*DGARL?↵ *DGARL:1 OK
AT*DRPW [M]	FOMA端末から通知される受信電力値を表示します。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 *DRPW:<m> m：0～75（受信電力の値）	AT*DRPW↵ *DRPW:0 OK
AT*DGPIR=<n> [M]	本コマンドの設定は、発信時に有効です。ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に186（通知）／184（非通知）を付けることができます。※2	n=0 ：パケット通信確立時、接続先（APN）にそのまま接続（お買い上げ時） n=1 ：パケット通信確立時、接続先（APN）に184を付けて接続 n=2 ：パケット通信確立時、接続先（APN）に186を付けて接続 本コマンドとダイヤルアップネットワークの両方で186（通知）／184（非通知）を設定した場合については、P.23「ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について」を参照してください。	AT*DGPIR=0↵ OK AT*DGPIR?↵ *DGPIR:0 OK
+++ [M]	FOMA端末のモードをオンラインデータモードからオンラインコマンドモードへ移行します。 エスケープガード区間は、1秒の固定値です。※2	―	（通信中） +++（表示は見えない） OK
AT+CACM=[<passwd>] [M]	UIMに記録される累積課金値をリセットします。※2	本コマンドで、パスワードが一致した場合は、UIMに記録される累積課金値をリセットします。 <passwd>：SIM PIN2 ※ ストリングパラメータであり、入力時は "で囲みます。	AT+CACM="0123"↵ OK
AT+CAOC=[<mode>] [M]	現在の課金値の問い合わせを行います。※2	<mode> 0 ：現在の呼の課金を問い合わせる 本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 +CAOC:"<ccm>"	AT+CAOC↵ +CAOC:"00001E" OK

次ページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CBC [M]	バッテリー状態の問い合わせを行います。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 +CBC:<bcs>,<bcl> <bcs> 0 ：バッテリーによりFOMA端末が動作している状態 1 ：充電中 2 ：バッテリー未接続状態 3 ：減電中 <bcl> 0～100（バッテリー残量）	AT+CBC↵ +CBC:0,80 OK
AT+CBST=[<speed>[,<name>[,<ce>]]] [M]	発信時のベアラサービスの設定を行います。AT+FCLASS=<n>コマンド（☞P.38）が0のときのみ有効です。※1	<speed> 116：64Kデータ通信（お買い上げ時） <name> 1 ：固定値 <ce> 0 ：固定値	AT+CBST=116,1,0↵ OK
AT+CEER [M]	直前の通信の切断理由を表示します。※2	「切断理由一覧」を参照（☞P.42）。	AT+CEER↵ +CEER:36 OK
AT+CGDCONT [M]	パケット発信時の接続先（APN）を設定します。※2	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.42）。	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.42）。
AT+CGEQMIN [M]	パケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。※2	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.43）。	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.43）。
AT+CGEQREQ [M]	パケット通信時の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。※2	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.44）。	「ATコマンドの補足説明」を参照（☞P.44）。
AT+CGMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。※2	—	AT+CGMR↵ 1234567890123456 OK
AT+CGREG=<n> [M]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。通知されている内容は圏内／圏外です。※1	<n> 0 ：設定しない（お買い上げ時） 1 ：設定する AT+CGREG=1に設定すると、“+CGREG:<stat>”の形式で通知されます。<stat>パラメータは、0,1,4,5をサポートします。 <stat> 0 ：圏外 1 ：圏内（home） 4 ：不明 5 ：圏内（visitor）	AT+CGREG=1↵ OK （通知ありに設定） AT+CGREG?↵ +CGREG:1,0 OK （圏外を意味している） +CGREG:1 （圏外から圏内に移動した場合）
AT+CGSN [M]	FOMA端末の製造番号を表示します。※2	—	AT+CGSN↵ 123456789012345 OK

次ページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CLIP=<n> [M]	64Kデータ通信の着信時に、相手の発信番号をパソコンに表示できます。※1	<n> 0：リザルトを出さない（お買い上げ時） 1：リザルトを出す 「AT+CLIP?」のとき、+CLIP:<n>,<m>を表示します。 <m> 0：発信時に相手に番号を通知しないNW設定 1：発信時に相手に番号を通知するNW設定 2：不明	AT+CLIP=0↵ OK AT+CLIP?↵ +CLIP:0,1 OK
AT+CLIR=<n> [M]	64Kデータ通信の発信時に、電話番号を相手側に通知するかどうかを設定します。※2	<n> 0：サービスご契約の設定どおり 1：通知しない 2：通知する（お買い上げ時） AT+CLIR?のとき、+CLIR:<n>,<m>を表示します。 <m> 0：CLIRは起動していない（常時通知） 1：CLIRは常時起動している（常時非通知） 2：不明 3：CLIRテンポラリ・モード（非通知デフォルト） 4：CLIRテンポラリ・モード（通知デフォルト）	AT+CLIR=0↵ OK AT+CLIR?↵ +CLIR:2,3 OK
AT+CDIP=<n> [M]	着サブアドレスの通知の有無を設定します。また、マルチナンバー契約状況を確認できます。	<n> 0：サブアドレスを表示しない（お買い上げ時） 1：サブアドレスを表示する <m> 0：マルチナンバー未契約 1：マルチナンバー契約中 2：不明	AT+CDIP=0↵ OK AT+CDIP?↵ +CDIP:0,1 OK
AT+CMEE=<n> [M]	FOMA端末のエラーレポートの有無を設定します。※1	エラーを“ERROR”のみで表示するか、理由を文字あるいは数値でレポートするかを設定します。 <n> 0：リザルトコードを使用せずに“ERROR”を表示（お買い上げ時） 1：リザルトコードを使用し、数字で理由を表示 2：リザルトコードを使用し、文字で理由を表示 「n=1」または「n=2」でエラーレポート表示に設定した場合、エラーレポートは次のように表示されます。 +CME ERROR:xxxx xxxxには数字または文字が表示されます。 「エラーレポート一覧」（☞P.42）	AT+CMEE=0↵ OK AT+CNUM↵ ERROR AT+CMEE=1↵ OK AT+CNUM↵ +CME ERROR:10
AT+CNUM [M]	FOMA端末の自局番号を表示します。※2	number：電話番号 type　：129もしくは145 129：国際アクセスコード+を含まない 145：国際アクセスコード+を含む	AT+CNUM↵ +CNUM:,"+819012345678",145 OK

次ページへ続く▶▶

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+COPS=[<mode>[,<format>[,<oper>]]] [M]	接続する通信事業者を選択します。※2	<mode> 0：オート（自動的にネットワークを検索して通信事業者を切り替える） 1：マニュアル（<oper>に指定された通信事業者に接続する） 2：通信事業者との接続を解除（切断）する ※ 非サポートとなります。 3：マッピングを行わない 4：マニュアルオート（<oper>に指定された通信事業者に接続できなかった場合に「オート」の処理を行う） ※ 非サポートとなります。 <format> 2：固定値 <oper>は国番号（MCC）とネットワーク番号（MNC）からなる16進数の値で示します。 書式は次のとおり。 Digit 1 of MCC…octet 1 bits 1 to 4. Digit 2 of MCC…octet 1 bits 5 to 8. Digit 3 of MCC…octet 2 bits 1 to 4. Digit 3 of MNC…octet 2 bits 5 to 8. Digit 2 of MNC…octet 3 bits 5 to 8. Digit 1 of MNC…octet 3 bits 1 to 4.	AT+COPS=1,2,"44F001"↵ OK （MCC:440MNC:10に接続）
AT+CPAS [M]	FOMA端末のアクティビティー状態問い合わせを行います。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 +CPAS:<pas> <pas> 0：ATコマンド送受信可能 1：ATコマンド送受信不可能（+CPAS: 1のリザルトを送出しない） 2：不明 3：ATコマンド送受信可能かつ着信中 4：ATコマンド送受信可能かつ通信中	AT+CPAS↵ +CPAS:0 OK
AT+CPIN=<pin>[,<newpin>] [M]	UIMに関するパスワード（PIN1,PIN2）の入力を行います。※2	<pin> PIN1入力待ち状態ではPIN1を入力（<pin>パラメータのみ入力） PIN2入力待ち状態ではPIN2を入力（<pin>パラメータのみ入力） PUK1入力待ち状態ではPUK1を入力 PUK2入力待ち状態ではPUK2を入力 ※ ストリングパラメータであり、入力時は" "で囲みます <newpin> PUK1入力待ち状態では新しいPIN1を入力 PUK2入力待ち状態では新しいPIN2を入力 ※ ストリングパラメータであり、入力時は" "で囲みます	AT+CPIN?↵ +CPIN:SIM PIN1 OK （PIN1入力待ち状態を表している） AT+CPIN="1234"↵ OK AT+CPIN?↵ +CPIN:SIM PUK1 OK （PUK1入力待ち状態を表している） AT+CPIN="12345678","1234"↵ OK
AT+CR=<mode> [M]	回線接続時に“CONNECT”のリザルトコードが表示される前に、パケット通信／64Kデータ通信を表示するかどうかを設定します。※1 パケット通信のときは、“GPRS”と表示され64Kデータ通信のときは“SYNC”と表示されます。	<mode> 0：回線接続時に表示しない（お買い上げ時） 1：回線接続時に表示する	AT+CR=1↵ OK ATD*99***1# +CR:GPRS CONNECT

次ページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CRC=<n> [M]	着信時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを設定します。※1	n=0：拡張リザルトコードを使用しない（お買い上げ時） n=1：拡張リザルトコードを使用する	AT+CRC=0⏎ OK
AT+CREG=<n> [M]	ネットワークの圏内／圏外情報を表示するかどうかを設定します。※1	AT+CREG=1に設定すると、“+CREG:<stat>”の形式で通知されます。<stat>パラメータは0,1,4,5をサポートします。 <n> 0：通知なし（お買い上げ時） 1：通知あり <stat> 0：圏外 1：圏内（home） 4：不明 5：圏内（visitor）	AT+CREG=1⏎ OK （通知ありに設定） AT+CREG?⏎ +CREG:1,0 OK （圏外を意味している） +CREG:1 （圏外から圏内に移動した場合）
AT+CUSD=[<n>[,<str>[,<dcs>]]] [M]	付加サービスなどに関し、網側の設定を変更します。※1	<n> 0：中間リザルトを応答せず、OKを応答する（お買い上げ時） 1：中間リザルトを応答する <str> サービスコード ※ 詳しくは『ご利用ガイドブック（ネットワークサービス編）』をご覧ください。 <dcs> 0：固定値	AT+CUSD=0,"xxxxxx"⏎ OK
AT+FCLASS=<n> [M]	モード設定を行います。※1	<n> 0：データ（固定値）	AT+FCLASS=0⏎ OK
AT+GCAP [M]	FOMA端末の能力リストを表示します。※2	—	AT+GCAP⏎ +GCAP:+CGSM,+FCLASS,+W OK
AT+GMI [M]	FOMA端末のメーカの名前が半角英数字で表示されます。※2	—	AT+GMI⏎ SHARP OK
AT+GMM [M]	FOMA端末の製品名の略称（FOMA SH01C）がアルファベットおよび数字で表示されます。※2	—	AT+GMM⏎ FOMA SH01C OK
AT+GMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。※2	—	AT+GMR⏎ Ver1.00 OK
AT+IFC=<n,m> [M]	パソコンとFOMA端末間のローカルフロー制御方式を設定します。※1	DCE by DTE（<n>） 0：フロー制御を行わない 1：XON/XOFFフロー制御を行う 2：RS/CS（RTS/CTS）フロー制御を行う（お買い上げ時） DTE by DCE（<m>） 0：フロー制御を行わない 1：XON/XOFFフロー制御を行う 2：RS/CS（RTS/CTS）フロー制御を行う（お買い上げ時）	AT+IFC=2,2⏎ OK
AT+WS46? [M]	海外ネットワークサーチの3G／GSM切替設定に従い、応答を行います。※2	本コマンドにより応答されるリザルトは次の書式とします。 <n> 12：GSM／GPRSモード設定時 22：3Gモード設定時 25：自動モード設定時	AT+WS46?⏎ 25 OK （自動モード設定時）

次ページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
A/ [M]	直前に実行したコマンドを再実行するときに使用します。※2	—	A/ OK
ATA [M]	パケット着信および64Kデータ通信の着信時に入力すると、着信処理を行います。※2	パケット着信中には、「ATA184↵」(発信者番号通知なし着信動作)および「ATA186↵」(発信者番号通知あり着信動作)を入力できます。	RING ATA↵ CONNECT
ATD [M]	発信処理を行います。※2、※3	● パケット通信ATD*99***<cid>#↵ ATD*99#を入力した場合： <cid>=1(お買い上げ時)を用います(<cid>の入力を省略した場合は、<cid>=1になります)。 ATD184*99***<cid>#で始まる書式を入力した場合： 指定した<cid>に規定した接続先(APN)に対して“184”が付加されます(発信者番号通知ありの“186”でも同様の操作ができます)。 ● 64Kデータ通信ATD[パラメータ][電話番号]↵ 相手側の電話番号に、0～9、*、#、+、A、a、B、b、C、c、D、d、-(ハイフン)、スペース、T、t、P、p、!、W、w、@、,(カンマ)以外を設定した場合は、発信できません。　　の文字は入力可能ですが、ダイヤル時には認識されません。	ATD*99***1#↵ CONNECT
ATE<n> [M]	パソコンから送信された本コマンドに対して、FOMA端末がエコーを返すかどうかを設定します。※1	n=0：エコーバックなし n=1：エコーバックあり(お買い上げ時) 通常はn=1で使用します。パソコンにエコー機能がある場合、n=0に設定してください。	ATE1↵ OK
ATH [M]	パケット通信および64Kデータ通信時に入力すると、回線を切断します。※2	—	(通信中) +++(表示は見えない) OK ATH↵ NO CARRIER
ATI<n> [M]	確認コードを表示します。※2	n=0：NTT DoCoMo n=1：製品名の略称を表示(FOMA SH01C) n=2：製品のバージョンを“VerX.XX”などの形式で表示 n=3：ACMP信号の各要素を表示 n=4：FOMA端末の有する通信機能の詳細を表示	ATI0↵ NTT DoCoMo OK
ATO [M]	通信中にオンラインコマンドモードからオンラインデータモードに戻ります。※2	—	ATO↵ CONNECT
ATQ<n> [M]	リザルトコードを表示するかどうかを設定します。※1	n=0：リザルトコードを表示する(お買い上げ時) n=1：リザルトコードを表示しない	ATQ0↵ OK
ATV<n> [M]	リザルトコードの表示方法を設定します。※1	すべてのリザルトコードを数字表記あるいは英文字表記で表示します。 n=0：リザルトコードを数字表記で表示 n=1：リザルトコードを英文字表記で表示(お買い上げ時)	ATV1↵ OK

次ページへ続く

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATX<n> [M]	接続のCONNECT表示に速度表示の有無を設定します。また、ビジートーン、ダイヤルトーンの検出を行います。※1	ビジートーン検出： 接続先が通話中のとき、BUSY応答を送出します。 ダイヤルトーン検出： FOMA端末に接続されているかどうかを判定します。 速度表示： 接続時のCONNECT表示に速度を表示するかどうかを設定します。 n=0：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、速度表示なし n=1：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、速度表示あり n=2：ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり、速度表示あり n=3：ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし、速度表示あり n=4：ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出あり、速度表示あり（お買い上げ時）	ATX1↵ OK
ATZ<n> [M]	FOMA端末のATコマンド設定値をリセットします。※2、※4	FOMA端末のATコマンド設定値を不揮発メモリの内容にリセットします。通信中に本コマンドを入力した場合は、回線を切断してからリセットします。 n=0のみ指定可能（省略可）	（オンライン時） ATZ↵ NO CARRIER （オフライン時） ATZ↵ OK
ATS0=<n> [M]	FOMA端末が自動着信するまでの呼び出し回数を設定します。※1	n=0：自動着信しない（お買い上げ時） n=1～255　：指定したリング数で自動着信する	ATS0=0↵ OK
ATS2=<n> [M]	エスケープキャラクタの設定を行います。	n=0～127（お買い上げ時n=43） n=127に設定するとエスケープは無効になります。	ATS2=43↵ OK ATS2?↵ 043 OK
ATS3=<n> [M]	復帰（CR）キャラクタの設定を行います。	ATコマンド文字列の最後を認識するキャラクタを定義します。エコーバックされたコマンド文字列とリザルトコードの最後に付きます。設定値は変更できません（お買い上げ時n=13）。	ATS3=13↵ OK ATS3?↵ 013 OK
ATS4=<n> [M]	改行（LF）キャラクタの設定を行います。	英文でリザルトコードを表示する場合、CRキャラクタの後ろに付きます。設定値は変更できません（お買い上げ時n=10）。	ATS4=10↵ OK ATS4?↵ 010 OK
ATS5=<n> [M]	バックスペース（BS）キャラクタの設定を行います。	ATコマンド入力中にこのキャラクタを検出すると、入力バッファの最後のキャラクタを削除します。設定値は変更できません（お買い上げ時n=8）。	ATS5=8↵ OK ATS5?↵ 008 OK
ATS6=<n> [M]	ダイヤルするまでのポーズ時間（秒）を設定します。	本コマンドによりレジスタは設定されますが、動作しません。 n：2～10（お買い上げ時n=5）	ATS6=10↵ OK
ATS8=<n> [M]	カンマダイヤルするまでのポーズ時間（秒）を設定します。	本コマンドによりレジスタは設定されますが、ポーズ時間（3秒）に影響しません。 n=0：ポーズしない n：1～255（お買い上げ時n=3）	ATS8=3↵ OK
ATS10=<n> [M]	自動切断の遅延時間（秒）を設定します（1/10秒）。※1	本コマンドによりレジスタは設定されますが、動作しません。 n：1～255（お買い上げ時n=1）	ATS10=1↵ OK

次ページへ続く▶▶

ATコマンド	概 要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATS30=<n> [M]	データの送受信をこの時間以上行わないと切断します。	本コマンドの設定は、64Kデータ通信時のみ有効です。<n>は分単位で設定します。 n ：0～255（お買い上げ時n=0） n=0は不活動タイマオフ	ATS30=3↵ OK
ATS103=<n> [M]	着サブアドレスを付けて発信する場合の区切りを設定します。	本コマンドの設定は、64Kデータ通信時のみ有効です。 n=0 ：*アスタリスク n=1 ：/スラッシュ（お買い上げ時） n=2 ：¥マークあるいはバックスラッシュ	ATS103=0↵ OK
ATS104=<n> [M]	発サブアドレスを付けて発信する場合の区切りを設定します。	本コマンドの設定は、64Kデータ通信時のみ有効です。 n=0 ：#シャープ n=1 ：%パーセント（お買い上げ時） n=2 ：&アンド	ATS104=0↵ OK
AT¥S [M]	現在の設定されている各コマンドとSレジスタの内容を表示します。※2	—	AT¥S↵ E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 &S0 &E1 ¥V0 S000=000 S002=043 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 S030=000 S103=001 S104=001 OK
AT¥V<n> [M]	接続時の応答コード仕様を選択します。※1	本コマンドは、ATX<n>コマンド（☞P.40）がn=0以外のときのみ有効です。 n=0 ：拡張リザルトコードを使用しない（お買い上げ時） n=1 ：拡張リザルトコードを使用する	AT¥V1↵ OK

※1 AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されます。
※2 AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されません。AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。
※3 ATDN↵やATDL↵でリダイヤル発信ができます。
※4 AT&Wコマンドを使用する前にATZコマンドを実行すると、最後に記憶した状態に戻り、それまでの変更内容は消去されます。
※5 AT&WコマンドでFOMA端末に記憶された設定値は、電源を切ると不揮発データとしてFOMA端末に格納されます。

切断理由一覧

■ パケット通信

値	理　由
27	接続先(APN)が存在しないか、もしくは正しくありません。
30	ネットワークによって切断されました。
33	パケット通信の契約がされていません。
36	正常に切断されました。

■ 64Kデータ通信

値	理　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手側が呼び出し中のため通信ができません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない伝達能力を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信したか、もしくは着信を受けました。

エラーレポート一覧

数字表示	文字表示	理　由
10	SIM not inserted	ドコモUIMカードがセットされていません。
15	SIM wrong	ドコモ以外のSIM(ドコモUIMカードに相当するＩＣカード)が挿入されています。
16	incorrect password	パスワードが間違っています。
100	unknown	不明なエラーです。

ATコマンドの補足説明

■ コマンド名:+CGDCONT=[パラメータ]

概要

パケット発信時の接続先(APN)の設定を行います。
AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されません。AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。

書式

+CGDCONT=[<cid>[,"<PDP_type>"[,"<APN>"]]]↵

パラメータ説明

<cid>*　：1～10
<PDP_type>*　：PPPまたはIP
<APN>*　：任意

<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先(APN)を管理する番号です。FOMA端末では1～10を登録できます。お買い上げ時、<cid>=1には「mopera.ne.jp」、<PDP_type>は「PPP」が、<cid>=2には「mopera.net」、<PDP_type>は「PPP」が、<cid>=3には「mopera.net」、<PDP_type>は「IP」が、<cid>=4には「mpr.ex-pkt.net」、<PDP_type>は「PPP」が初期値として登録されていますので、cidは5～10に設定します。<APN>は接続先を示す接続ごとの任意の文字列です。

実行例

「abc」という接続先(APN)名を登録する場合のコマンド(<cid>=2の場合)
AT+CGDCONT=2,"PPP","abc"↵
OK

次ページへ続く▶▶

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGDCONT=

すべての<cid>の設定をクリアします。ただし、<cid>=1～4の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT=<cid>

指定された<cid>の設定をクリアします。ただし、<cid>=1～4の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT=?

設定可能な値のリスト値を表示します。

AT+CGDCONT?

現在の設定値を表示します。

■ コマンド名：+CGEQMIN=[パラメータ]

概要

PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。

AT&Wコマンド でFOMA端末に記憶されません。AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。

書式

AT+CGEQMIN=[<cid> [,, <Maximum bitrate UL> [, <Maximum bitrate DL>[,,,,<Maximum SDU size>]]]]↵

パラメータ説明

<cid>＊ ：1～10

<Maximum bitrate UL>＊ ：なし（初期値）または5760

<Maximum bitrate DL>＊ ：なし（初期値）または7232

<Maximum SDU size>＊

<PDP_type>がPPPの場合：10（初期値）～1500または1502

<PDP_type>がIPの場合 ：10（初期値）～1500

<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。[Maximum bitrate UL]および[Maximum bitrate DL]では、FOMA端末と基地局間の上りおよび下りの最大通信速度（kbps）を設定します。[なし（お買い上げ時）]に設定した場合は、すべての速度を許容しますが、「5760」および「7232」を設定した場合、これらの速度未満の接続は許容されないため、パケット通信が接続されない場合があります。[Maximum SDU size]では、最大許容SDUサイズを設定します。「10（初期値）～1500または1502」を設定したときは、これらの値未満の接続は許容されないため、パケット通信が接続できないことがありますのでご注意ください。また、「70」未満の接続に関しては接続できませんのでご注意ください。

実行例

（1）の設定が各cidに初期値として設定されています。

（1）上り／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（<cid>=2の場合）
AT+CGEQMIN=2↵
OK

（2）上り5760kbps／下り7232kbpsかつ最大許容SDUサイズ1500を許容する場合のコマンド（<cid>=3の場合）
AT+CGEQMIN=3,,5760,7232,,,,1500↵
OK

（3）上り5760kbps／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（<cid>=4の場合）
AT+CGEQMIN=4,,5760↵
OK

（4）上りすべての速度／下り7232kbps速度のみ許容する場合のコマンド（<cid>=5の場合）
AT+CGEQMIN=5,,,7232↵
OK

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQMIN=

すべての<cid>の設定をクリアします。

AT+CGEQMIN=<cid>

指定された<cid>をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQMIN=?

設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQMIN?

現在の設定を表示します。

■ コマンド名：+CGEQREQ=[パラメータ]

概要

PPPパケット通信時の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。
AT&WコマンドでFOMA端末に記憶されません。AT&F、ATZコマンドによるリセットも行われません。

書式

AT+CGEQREQ=[<cid> [,<Traffic class> [,<Maximum bitrate UL> [,<Maximum bitrate DL> [,,,,<Maximum SDU size>]]]]]⏎

パラメータ説明

各cidにはその内容がお買い上げ時に設定されています。

<cid>* ：1～10

<Traffic class>* ：2または3

2：interactive（初期値）

3：background

<Maximum bitrate UL>* ：なし（初期値）または64～5760

<Maximum bitrate DL>* ：なし（初期値）または64～7232

ただし、[Maximum bitrate UL][Maximum bitrate DL]は許容範囲であっても端数を切り捨てた値が設定されることがあります。

<Maximum SDU size>*

<PDP_type>がPPPの場合：10～1500または1502（初期値）

<PDP_type>がIPの場合 ：10～1500（初期値）

<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。

実行例

（1）の設定が各cidに初期値として設定されています。

（1）上り／下りの速度を設定せず、接続を要求する場合のコマンド（<cid>=2、Traffic class=2の場合）

AT+CGEQREQ=2
OK

（2）上り5760kbps／下り7232kbpsかつ最大許容SDUサイズ1500で接続を要求する場合のコマンド（<cid>=3、Traffic class=2の場合）

AT+CGEQREQ=3,2,5760,7232,,,,1500
OK

（3）上り5760kbps／下りの速度を指定せず、接続を要求する場合のコマンド（<cid>=4、Traffic class=2の場合）

AT+CGEQREQ=4,2,5760
OK

（4）上りの速度を指定せずに下り7232kbpsで接続を要求する場合のコマンド（<cid>=5、Traffic class=2の場合）

AT+CGEQREQ=5,2,,7232
OK

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQREQ=
すべての<cid>をお買い上げ時の状態に戻します。
AT+CGEQREQ=<cid>
指定された<cid>をお買い上げ時の状態に戻します。
AT+CGEQREQ=?
設定可能な値のリスト値を表示します。
AT+CGEQREQ?
現在の設定を表示します。

リザルトコード

■ リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手側と接続しました。
2	RING	着信を検出しました。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
7	BUSY	話中音の検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウトしました。

次ページへ続く

数字表示	文字表示	意　味
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
5	CONNECT 1200	FOMA端末－PC間速度1200bpsで接続しました。
10	CONNECT 2400	FOMA端末－PC間速度2400bpsで接続しました。
11	CONNECT 4800	FOMA端末－PC間速度4800bpsで接続しました。
13	CONNECT 7200	FOMA端末－PC間速度7200bpsで接続しました。
12	CONNECT 9600	FOMA端末－PC間速度9600bpsで接続しました。
15	CONNECT 14400	FOMA端末－PC間速度14400bpsで接続しました。
16	CONNECT 19200	FOMA端末－PC間速度19200bpsで接続しました。
17	CONNECT 38400	FOMA端末－PC間速度38400bpsで接続しました。
18	CONNECT 57600	FOMA端末－PC間速度57600bpsで接続しました。
19	CONNECT 115200	FOMA端末－PC間速度115200bpsで接続しました。
20	CONNECT 230400	FOMA端末－PC間速度230400bpsで接続しました。
21	CONNECT 460800	FOMA端末－PC間速度460800bpsで接続しました。

- リザルトコードは、ATV<n>コマンド(☞P.39)がn=1に設定されている場合は英文字表記(初期値)、n=0に設定されている場合は数字表記で表示されます。
- 従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため、通信速度は表示します。ただし、FOMA端末－PC間はFOMA 充電機能付USB接続ケーブル 02(別売)やBluetooth機能を利用して接続されているため、実際の接続速度と異なります。
- [RESTRICTION](数字:100)が表示された場合は、通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。

通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	64Kデータ通信で接続
5	PACKET	パケット通信で接続

リザルトコード表示例

ATX0が設定されている場合

AT¥V<n>コマンド(☞P.41)の設定にかかわらず、接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例:　ATD*99***1#
　CONNECT

数字表示例:　ATD*99***1#
　1

ATX1が設定されている場合

●ATX1、AT¥V0が設定されている場合(初期値)

接続完了のときに、CONNECT＜FOMA端末－PC間の速度＞の書式で表示します。

文字表示例:　ATD*99***1#
　CONNECT 460800

数字表示例:　ATD*99***1#
　1 21

●ATX1、AT¥V1が設定されている場合※

接続完了のときに、次の書式で表示します。

CONNECT＜FOMA端末－PC間の速度＞PACKET＜接続先(APN)＞／＜上り方向(FOMA端末→無線基地局間)の最高速度＞／＜下り方向(FOMA端末←無線基地局間)の最高速度＞

文字表示例:　ATD*99***1#
　CONNECT 460800 PACKET mopera.ne.jp/5760/7232
　(mopera.ne.jpに、上り最大5760kbps、下り最大7232kbpsで接続したことを表す)

数字表示例:　ATD*99***1#
　1 21 5

※ ATX1、AT¥V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しく行えない場合があります。AT¥V0のみでのご利用をおすすめします。

区点コード一覧

'10.11（1版）

4桁の区点コードを利用して漢字やひらがな、カタカナ、記号、英数字などを入力できます。

- 区点コードとは、漢字などの文字ひとつひとつに付けられている固有の番号です。
  区点コードでの入力のしかたについては、取扱説明書の「区点コードで入力する」を参照してください。
- 区点コード一覧で該当する文字がない区点コードを入力すると、何も入力されないか、またはスペースが入力されます。
- 区点コード一覧の表示は、実際の表示と見えかたが異なるものがあります。

区点	区点4桁目									
1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
010		(スペース)	、	。	，	．	・	：	；	？
011	！	゛	゜	´	｀	¨	＾	￣	＿	ヽ
012	ヾ	ゝ	ゞ	〃	仝	々	〆	〇	ー	―
013	‐	／	＼	～	∥	｜	…	‥	‘	’
014	“	”	（	）	〔	〕	［	］	｛	｝
015	〈	〉	《	》	「	」	『	』	【	】
016	＋	－	±	×	÷	＝	≠	＜	＞	≦
017	≧	∞	∴	♂	♀	°	′	″	℃	￥
018	＄	￠	￡	％	＃	＆	＊	＠	§	☆
019	★	○	●	◎	◇					
020		◆	□	■	△	▲	▽	▼	※	〒
021	→	←	↑	↓	〓					
022							∈	∋	⊆	⊇
023	⊂	⊃	∪	∩						
024			∧	∨	￢	⇒	⇔	∀	∃	
026	∠	⊥	⌒	∂	∇	≡	≒	≪	≫	√
027	∽	∝	∵	∫	∬					
028			Å	‰	♯	♭	♪	†	‡	¶
029					◯					
031							0	1	2	3
032	4	5	6	7	8	9				
033				A	B	C	D	E	F	G
034	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
035	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	
036						a	b	c	d	e
037	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
038	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y
039	z									
040		ぁ	あ	ぃ	い	ぅ	う	ぇ	え	ぉ
041	お	か	が	き	ぎ	く	ぐ	け	げ	こ
042	ご	さ	ざ	し	じ	す	ず	せ	ぜ	そ
043	ぞ	た	だ	ち	ぢ	っ	つ	づ	て	で
044	と	ど	な	に	ぬ	ね	の	は	ば	ぱ
045	ひ	び	ぴ	ふ	ぶ	ぷ	へ	べ	ぺ	ほ
046	ぼ	ぽ	ま	み	む	め	も	ゃ	や	ゅ
047	ゆ	ょ	よ	ら	り	る	れ	ろ	ゎ	わ
048	ゐ	ゑ	を	ん						
050		ァ	ア	ィ	イ	ゥ	ウ	ェ	エ	ォ
051	オ	カ	ガ	キ	ギ	ク	グ	ケ	ゲ	コ
052	ゴ	サ	ザ	シ	ジ	ス	ズ	セ	ゼ	ソ
053	ゾ	タ	ダ	チ	ヂ	ッ	ツ	ヅ	テ	デ
054	ト	ド	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	バ	パ
055	ヒ	ビ	ピ	フ	ブ	プ	ヘ	ベ	ペ	ホ
056	ボ	ポ	マ	ミ	ム	メ	モ	ャ	ヤ	ュ
057	ユ	ョ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ヮ	ワ
058	ヰ	ヱ	ヲ	ン	ヴ	ヵ	ヶ			
060		Α	Β	Γ	Δ	Ε	Ζ	Η	Θ	Ι
061	Κ	Λ	Μ	Ν	Ξ	Ο	Π	Ρ	Σ	Τ
062	Υ	Φ	Χ	Ψ	Ω					
063				α	β	γ	δ	ε	ζ	η
064	θ	ι	κ	λ	μ	ν	ξ	ο	π	ρ
065	σ	τ	υ	φ	χ	ψ	ω			
070		А	Б	В	Г	Д	Е	Ё	Ж	З
071	И	Й	К	Л	М	Н	О	П	Р	С
072	Т	У	Ф	Х	Ц	Ч	Ш	Щ	Ъ	Ы

区点	区点4桁目									
1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
073	Ь	Э	Ю	Я						
074										а
075	б	в	г	д	е	ё	ж	з	и	й
076	к	л	м	н	о	п	р	с	т	у
077	ф	х	ц	ч	ш	щ	ъ	ы	ь	э
078	ю	я								
080		─	│	┌	┐	┘	└	├	┬	┤
081	┴	┼	━	┃	┏	┓	┛	┗	┣	┳
082	┫	┻	╋	┠	┯	┨	┷	┿	┝	┰
083	┥	┸	╂							
130		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
131	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
132	⑳	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ
133	Ⅹ		㍉	㌔	㌢	㍍	㌘	㌧	㌃	㌶
134	㍑	㍗	㌍	㌦	㌣	㌫	㍊	㌻	㎜	㎝
135	㎞	㎎	㎏	㏄	㎡					
136				㍻	〝	〟	№	㏍	℡	㊤
137	㊥	㊦	㊧	㊨	㈱	㈲	㈹	㍾	㍽	㍼
138	≒	≡	∫	∮	∑	√	⊥	∠	∟	⊿
139	∵	∩	∪							
あ										
160		亜	唖	娃	阿	哀	愛	挨	姶	逢
161	葵	茜	穐	悪	握	渥	旭	葦	芦	鯵
162	梓	圧	斡	扱	宛	姐	虻	飴	絢	綾
163	鮎	或	粟	袷	安	庵	按	暗	案	闇
164	鞍	杏								
い										
164			以	伊	位	依	偉	囲	夷	委
165	威	尉	惟	意	慰	易	椅	為	畏	異
166	移	維	緯	胃	萎	衣	謂	違	遺	医
167	井	亥	域	育	郁	磯	一	壱	溢	逸
168	稲	茨	芋	鰯	允	印	咽	員	因	姻
169	引	飲	淫	胤	蔭					
170		院	陰	隠	韻	吋				
う										
170							右	宇	烏	羽
171	迂	雨	卯	鵜	窺	丑	碓	臼	渦	嘘
172	唄	欝	蔚	鰻	姥	厩	浦	瓜	閏	噂
173	云	運	雲							
え										
173				荏	餌	叡	営	嬰	影	映
174	曳	栄	永	泳	洩	瑛	盈	穎	頴	英
175	衛	詠	鋭	液	疫	益	駅	悦	謁	越
176	閲	榎	厭	円	園	堰	奄	宴	延	怨
177	掩	援	沿	演	炎	焔	煙	燕	猿	縁
178	艶	苑	薗	遠	鉛	鴛	塩			
お										
178								於	汚	甥
179	凹	央	奥	往	応					
180		押	旺	横	欧	殴	王	翁	襖	鴬
181	鴎	黄	岡	沖	荻	億	屋	憶	臆	桶
182	牡	乙	俺	卸	恩	温	穏	音		
か										
182									下	化
183	仮	何	伽	価	佳	加	可	嘉	夏	嫁
184	家	寡	科	暇	果	架	歌	河	火	珂
185	禍	禾	稼	箇	花	苛	茄	荷	華	菓
186	蝦	課	嘩	貨	迦	過	霞	蚊	俄	峨

区点	区点4桁目									
1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
187	我	牙	画	臥	芽	蛾	賀	雅	餓	駕
188	介	会	解	回	塊	壊	廻	快	怪	悔
189	恢	懐	戒	拐	改					
190		魁	晦	械	海	灰	界	皆	絵	芥
191	蟹	開	階	貝	凱	劾	外	咳	害	崖
192	慨	概	涯	碍	蓋	街	該	鎧	骸	浬
193	馨	蛙	垣	柿	蛎	鈎	劃	嚇	各	廓
194	拡	撹	格	核	殻	獲	確	穫	覚	角
195	赫	較	郭	閣	隔	革	学	岳	楽	額
196	顎	掛	笠	樫	橿	梶	鰍	潟	割	喝
197	恰	括	活	渇	滑	葛	褐	轄	且	鰹
198	叶	椛	樺	鞄	株	兜	竃	蒲	釜	鎌
199	噛	鴨	栢	茅	萱					
200		粥	刈	苅	瓦	乾	侃	冠	寒	刊
201	勘	勧	巻	喚	堪	姦	完	官	寛	干
202	幹	患	感	慣	憾	換	敢	柑	桓	棺
203	款	歓	汗	漢	澗	潅	環	甘	監	看
204	竿	管	簡	緩	缶	翰	肝	艦	莞	観
205	諌	貫	還	鑑	間	閑	関	陥	韓	館
206	舘	丸	含	岸	巌	玩	癌	眼	岩	翫
207	贋	雁	頑	顔	願					
き										
207						企	伎	危	喜	器
208	基	奇	嬉	寄	岐	希	幾	忌	揮	机
209	旗	既	期	棋	棄					
210		機	帰	毅	気	汽	畿	祈	季	稀
211	紀	徽	規	記	貴	起	軌	輝	飢	騎
212	鬼	亀	偽	儀	妓	宜	戯	技	擬	欺
213	犠	疑	祇	義	蟻	誼	議	掬	菊	鞠
214	吉	吃	喫	桔	橘	詰	砧	杵	黍	却
215	客	脚	虐	逆	丘	久	仇	休	及	吸
216	宮	弓	急	救	朽	求	汲	泣	灸	球
217	究	窮	笈	級	糾	給	旧	牛	去	居
218	巨	拒	拠	挙	渠	虚	許	距	鋸	漁
219	禦	魚	亨	享	京					
220		供	侠	僑	兇	競	共	凶	協	匡
221	卿	叫	喬	境	峡	強	彊	怯	恐	恭
222	挟	教	橋	況	狂	狭	矯	胸	脅	興
223	蕎	郷	鏡	響	饗	驚	仰	凝	尭	暁
224	業	局	曲	極	玉	桐	粁	僅	勤	均
225	巾	錦	斤	欣	欽	琴	禁	禽	筋	緊
226	芹	菌	衿	襟	謹	近	金	吟	銀	
く										
226										九
227	倶	句	区	狗	玖	矩	苦	躯	駆	駈
228	駒	具	愚	虞	喰	空	偶	寓	遇	隅
229	串	櫛	釧	屑	屈					
230		掘	窟	沓	靴	轡	窪	熊	隈	粂
231	栗	繰	桑	鍬	勲	君	薫	訓	群	軍
232	郡									
け										
232		卦	袈	祁	係	傾	刑	兄	啓	圭
233	珪	型	契	形	径	恵	慶	慧	憩	掲
234	携	敬	景	桂	渓	畦	稽	系	経	継
235	繋	罫	茎	荊	蛍	計	詣	警	軽	頚
236	鶏	芸	迎	鯨	劇	戟	撃	激	隙	桁
237	傑	欠	決	潔	穴	結	血	訣	月	件
238	倹	倦	健	兼	券	剣	喧	圏	堅	嫌
239	建	憲	懸	拳	捲					
240		検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県

区点 1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
241	肩	見	謙	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験
242	鹸	元	原	厳	幻	弦	減	源	玄	現
243	絃	舷	言	諺	限					
	こ									
243						乎	個	古	呼	固
244	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯	湖	狐
245	糊	袴	股	胡	菰	虎	誇	跨	鈷	雇
246	顧	鼓	五	互	伍	午	呉	吾	娯	後
247	御	悟	梧	檎	瑚	碁	語	誤	護	醐
248	乞	鯉	交	佼	侯	候	倖	光	公	功
249	効	勾	厚	口	向					
250		后	喉	坑	垢	好	孔	孝	宏	工
251	巧	巷	幸	広	庚	康	弘	恒	慌	抗
252	拘	控	攻	昂	晃	更	杭	校	梗	構
253	江	洪	浩	港	溝	甲	皇	硬	稿	糠
254	紅	紘	絞	綱	耕	考	肯	肱	腔	膏
255	航	荒	行	衡	講	貢	購	郊	酵	鉱
256	砿	鋼	閤	降	項	香	高	鴻	剛	劫
257	号	合	壕	拷	濠	豪	轟	麹	克	刻
258	告	国	穀	酷	鵠	黒	獄	漉	腰	甑
259	忽	惚	骨	狛	込					
260		此	頃	今	困	坤	墾	婚	恨	懇
261	昏	昆	根	梱	混	痕	紺	艮	魂	
	さ									
261										些
262	佐	叉	唆	嵯	左	差	査	沙	瑳	砂
263	詐	鎖	裟	坐	座	挫	債	催	再	最
264	哉	塞	妻	宰	彩	才	採	栽	歳	済
265	災	采	犀	砕	砦	祭	斎	細	菜	裁
266	載	際	剤	在	材	罪	財	冴	坂	阪
267	堺	榊	肴	咲	崎	埼	碕	鷺	作	削
268	咋	搾	昨	朔	柵	窄	策	索	錯	桜
269	鮭	笹	匙	冊	刷					
270		察	拶	撮	擦	札	殺	薩	雑	皐
271	鯖	捌	錆	鮫	皿	晒	三	傘	参	山
272	惨	撒	散	桟	燦	珊	産	算	纂	蚕
273	讃	賛	酸	餐	斬	暫	残			
	し									
273								仕	仔	伺
274	使	刺	司	史	嗣	四	士	始	姉	姿
275	子	屍	市	師	志	思	指	支	孜	斯
276	施	旨	枝	止	死	氏	獅	祉	私	糸
277	紙	紫	肢	脂	至	視	詞	詩	試	誌
278	諮	資	賜	雌	飼	歯	事	似	侍	児
279	字	寺	慈	持	時					
280		次	滋	治	爾	璽	痔	磁	示	而
281	耳	自	蒔	辞	汐	鹿	式	識	鴫	竺
282	軸	宍	雫	七	叱	執	失	嫉	室	悉
283	湿	漆	疾	質	実	蔀	篠	偲	柴	芝
284	屡	蕊	縞	舎	写	射	捨	赦	斜	煮
285	社	紗	者	謝	車	遮	蛇	邪	借	勺
286	尺	杓	灼	爵	酌	釈	錫	若	寂	弱
287	惹	主	取	守	手	朱	殊	狩	珠	種
288	腫	趣	酒	首	儒	受	呪	寿	授	樹
289	綬	需	囚	収	周					
290		宗	就	州	修	愁	拾	洲	秀	秋
291	終	繍	習	臭	舟	蒐	衆	襲	讐	蹴
292	輯	週	酋	酬	集	醜	什	住	充	十
293	従	戎	柔	汁	渋	獣	縦	重	銃	叔
294	夙	宿	淑	祝	縮	粛	塾	熟	出	術
295	述	俊	峻	春	瞬	竣	舜	駿	准	循
296	旬	楯	殉	淳	準	潤	盾	純	巡	遵
297	醇	順	処	初	所	暑	曙	渚	庶	緒
298	署	書	薯	藷	諸	助	叙	女	序	徐
299	恕	鋤	除	傷	償					
300		勝	匠	升	召	哨	商	唱	嘗	奨
301	妾	娼	宵	将	小	少	尚	庄	床	廠
302	彰	承	抄	招	掌	捷	昇	昌	昭	晶
303	松	梢	樟	樵	沼	消	渉	湘	焼	焦
304	照	症	省	硝	礁	祥	称	章	笑	粧
305	紹	肖	菖	蒋	蕉	衝	裳	訟	証	詔
306	詳	象	賞	醤	鉦	鍾	鐘	障	鞘	上
307	丈	丞	乗	冗	剰	城	場	壌	嬢	常
308	情	擾	条	杖	浄	状	畳	穣	蒸	譲

区点 1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
309	醸	錠	嘱	埴	飾					
310		拭	植	殖	燭	織	職	色	触	食
311	蝕	辱	尻	伸	信	侵	唇	娠	寝	審
312	心	慎	振	新	晋	森	榛	浸	深	申
313	疹	真	神	秦	紳	臣	芯	薪	親	診
314	身	辛	進	針	震	人	仁	刃	塵	壬
315	尋	甚	尽	腎	訊	迅	陣	靭		
	す									
315									笥	諏
316	須	酢	図	厨	逗	吹	垂	帥	推	水
317	炊	睡	粋	翠	衰	遂	酔	錐	錘	随
318	瑞	髄	崇	嵩	数	枢	趨	雛	据	杉
319	椙	菅	頗	雀	裾					
320		澄	摺	寸						
	せ									
320					世	瀬	畝	是	凄	制
321	勢	姓	征	性	成	政	整	星	晴	棲
322	栖	正	清	牲	生	盛	精	聖	声	製
323	西	誠	誓	請	逝	醒	青	静	斉	税
324	脆	隻	席	惜	戚	斥	昔	析	石	積
325	籍	績	脊	責	赤	跡	蹟	碩	切	拙
326	接	摂	折	設	窃	節	説	雪	絶	舌
327	蝉	仙	先	千	占	宣	専	尖	川	戦
328	扇	撰	栓	栴	泉	浅	洗	染	潜	煎
329	煽	旋	穿	箭	線					
330		繊	羨	腺	舛	船	薦	詮	賎	践
331	選	遷	銭	銑	閃	鮮	前	善	漸	然
332	全	禅	繕	膳	糎					
	そ									
332						噌	塑	岨	措	曾
333	曽	楚	狙	疏	疎	礎	祖	租	粗	素
334	組	蘇	訴	阻	遡	鼠	僧	創	双	叢
335	倉	喪	壮	奏	爽	宋	層	匝	惣	想
336	捜	掃	挿	掻	操	早	曹	巣	槍	槽
337	漕	燥	争	痩	相	窓	糟	総	綜	聡
338	草	荘	葬	蒼	藻	装	走	送	遭	鎗
339	霜	騒	像	増	憎					
340		臓	蔵	贈	造	促	側	則	即	息
341	捉	束	測	足	速	俗	属	賊	族	続
342	卒	袖	其	揃	存	孫	尊	損	村	遜
	た									
343	他	多	太	汰	詑	唾	堕	妥	惰	打
344	柁	舵	楕	陀	駄	騨	体	堆	対	耐
345	岱	帯	待	怠	態	戴	替	泰	滞	胎
346	腿	苔	袋	貸	退	逮	隊	黛	鯛	代
347	台	大	第	醍	題	鷹	滝	瀧	卓	啄
348	宅	托	択	拓	沢	濯	琢	託	鐸	濁
349	諾	茸	凧	蛸	只					
350		叩	但	達	辰	奪	脱	巽	竪	辿
351	棚	谷	狸	鱈	樽	誰	丹	単	嘆	坦
352	担	探	旦	歎	淡	湛	炭	短	端	箪
353	綻	耽	胆	蛋	誕	鍛	団	壇	弾	断
354	暖	檀	段	男	談					
	ち									
354						値	知	地	弛	恥
355	智	池	痴	稚	置	致	蜘	遅	馳	築
356	畜	竹	筑	蓄	逐	秩	窒	茶	嫡	着
357	中	仲	宙	忠	抽	昼	柱	注	虫	衷
358	註	酎	鋳	駐	樗	瀦	猪	苧	著	貯
359	丁	兆	凋	喋	寵					
360		帖	帳	庁	弔	張	彫	徴	懲	挑
361	暢	朝	潮	牒	町	眺	聴	脹	腸	蝶
362	調	諜	超	跳	銚	長	頂	鳥	勅	捗
363	直	朕	沈	珍	賃	鎮	陳			
	つ									
363								津	墜	椎
364	槌	追	鎚	痛	通	塚	栂	掴	槻	佃
365	漬	柘	辻	蔦	綴	鍔	椿	潰	坪	壷
366	嬬	紬	爪	吊	釣	鶴				
	て									
366							亭	低	停	偵
367	剃	貞	呈	堤	定	帝	底	庭	廷	弟
368	悌	抵	挺	提	梯	汀	碇	禎	程	締
369	艇	訂	諦	蹄	逓					

区点 1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
370		邸	鄭	釘	鼎	泥	摘	擢	敵	滴
371	的	笛	適	鏑	溺	哲	徹	撤	轍	迭
372	鉄	典	填	天	展	店	添	纏	甜	貼
373	転	顛	点	伝	殿	澱	田	電		
	と									
373									兎	吐
374	堵	塗	妬	屠	徒	斗	杜	渡	登	菟
375	賭	途	都	鍍	砥	砺	努	度	土	奴
376	怒	倒	党	冬	凍	刀	唐	塔	塘	套
377	宕	島	嶋	悼	投	搭	東	桃	梼	棟
378	盗	淘	湯	涛	灯	燈	当	痘	祷	等
379	答	筒	糖	統	到					
380		董	蕩	藤	討	謄	豆	踏	逃	透
381	鐙	陶	頭	騰	闘	働	動	同	堂	導
382	憧	撞	洞	瞳	童	胴	萄	道	銅	峠
383	鴇	匿	得	徳	涜	特	督	禿	篤	毒
384	独	読	栃	橡	凸	突	椴	届	鳶	苫
385	寅	酉	瀞	噸	屯	惇	敦	沌	豚	遁
386	頓	呑	曇	鈍						
	な									
386					奈	那	内	乍	凪	薙
387	謎	灘	捺	鍋	楢	馴	縄	畷	南	楠
388	軟	難	汝							
	に									
388				二	尼	弐	迩	匂	賑	肉
389	虹	廿	日	乳	入					
390		如	尿	韮	任	妊	忍	認		
	ぬ～の									
390									濡	禰
391	祢	寧	葱	猫	熱	年	念	捻	撚	燃
392	粘	乃	廼	之	埜	嚢	悩	濃	納	能
393	脳	膿	農	覗	蚤					
	は									
393						巴	把	播	覇	杷
394	波	派	琶	破	婆	罵	芭	馬	俳	廃
395	拝	排	敗	杯	盃	牌	背	肺	輩	配
396	倍	培	媒	梅	楳	煤	狽	買	売	賠
397	陪	這	蝿	秤	矧	萩	伯	剥	博	拍
398	柏	泊	白	箔	粕	舶	薄	迫	曝	漠
399	爆	縛	莫	駁	麦					
400		函	箱	硲	箸	肇	筈	櫨	幡	肌
401	畑	畠	八	鉢	溌	発	醗	髪	伐	罰
402	抜	筏	閥	鳩	噺	塙	蛤	隼	伴	判
403	半	反	叛	帆	搬	斑	板	氾	汎	版
404	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	釆	煩
405	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	
	ひ									
405										匪
406	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐
407	比	泌	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被
408	誹	費	避	非	飛	樋	簸	備	尾	微
409	枇	毘	琵	眉	美					
410		鼻	柊	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱
411	肘	弼	必	畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐
412	百	謬	俵	彪	標	氷	漂	瓢	票	表
413	評	豹	廟	描	病	秒	苗	錨	鋲	蒜
414	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧	賓	頻
415	敏	瓶								
	ふ									
415			不	付	埠	夫	婦	富	冨	布
416	府	怖	扶	敷	斧	普	浮	父	符	腐
417	膚	芙	譜	負	賦	赴	阜	附	侮	撫
418	武	舞	葡	蕪	部	封	楓	風	葺	蕗
419	伏	副	復	幅	服					
420		福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏
421	物	鮒	分	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮
422	粉	糞	紛	雰	文	聞				
	へ									
422							丙	併	兵	塀
423	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	陛	米	頁
424	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	箆	偏	変
425	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	娩	弁
426	鞭									

区点 1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ほ										
426		保	舗	鋪	圃	捕	歩	甫	補	輔
427	穂	募	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣
428	俸	包	呆	報	奉	宝	峰	峯	崩	庖
429	抱	捧	放	方	朋					
430		法	泡	烹	砲	縫	胞	芳	萌	蓬
431	蜂	褒	訪	豊	邦	鋒	飽	鳳	鵬	乏
432	亡	傍	剖	坊	妨	帽	忘	忙	房	暴
433	望	某	棒	冒	紡	肪	膨	謀	貌	貿
434	鉾	防	吠	頬	北	僕	卜	墨	撲	朴
435	牧	睦	穆	釦	勃	没	殆	堀	幌	奔
436	本	翻	凡	盆						
ま										
436					摩	磨	魔	麻	埋	妹
437	昧	枚	毎	哩	槙	幕	膜	枕	鮪	柾
438	鱒	桝	亦	俣	又	抹	末	沫	迄	侭
439	繭	麿	万	慢	満					
440		漫	蔓							
み										
440				味	未	魅	巳	箕	岬	密
441	蜜	湊	蓑	稔	脈	妙	粍	民	眠	
む										
441										務
442	夢	無	牟	矛	霧	鵡	椋	婿	娘	
め										
442										冥
443	名	命	明	盟	迷	銘	鳴	姪	牝	滅
444	免	棉	綿	緬	面	麺				
も										
444							摸	模	茂	妄
445	孟	毛	猛	盲	網	耗	蒙	儲	木	黙
446	目	杢	勿	餅	尤	戻	籾	貰	問	悶
447	紋	門	匁							
や										
447				也	冶	夜	爺	耶	野	弥
448	矢	厄	役	約	薬	訳	躍	靖	柳	薮
449	鑓									
ゆ										
449		愉	愈	油	癒					
450		諭	輸	唯	佑	優	勇	友	宥	幽
451	悠	憂	揖	有	柚	湧	涌	猶	猷	由
452	祐	裕	誘	遊	邑	郵	雄	融	夕	
よ										
452										予
453	余	与	誉	輿	預	傭	幼	妖	容	庸
454	揚	揺	擁	曜	楊	様	洋	溶	熔	用
455	窯	羊	耀	葉	蓉	要	謡	踊	遥	陽
456	養	慾	抑	欲	沃	浴	翌	翼	淀	
ら										
456										羅
457	螺	裸	来	莱	頼	雷	洛	絡	落	酪
458	乱	卵	嵐	欄	濫	藍	蘭	覧		
り										
458									利	吏
459	履	李	梨	理	璃					
460		痢	裏	裡	里	離	陸	律	率	立
461	葎	掠	略	劉	流	溜	琉	留	硫	粒
462	隆	竜	龍	侶	慮	旅	虜	了	亮	僚
463	両	凌	寮	料	梁	涼	猟	療	瞭	稜
464	糧	良	諒	遼	量	陵	領	力	緑	倫
465	厘	林	淋	燐	琳	臨	輪	隣	鱗	麟
る～れ										
466	瑠	塁	涙	累	類	令	伶	例	冷	励
467	嶺	怜	玲	礼	苓	鈴	隷	零	霊	麗
468	齢	暦	歴	列	劣	烈	裂	廉	恋	憐
469	漣	煉	簾	練	聯					
470		蓮	連	錬						
ろ										
470					呂	魯	櫓	炉	賂	路
471	露	労	婁	廊	弄	朗	楼	榔	浪	漏
472	牢	狼	篭	老	聾	蝋	郎	六	麓	禄
473	肋	録	論							
わ										
473				倭	和	話	歪	賄	脇	惑

区点 1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
474	枠	鷲	亙	亘	鰐	詫	藁	蕨	椀	湾
475	碗	腕								
476										
477										
478										
479										
480		弌	丐	丕	个	丱	丶	丼	丿	乂
481	乖	乘	亂	亅	豫	亊	舒	弍	于	亞
482	亟	亠	亢	亰	亳	亶	从	仍	仄	仆
483	仂	仗	仞	仭	仟	价	伉	佚	估	佛
484	佝	佗	佇	佶	侈	侏	侘	佻	佩	佰
485	侑	佯	來	侖	儘	俔	俟	俎	俘	俛
486	俑	俚	俐	俤	俥	倚	倨	倔	倪	倥
487	倅	伜	俶	倡	倩	倬	俾	俯	們	倆
488	偃	假	會	偕	偐	偈	做	偖	偬	偸
489	傀	傚	傅	傴	傲					
490		僉	僊	傳	僂	僖	僞	僥	僭	僣
491	僮	價	僵	儉	儁	儂	儖	儕	儔	儚
492	儡	儺	儷	儼	儻	儿	兀	兒	兌	兔
493	兢	竸	兩	兪	兮	冀	冂	囘	册	冉
494	冏	冑	冓	冕	冖	冤	冦	冢	冩	冪
495	冫	决	冱	冲	冰	况	冽	凅	凉	凛
496	几	處	凩	凭	凰	凵	凾	刄	刋	刔
497	刎	刧	刪	刮	刳	刹	剏	剄	剋	剌
498	剞	剔	剪	剴	剩	剳	剿	剽	劍	劔
499	劒	剱	劈	劑	辨					
500		辧	劬	劭	劼	劵	勁	勍	勗	勞
501	勣	勦	飭	勠	勳	勵	勸	勹	匆	匈
502	甸	匍	匐	匏	匕	匚	匣	匯	匱	匳
503	匸	區	卆	卅	丗	卉	卍	凖	卞	卩
504	卮	夘	卻	卷	厂	厖	厠	厦	厥	厮
505	厰	厶	參	簒	雙	叟	曼	燮	叮	叨
506	叭	叺	吁	吽	呀	听	吭	吼	吮	吶
507	吩	吝	呎	咏	呵	咎	呟	呱	呷	呰
508	咒	呻	咀	呶	咄	咐	咆	哇	咢	咸
509	咥	咬	哄	哈	咨					
510		咫	哂	咤	咾	咼	哘	哥	哦	唏
511	唔	哽	哮	哭	哺	哢	唹	啀	啣	啌
512	售	啜	啅	啖	啗	唸	唳	啝	喙	喀
513	咯	喊	喟	啻	啾	喘	喞	單	啼	喃
514	喩	喇	喨	嗚	嗅	嗟	嗄	嗜	嗤	嗔
515	嘔	嗷	嘖	嗾	嗽	嘛	嗹	噎	噐	營
516	嘴	嘶	嘲	嘸	噫	噤	嘯	噬	噪	嚆
517	嚀	嚊	嚠	嚔	嚏	嚥	嚮	嚶	嚴	囂
518	嚼	囁	囃	囀	囈	囎	囑	囓	囗	囮
519	囹	圀	囿	圄	圉					
520		圈	國	圍	圓	團	圖	嗇	圜	圦
521	圷	圸	坎	圻	址	坏	坩	埀	垈	坡
522	坿	垉	垓	垠	垳	垤	垪	垰	埃	埆
523	埔	埒	埓	堊	埖	埣	堋	堙	堝	塲
524	堡	塢	塋	塰	毀	塒	堽	塹	墅	墹
525	墟	墫	墺	壞	墻	墸	墮	壅	壓	壑
526	壗	壙	壘	壥	壜	壤	壟	壯	壺	壹
527	壻	壼	壽	夂	夊	夐	夛	梦	夥	夬
528	夭	夲	夸	夾	竒	奕	奐	奎	奚	奘
529	奢	奠	奧	奬	奩					
530		奸	妁	妝	佞	侫	妣	妲	姆	姨
531	姜	妍	姙	姚	娥	娟	娑	娜	娉	娚
532	婀	婬	婉	娵	娶	婢	婪	媚	媼	媾
533	嫋	嫂	媽	嫣	嫗	嫦	嫩	嫖	嫺	嫻
534	嬌	嬋	嬖	嬲	嫐	嬪	嬶	嬾	孃	孅
535	孀	孑	孕	孚	孛	孥	孩	孰	孳	孵
536	學	斈	孺	宀	它	宦	宸	寃	寇	寉
537	寔	寐	寤	實	寢	寞	寥	寫	寰	寶
538	寳	尅	將	專	對	尓	尠	尢	尨	尸
539	尹	屁	屆	屎	屓					
540		屐	屏	孱	屬	屮	乢	屶	屹	岌
541	岑	岔	妛	岫	岻	岶	岼	岷	峅	岾
542	峇	峙	峩	峽	峺	峭	嶌	峪	崋	崕
543	崗	嵜	崟	崛	崑	崔	崢	崚	崙	崘
544	嵌	嵒	嵎	嵋	嵬	嵳	嵶	嶇	嶄	嶂
545	嶢	嶝	嶬	嶮	嶽	嶐	嶷	嶼	巉	巍
546	巓	巒	巖	巛	巫	已	巵	帋	帚	帙
547	帑	帛	帶	帷	幄	幃	幀	幎	幗	幔

区点 1～3桁目	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
548	幟	幢	幤	幇	幵	并	幺	麼	广	庠
549	廁	廂	廈	廐	廏					
550		廖	廣	廝	廚	廛	廢	廡	廨	廩
551	廬	廱	廳	廰	廴	廸	廾	弃	弉	彝
552	彜	弋	弑	弖	弩	弭	弸	彁	彈	彌
553	彎	弯	彑	彖	彗	彙	彡	彭	彳	彷
554	徃	徂	彿	徊	很	徑	徇	從	徙	徘
555	徠	徨	徭	徼	忖	忻	忤	忸	忱	忝
556	悳	忿	怡	恠	怙	怐	怩	怎	怱	怛
557	怕	怫	怦	怏	怺	恚	恁	恪	恷	恟
558	恊	恆	恍	恣	恃	恤	恂	恬	恫	恙
559	悁	悍	惧	悃	悚					
560		悄	悛	悖	悗	悒	悧	悋	惡	悸
561	惠	惓	悴	忰	悽	惆	悵	惘	慍	愕
562	愆	惶	惷	愀	惴	惺	愃	愡	惻	惱
563	愍	愎	慇	愾	愨	愧	慊	愿	愼	愬
564	愴	愽	慂	慄	慳	慷	慘	慙	慚	慫
565	慴	慯	慥	慱	慟	慝	慓	慵	憙	憖
566	憇	憬	憔	憚	憊	憑	憫	憮	懌	懊
567	應	懷	懈	懃	懆	憺	懋	罹	懍	懦
568	懣	懶	懺	懴	懿	懽	懼	懾	戀	戈
569	戉	戍	戌	戔	戛					
570		戞	戡	截	戮	戰	戲	戳	扁	扎
571	扞	扣	扛	扠	扨	扼	抂	抉	找	抒
572	抓	抖	拔	抃	抔	拗	拑	抻	拏	拿
573	拆	擔	拈	拜	拌	拊	拂	拇	抛	拉
574	挌	拮	拱	挧	挂	挈	拯	拵	捐	挾
575	捍	搜	捏	掖	掎	掀	掫	捶	掣	掏
576	掉	掟	掵	捫	捩	掾	揩	揀	揆	揣
577	揉	插	揶	揄	搖	搴	搆	搓	搦	搶
578	攝	搗	搨	搏	摧	摯	摶	摎	攪	撕
579	撓	撥	撩	撈	撼					
580		據	擒	擅	擇	撻	擘	擂	擱	擧
581	舉	擠	擡	抬	擣	擯	攬	擶	擴	擲
582	擺	攀	擽	攘	攜	攅	攤	攣	攫	攴
583	攵	攷	收	攸	畋	效	敖	敕	敍	敘
584	敞	敝	敲	數	斂	斃	變	斛	斟	斫
585	斷	旃	旆	旁	旄	旌	旒	旛	旙	无
586	旡	旱	杲	昊	昃	旻	杳	昵	昶	昴
587	昜	晏	晄	晉	晁	晞	晝	晤	晧	晨
588	晟	晢	晰	暃	暈	暎	暉	暄	暘	暝
589	曁	暹	曉	暾	暼					
590		曄	暸	曖	曚	曠	昿	曦	曩	曰
591	曵	曷	朏	朖	朞	朦	朧	霸	朮	朿
592	朶	杁	朸	朷	杆	杞	杠	杙	杣	杤
593	枉	杰	枩	杼	杪	枌	枋	枦	枡	枅
594	枷	柯	枴	柬	枳	柩	枸	柤	柞	柝
595	柢	柮	枹	柎	柆	柧	檜	栞	框	栩
596	桀	桍	栲	桎	梳	栫	桙	档	桷	桿
597	梟	梏	梭	梔	條	梛	梃	檮	梹	桴
598	梵	梠	梺	椏	梍	桾	椁	棊	椈	棘
599	椢	椦	棡	椌	棍					
600		棔	棧	棕	椶	椒	椄	棗	棣	椥
601	棹	棠	棯	椨	椪	椚	椣	椡	棆	楹
602	楷	楜	楸	楫	楔	楾	楮	椹	楴	椽
603	楙	椰	楡	楞	楝	榁	楪	榲	榮	槐
604	榿	槁	槓	榾	槎	寨	槊	槝	榻	槃
605	榧	樮	榑	榠	榜	榕	榴	槞	槨	樂
606	樛	槿	權	槹	槲	槧	樅	榱	樞	槭
607	樔	槫	樊	樒	櫁	樣	樓	橄	樌	橲
608	樶	橸	橇	橢	橙	橦	橈	樸	樢	檐
609	檍	檠	檄	檢	檣					
610		檗	蘗	檻	櫃	櫂	檸	檳	檬	櫞
611	櫑	櫟	檪	櫚	櫪	櫻	欅	蘖	櫺	欒
612	欖	鬱	欟	欸	欷	盜	欹	飮	歇	歃
613	歉	歐	歙	歔	歛	歟	歡	歸	歹	歿
614	殀	殄	殃	殍	殘	殕	殞	殤	殪	殫
615	殯	殲	殱	殳	殷	殼	毆	毋	毓	毟
616	毬	毫	毳	毯	麾	氈	氓	气	氛	氤
617	氣	汞	汕	汢	汪	沂	沍	沚	沁	沛
618	汾	汨	汳	沒	沐	泄	泱	泓	沽	泗
619	泅	泝	沮	沱	沾					
620		沺	泛	泯	泙	泪	洟	衍	洶	洫
621	洽	洸	洙	洵	洳	洒	洌	浣	涓	浤

区点 1～3桁目	区点4桁目									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
622	浚	浹	浙	涎	涕	濤	涅	淹	渕	渊
623	涵	淇	淦	涸	淆	淬	淞	淌	淨	淒
624	淅	淺	淙	淤	淕	淪	淮	渭	湮	渮
625	渙	湲	湟	渾	渣	湫	渫	湶	湍	渟
626	湃	渺	湎	渤	滿	渝	游	溂	溪	溘
627	滉	溷	滓	溽	溯	滄	溲	滔	滕	溏
628	溥	滂	溟	潁	漑	灌	滬	滸	滾	漿
629	滲	漱	滯	漲	滌					
630		漾	漓	滷	澆	潺	潸	澁	澀	潯
631	潛	濳	潭	澂	潼	潘	澎	澑	濂	潦
632	澳	澣	澡	澤	澹	濆	澪	濟	濕	濬
633	濔	濘	濱	濮	濛	瀉	瀋	濺	瀑	瀁
634	瀏	濾	瀛	瀚	潴	瀝	瀘	瀟	瀰	瀾
635	瀲	灑	灣	炙	炒	炯	烱	炬	炸	炳
636	炮	烟	烋	烝	烙	焉	烽	焜	焙	煥
637	煕	熈	煦	煢	煌	煖	煬	熏	燻	熄
638	熕	熨	熬	燗	熹	熾	燒	燉	燔	燎
639	燠	燬	燧	燵	燼					
640		燹	燿	爍	爐	爛	爨	爭	爬	爰
641	爲	爻	爼	爿	牀	牆	牋	牘	牴	牾
642	犂	犁	犇	犒	犖	犢	犧	犹	犲	狃
643	狆	狄	狎	狒	狢	狠	狡	狹	狷	倏
644	猗	猊	猜	猖	猝	猴	猯	猩	猥	猾
645	獎	獏	默	獗	獪	獨	獰	獸	獵	獻
646	獺	珈	玳	珎	玻	珀	珥	珮	珞	璢
647	琅	瑯	琥	珸	琲	琺	瑕	琿	瑟	瑙
648	瑁	瑜	瑩	瑰	瑣	瑪	瑶	瑾	璋	璞
649	璧	瓊	瓏	瓔	珱					
650		瓠	瓣	瓧	瓩	瓮	瓲	瓰	瓱	瓸
651	瓷	甄	甃	甅	甌	甎	甍	甕	甓	甞
652	甦	甬	甼	畄	畍	畊	畉	畛	畆	畚
653	畩	畤	畧	畫	畭	畸	當	疆	疇	畴
654	疊	疉	疂	疔	疚	疝	疥	疣	痂	疳
655	痃	疵	疽	疸	疼	疱	痍	痊	痒	痙
656	痣	痞	痾	痿	痼	瘁	痰	痺	痲	痳
657	瘋	瘍	瘉	瘟	瘧	瘠	瘡	瘢	瘤	瘴
658	瘰	瘻	癇	癈	癆	癜	癘	癡	癢	癨
659	癩	癪	癧	癬	癰					
660		癲	癶	癸	發	皀	皃	皈	皋	皎
661	皖	皓	皙	皚	皰	皴	皸	皹	皺	盂
662	盍	盖	盒	盞	盡	盥	盧	盪	蘯	盻
663	眈	眇	眄	眩	眤	眞	眥	眦	眛	眷
664	眸	睇	睚	睨	睫	睛	睥	睿	睾	睹
665	瞎	瞋	瞑	瞠	瞞	瞰	瞶	瞹	瞿	瞼
666	瞽	瞻	矇	矍	矗	矚	矜	矣	矮	矼
667	砌	砒	礦	砠	礪	硅	碎	硴	碆	硼
668	碚	碌	碣	碵	碪	碯	磑	磆	磋	磔
669	碾	碼	磅	磊	磬					
670		磧	磚	磽	磴	礇	礒	礑	礙	礬
671	礫	祀	祠	祗	祟	祚	祕	祓	祺	祿
672	禊	禝	禧	齋	禪	禮	禳	禹	禺	秉
673	秕	秧	秬	秡	秣	稈	稍	稘	稙	稠
674	稟	禀	稱	稻	稾	稷	穃	穗	穉	穡
675	穢	穩	龝	穰	穹	穽	窈	窗	窕	窘
676	窖	窩	竈	窰	窶	竅	竄	窿	邃	竇
677	竊	竍	竏	竕	竓	站	竚	竝	竡	竢
678	竦	竭	竰	笂	笏	笊	笆	笳	笘	笙
679	笞	笵	笨	笶	筐					
680		筺	笄	筍	笋	筌	筅	筵	筥	筴
681	筧	筰	筱	筬	筮	箝	箘	箟	箍	箜
682	箚	箋	箒	箏	筝	箙	篋	篁	篌	篏
683	箴	篆	篝	篩	簑	簔	篦	篥	籠	簀
684	簇	簓	篳	篷	簗	簍	篶	簣	簧	簪
685	簟	簷	簫	簽	籌	籃	籔	籏	籀	籐
686	籘	籟	籤	籖	籥	籬	籵	粃	粐	粤
687	粭	粢	粫	粡	粨	粳	粲	粱	粮	粹
688	粽	糀	糅	糂	糘	糒	糜	糢	鬻	糯
689	糲	糴	糶	糺	紆					
690		紂	紜	紕	紊	絅	絋	紮	紲	紿
691	紵	絆	絳	綖	絎	絲	絨	絮	絏	絣
692	經	綉	絛	綏	絽	綛	綺	綮	綣	綵
693	緇	綽	綫	總	綢	綯	緜	綸	綟	綰
694	緘	緝	緤	緞	緻	緲	緡	縅	縊	縣
695	縡	縒	縱	縟	縉	縋	縢	繆	繦	縻
696	縵	縹	繃	縷	縲	縺	繧	繝	繖	繞
697	繙	繚	繹	繪	繩	繼	繻	纃	緕	繽
698	辮	繿	纈	纉	續	纒	纐	纓	纔	纖
699	纎	纛	纜	缸	缺					
700		罅	罌	罍	罎	罐	网	罕	罔	罘
701	罟	罠	罨	罩	罧	罸	羂	羆	羃	羈
702	羇	羌	羔	羞	羝	羚	羣	羯	羲	羹
703	羮	羶	羸	譱	翅	翆	翊	翕	翔	翡
704	翦	翩	翳	翹	飜	耆	耄	耋	耒	耘
705	耙	耜	耡	耨	耿	耻	聊	聆	聒	聘
706	聚	聟	聢	聨	聳	聲	聰	聶	聹	聽
707	聿	肄	肆	肅	肛	肓	肚	肭	冐	肬
708	胛	胥	胙	胝	胄	胚	胖	脉	胯	胱
709	脛	脩	脣	脯	腋					
710		隋	腆	脾	腓	腑	胼	腱	腮	腥
711	腦	腴	膃	膈	膊	膀	膂	膠	膕	膤
712	膣	腟	膓	膩	膰	膵	膾	膸	膽	臀
713	臂	膺	臉	臍	臑	臙	臘	臈	臚	臟
714	臠	臧	臺	臻	臾	舁	舂	舅	與	舊
715	舍	舐	舖	舩	舫	舸	舳	艀	艙	艘
716	艝	艚	艟	艤	艢	艨	艪	艫	舮	艱
717	艷	艸	艾	芍	芒	芫	芟	芻	芬	苡
718	苣	苟	苒	苴	苳	苺	莓	范	苻	苹
719	苞	茆	苜	茉	苙					
720		茵	茴	茖	茲	茱	荀	茹	荐	荅
721	茯	茫	茗	茘	莅	莚	莪	莟	莢	莖
722	茣	莎	莇	莊	荼	莵	荳	荵	莠	莉
723	莨	菴	萓	菫	菎	菽	萃	菘	萋	菁
724	菷	萇	菠	菲	萍	萢	萠	莽	萸	蔆
725	菻	葭	萪	萼	蕚	蒄	葷	葫	蒭	葮
726	蒂	葩	葆	萬	葯	葹	萵	蓊	葢	蒹
727	蒿	蒟	蓙	蓍	蒻	蓚	蓐	蓁	蓆	蓖
728	蒡	蔡	蓿	蓴	蔗	蔘	蔬	蔟	蔕	蔔
729	蓼	蕀	蕣	蕘	蕈					
730		蕁	蘂	蕋	蕕	薀	薤	薈	薑	薊
731	薨	蕭	薔	薛	藪	薇	薜	蕷	蕾	薐
732	藉	薺	藏	薹	藐	藕	藝	藥	藜	藹
733	蘊	蘓	蘋	藾	藺	蘆	蘢	蘚	蘰	蘿
734	虍	乕	虔	號	虧	虱	蚓	蚣	蚩	蚪
735	蚋	蚌	蚶	蚯	蛄	蛆	蚰	蛉	蠣	蚫
736	蛔	蛞	蛩	蛬	蛟	蛛	蛯	蜒	蜆	蜈
737	蜀	蜃	蛻	蜑	蜉	蜍	蛹	蜊	蜴	蜿
738	蜷	蜻	蜥	蜩	蜚	蝠	蝟	蝸	蝌	蝎
739	蝴	蝗	蝨	蝮	蝙					
740		蝓	蝣	蝪	蠅	螢	螟	螂	螯	蟋
741	螽	蟀	蟐	雖	螫	蟄	螳	蟇	蟆	螻
742	蟯	蟲	蟠	蠏	蠍	蟾	蟶	蟷	蠎	蟒
743	蠑	蠖	蠕	蠢	蠡	蠱	蠶	蠹	蠧	蠻
744	衄	衂	衒	衙	衞	衢	衫	袁	衾	袞
745	衵	衽	袵	衲	袂	袗	袒	袮	袙	袢
746	袍	袤	袰	袿	袱	裃	裄	裔	裘	裙
747	裝	裹	褂	裼	裴	裨	裲	褄	褌	褊
748	褓	襃	褞	褥	褪	褫	襁	襄	褻	褶
749	褸	襌	褝	襠	襞					
750		襦	襤	襭	襪	襯	襴	襷	襾	覃
751	覈	覊	覓	覘	覡	覩	覦	覬	覯	覲
752	覺	覽	覿	觀	觚	觜	觝	觧	觴	觸
753	訃	訖	訐	訌	訛	訝	訥	訶	詁	詛
754	詒	詆	詈	詼	詭	詬	詢	誅	誂	誄
755	誨	誡	誑	誥	誦	誚	誣	諄	諍	諂
756	諚	諫	諳	諧	諤	諱	謔	諠	諢	諷
757	諞	諛	謌	謇	謚	諡	謖	謐	謗	謠
758	謳	鞫	謦	謫	謾	謨	譁	譌	譏	譎
759	證	譖	譛	譚	譫					
760		譟	譬	譯	譴	譽	讀	讌	讎	讒
761	讓	讖	讙	讚	谺	豁	谿	豈	豌	豎
762	豐	豕	豢	豬	豸	豺	貂	貉	貅	貊
763	貍	貎	貔	豼	貘	戝	貭	貪	貽	貲
764	貳	貮	貶	賈	賁	賤	賣	賚	賽	賺
765	賻	贄	贅	贊	贇	贏	贍	贐	齎	贓
766	賍	贔	贖	赧	赭	赱	赳	趁	趙	跂
767	趾	趺	跏	跚	跖	跌	跛	跋	跪	跫
768	跟	跣	跼	踈	踉	跿	踝	踞	踐	踟
769	蹂	踵	踰	踴	蹊					
770		蹇	蹉	蹌	蹐	蹈	蹙	蹤	蹠	踪
771	蹣	蹕	蹶	蹲	蹼	躁	躇	躅	躄	躋
772	躊	躓	躑	躔	躙	躪	躡	躬	躰	軆
773	躱	躾	軅	軈	軋	軛	軣	軼	軻	軫
774	軾	輊	輅	輕	輒	輙	輓	輜	輟	輛
775	輌	輦	輳	輻	輹	轅	轂	輾	轌	轉
776	轆	轎	轗	轜	轢	轣	轤	辜	辟	辣
777	辭	辯	辷	迚	迥	迢	迪	迯	邇	迴
778	逅	迹	迺	逑	逕	逡	逍	逞	逖	逋
779	逧	逶	逵	逹	迸					
780		遏	遐	遑	遒	逎	遉	逾	遖	遘
781	遞	遨	遯	遶	隨	遲	邂	遽	邁	邀
782	邊	邉	邏	邨	邯	邱	邵	郢	郤	扈
783	郛	鄂	鄒	鄙	鄲	鄰	酊	酖	酘	酣
784	酥	酩	酳	酲	醋	醉	醂	醢	醫	醯
785	醪	醵	醴	醺	釀	釁	釉	釋	釐	釖
786	釟	釡	釛	釼	釵	釶	鈞	釿	鈔	鈬
787	鈕	鈑	鉞	鉗	鉅	鉉	鉤	鉈	銕	鈿
788	鉋	鉐	銜	銖	銓	銛	鉚	鋏	銹	銷
789	鋩	錏	鋺	鍄	錮					
790		錙	錢	錚	錣	錺	錵	錻	鍜	鍠
791	鍼	鍮	鍖	鎰	鎬	鎭	鎔	鎹	鏖	鏗
792	鏨	鏥	鏘	鏃	鏝	鏐	鏈	鏤	鐚	鐔
793	鐓	鐃	鐇	鐐	鐶	鐫	鐵	鐡	鐺	鑁
794	鑒	鑄	鑛	鑠	鑢	鑞	鑪	鈩	鑰	鑵
795	鑷	鑽	鑚	鑼	鑾	钁	鑿	閂	閇	閊
796	閔	閖	閘	閙	閠	閨	閧	閭	閼	閻
797	閹	閾	闊	濶	闃	闍	闌	闕	闔	闖
798	關	闡	闥	闢	阡	阨	阮	阯	陂	陌
799	陏	陋	陷	陜	陞					
800		陝	陟	陦	陲	陬	隍	隘	隕	隗
801	險	隧	隱	隲	隰	隴	隶	隸	隹	雎
802	雋	雉	雍	襍	雜	霍	雕	雹	霄	霆
803	霈	霓	霎	霑	霏	霖	霙	霤	霪	霰
804	霹	霽	霾	靄	靆	靈	靂	靉	靜	靠
805	靤	靦	靨	勒	靫	靱	靹	鞅	靼	鞁
806	靺	鞆	鞋	鞏	鞐	鞜	鞨	鞦	鞣	鞳
807	鞴	韃	韆	韈	韋	韜	韭	齏	韲	竟
808	韶	韵	頏	頌	頸	頤	頡	頷	頽	顆
809	顏	顋	顫	顯	顰					
810		顱	顴	顳	颪	颯	颱	颶	飄	飃
811	飆	飩	飫	餃	餉	餒	餔	餘	餡	餝
812	餞	餤	餠	餬	餮	餽	餾	饂	饉	饅
813	饐	饋	饑	饒	饌	饕	馗	馘	馥	馭
814	馮	馼	駟	駛	駝	駘	駑	駭	駮	駱
815	駲	駻	駸	騁	騏	騅	駢	騙	騫	騷
816	驅	驂	驀	驃	騾	驕	驍	驛	驗	驟
817	驢	驥	驤	驩	驫	驪	骭	骰	骼	髀
818	髏	髑	髓	體	髞	髟	髢	髣	髦	髯
819	髫	髮	髴	髱	髷					
820		髻	鬆	鬘	鬚	鬟	鬢	鬣	鬥	鬧
821	鬨	鬩	鬪	鬮	鬯	鬲	魄	魃	魏	魍
822	魎	魑	魘	魴	鮓	鮃	鮑	鮖	鮗	鮟
823	鮠	鮨	鮴	鯀	鯊	鮹	鯆	鯏	鯑	鯒
824	鯣	鯢	鯤	鯔	鯡	鰺	鯲	鯱	鯰	鰕
825	鰔	鰉	鰓	鰌	鰆	鰈	鰒	鰊	鰄	鰮
826	鰛	鰥	鰤	鰡	鰰	鱇	鰲	鱆	鰾	鱚
827	鱠	鱧	鱶	鱸	鳧	鳬	鳰	鴉	鴈	鳫
828	鴃	鴆	鴪	鴦	鶯	鴣	鴟	鵄	鴕	鴒
829	鵁	鴿	鴾	鵆	鵈					
830		鵝	鵞	鵤	鵑	鵐	鵙	鵲	鶉	鶇
831	鶫	鵯	鵺	鶚	鶤	鶩	鶲	鷄	鷁	鶻
832	鶸	鶺	鷆	鷏	鷂	鷙	鷓	鷸	鷦	鷭
833	鷯	鷽	鸚	鸛	鸞	鹵	鹹	鹽	麁	麈
834	麋	麌	麒	麕	麑	麝	麥	麩	麸	麪
835	麭	靡	黌	黎	黏	黐	黔	黜	點	黝
836	黠	黥	黨	黯	黴	黶	黷	黹	黻	黼
837	黽	鼇	鼈	皷	鼕	鼡	鼬	鼾	齊	齒
838	齔	齣	齟	齠	齡	齦	齧	齬	齪	齷
839	齲	齶	龕	龜	龠					
840		堯	槇	遙	瑤	凜	熙			